

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第542集

うわ の
上野 I・II・III 遺跡発掘調査報告書

一般国道342号巖美バイパス道路改築事業関連遺跡発掘調査

2009

岩手県県南広域振興局一関総合支局土木部
(財) 岩手県文化振興事業団

上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書

一般国道342号巖美バイパス道路改築事業関連遺跡発掘調査

序

岩手県では旧石器時代をはじめとする一万箇所以上の遺跡の所在が知られており、地中には貴重な埋蔵文化財が豊富にのこされています。地域の風土が生み出したこれらの遺産は、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料であるとともに、岩手県民のみならず国民的な財産といえます。現代に生きる私たちが、これらの埋蔵文化財を将来にわたって大切に保存し、その活用に力を注ぐべきであることは言うまでもありません。

一方、豊かな地域づくりのためには社会資本の整備・充実が必要不可欠であることもまた事実です。故郷の大地と共にある埋蔵文化財の保護と開発行為との調和は、現代社会に暮らしを営む私たちに与えられた大きな課題といえましょう。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を実施し、調査成果を記録化し保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、一般国道342号巖美バイパス改築事業に伴い発掘調査を実施した一関市上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代中期および晩期の遺物や、近世のものと思われる屋敷跡が検出され、当該時代における当地点の様相を明らかにする考古学的資料が得られました。

本書が学術研究や教育活動などに広く活用されることにより、埋蔵文化財への理解と関心が一層深められ、ひいては埋蔵文化財保護思想の涵養に資するものとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県南広域振興局一関総合支局土木部、一関市教育委員会をはじめ、関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成21年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 武田 牧 雄

例 言

- 1 本書は岩手県一関市巖美町字上野229-1ほかに所在する、上野Ⅰ遺跡及び隣接地、上野Ⅱ遺跡、上野Ⅲ遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
- 2 岩手県遺跡台帳における対象遺跡の登録番号は以下の通りである。

上野Ⅰ遺跡 NE95-0181
上野Ⅱ遺跡 NE95-0198
上野Ⅲ遺跡 NE95-0186
- 3 本遺跡の発掘調査は、一般国道342号巖美バイパス道路改築事業に伴い、岩手県教育委員会生涯学習文化課の調整を経て、岩手県県南広域振興局一関総合支局土木部の委託を受けた(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施したものである。
- 4 野外調査を実施した期間・調査面積・調査担当者は下記の通りである。

期 間 平成19年4月11日～平成19年8月30日
面 積 上野Ⅰ遺跡及び隣接地 3049㎡
上野Ⅱ遺跡 2081㎡
上野Ⅲ遺跡 1381㎡
担 当 者 村上 拓・横山寛剛
- 5 室内整理の期間と担当者は下記の通りである。

期 間 平成20年1月16日～平成20年3月31日
担 当 者 村上 拓・横山寛剛
- 6 本文の執筆は以下のとおりである。

岩手県県南広域振興局一関総合支局土木部・・・Ⅰ
村上 拓・・・Ⅳ2(1)・(2)、Ⅳ3(1)・(2)、Ⅴ1・3
横山寛剛・・・Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ1、Ⅳ2(3)、Ⅳ3(3)、Ⅳ4、Ⅳ5、Ⅴ2
- 7 本書中に示した座標値は、平面直角座標第Ⅹ系(世界測地)を用いた。
- 8 各種の分析鑑定は下記の機関に委託した。

石質鑑定 花崗岩研究会
放射性炭素年代測定 株式会社加速器分析研究所
樹種同定 古代の森研究舎
- 9 基準点測量業務は(株)一測設計に委託した。
- 10 野外調査では下記の機関の協力を得た。(順不同)

一関市教育委員会、一関博物館、岩手県教育委員会生涯学習文化課。
- 12 今次調査で得られた出土遺物および諸記録類の一切は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

<p>I 調査に至る経過1</p> <p>II 立地と環境1</p> <p style="padding-left: 20px;">1 遺跡の位置1</p> <p style="padding-left: 20px;">2 周辺の地形3</p> <p style="padding-left: 20px;">3 基本層序3</p> <p style="padding-left: 20px;">4 周辺の遺跡4</p> <p>III 野外調査と室内整理5</p> <p style="padding-left: 20px;">1 野外調査5</p> <p style="padding-left: 20px;">2 室内整理8</p> <p>IV 検出遺構と出土遺物9</p> <p style="padding-left: 20px;">1 1 区9</p> <p style="padding-left: 40px;">(1)概要9</p> <p style="padding-left: 40px;">(2)検出遺構9</p> <p style="padding-left: 40px;">(3)出土遺物12</p> <p style="padding-left: 20px;">2 2 区14</p> <p style="padding-left: 40px;">(1)概要14</p> <p style="padding-left: 40px;">(2)検出遺構14</p> <p style="padding-left: 40px;">(3)出土遺物42</p>	<p style="padding-left: 20px;">3 3 区45</p> <p style="padding-left: 40px;">(1)概要45</p> <p style="padding-left: 40px;">(2)検出遺構45</p> <p style="padding-left: 40px;">(3)出土遺物46</p> <p style="padding-left: 20px;">4 4 区51</p> <p style="padding-left: 40px;">(1)概要51</p> <p style="padding-left: 40px;">(2)検出遺構51</p> <p style="padding-left: 40px;">(3)出土遺物51</p> <p style="padding-left: 20px;">5 5 区54</p> <p style="padding-left: 40px;">(1)概要54</p> <p style="padding-left: 40px;">(2)出土遺物54</p> <p>V ま と め55</p> <p>附編1 放射性炭素年代測定56</p> <p>附編2 樹種同定59</p> <p>報告書抄録81</p>
---	---

図版目次

<p>第1図 遺跡周辺の地形と遺跡分布2</p> <p>第2図 上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡基本層序3</p> <p>第3図 調査区の位置とグリッド配置図6</p> <p>第4図 1②区遺構配置図と溝跡1・2・3断面図10</p> <p>第5図 1②区柱穴列11</p> <p>第6図 1区出土遺物13</p> <p>第7図 2①区遺構配置図21</p> <p>第8図 2①区建物跡122</p> <p>第9図 2①区建物跡223</p> <p>第10図 2①区建物跡324</p> <p>第11図 2①区竪穴状遺構125</p>	<p>第12図 2①区竪穴状遺構2とpp71・7226</p> <p>第13図 2①区竪穴状遺構3と土坑1・227</p> <p>第14図 2②区溝跡1・2・328</p> <p>第15図 2②区遺構配置図29</p> <p>第16図 2②区建物跡1a・230</p> <p>第17図 2②区建物跡1b31</p> <p>第18図 2②区竪穴状遺構1・232</p> <p>第19図 2②区竪穴状遺構3・433</p> <p>第20図 2②区竪穴状遺構534</p> <p>第21図 2②区竪穴状遺構6、柱穴列2、溝跡135</p> <p>第22図 2区出土遺物(1)41</p>
--	--

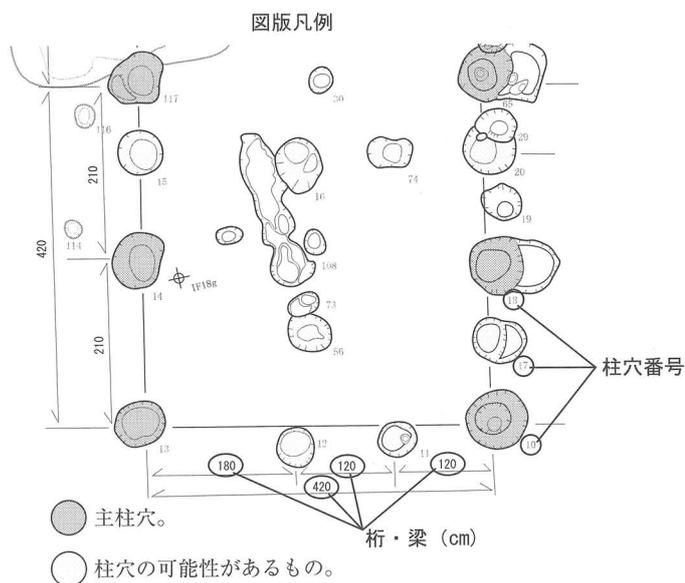
第23図	2区出土遺物(2)	42	第28図	3①区建物跡2	49
第24図	2区出土遺物(3)	43	第29図	4区全図(上)と4②区遺構配置図(下)	52
第25図	3区出土遺物	46	第30図	4区出土遺物	54
第26図	3①区遺構配置図	47	第31図	5区出土遺物	54
第27図	3①区建物跡1	48			

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧	4	第7表	3区出土遺物一覧	46
第2表	基準杭・区画割付杭一覧	5	第8表	3①区柱穴一覧	50
第3表	1②区柱穴一覧	12	第9表	4②区出土遺物一覧	51
第4表	1区出土遺物一覧	13	第10表	4②区柱穴一覧	53
第5表	2区柱穴一覧	36	第11表	5区出土遺物一覧	54
第6表	2区出土遺物一覧	44			

写真図版目次

写真図版1	空中写真	63	写真図版10	2①区土坑	72
写真図版2	調査開始時の状況ほか	64	写真図版11	2②区東部(1)	73
写真図版3	1区の遺構	65	写真図版12	2②区東部(2)	74
写真図版4	2①区全景	66	写真図版13	2②区西部(1)	75
写真図版5	2①区建物跡(1)	67	写真図版14	2②区西部(2)	76
写真図版6	2①区建物跡(2)	68	写真図版15	3①区、4②区、5③区	77
写真図版7	2①区竪穴状遺構(1)	69	写真図版16	1・2区出土遺物	78
写真図版8	2①区竪穴状遺構(2)	70	写真図版17	2区出土遺物	79
写真図版9	2①区溝跡	71	写真図版18	2～5区出土遺物	80



I 調査に至る経過

上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡は、「道路改築事業一般国道342号巖美バイパス工区」の道路改良工事に伴い、その事業区域内に存することから発掘調査を実施することとなったものである。

一般国道342号は、秋田県横手市を起点とし、岩手県一関市を經由し、宮城県津山町に至る幹線道路であり、高規格幹線道路と一体的に機能する幹線道路網を定めた「岩手県広域道路整備基本計画」において、「地域形成型広域道路」に位置づけられている。また、周辺には、栗駒国定公園、須川温泉や天然記念物「巖美溪」など県内有数の観光地と、県南部の中心都市である一関市を結ぶ観光ルートにもなっている。

事業対象区域である「巖美バイパス工区」は、巖美溪に近接した幅員狭小、線形不良の隘路区間となっており、行楽シーズンには交通渋滞が発生するなど、安全で円滑な交通や沿道環境に支障をきたしていることから、バイパス及び道路拡幅により交通渋滞の緩和、歩行者の安全確保、交通の円滑化を目的とし平成7年度「道路改築事業」により着手したものである。

当事業の施工にかかわる埋蔵文化財試掘調査は、県南広域振興局一関総合支局土木部から平成18年11月29日付一総土第632号「道路改築事業にかかわる埋蔵文化財の試掘（依頼）」により岩手県教育委員会に対して依頼したものである。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成18年12月4日に試掘調査を実施し、工事に着手するためには上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成18年12月8日付教生第1232号「道路改築事業予定箇所における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により当土木部に回答してきた。

その結果を踏まえて当土木部は教育委員会と協議し、平成19年度に財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結して発掘調査を実施することとなった。

(岩手県県南広域振興局一関総合支局土木部)

II 立地と環境

1 遺跡の位置(第1図)

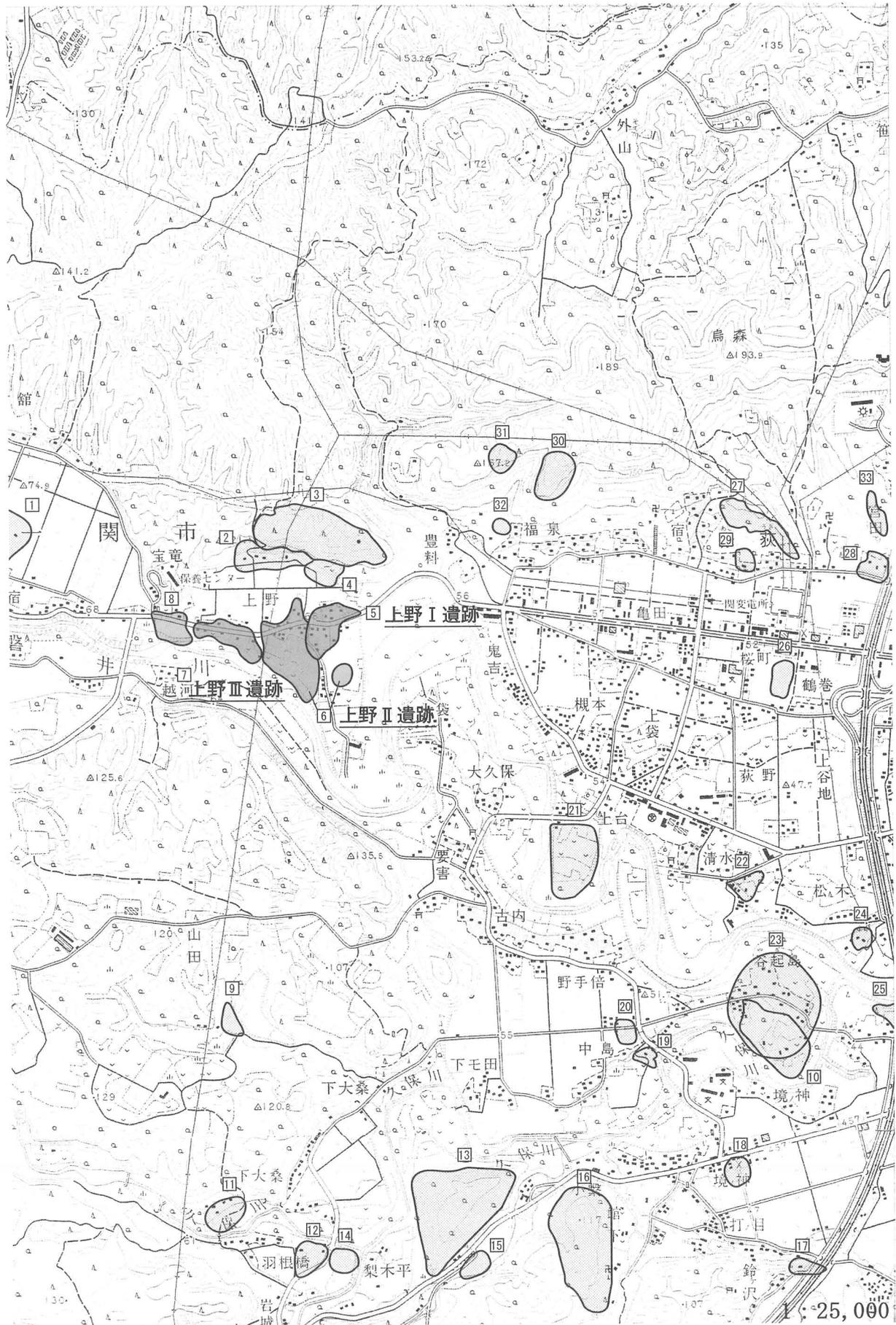
上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡の所在する一関市は、岩手県の南西部に位置する。平成17年9月20日に一関市と西磐井郡花泉町、東磐井郡大東町、千厩町、東山町、室根村、川崎村の計7市町村が合併し新「一関市」が誕生した。合併により人口約12万人、面積約1100km²の県内で最も広い市となった。

西に栗駒山、東に室根山を擁し、東西に細長い形状を呈する。奥州藤原氏が栄華を誇った西磐井郡平泉町、国内最北の前方後円墳とされる角塚古墳を有する奥州市とは北辺で接し、同様に、東では住田町、陸前高田市、南では藤沢町、西は秋田県東成瀬村と接している。古くより岩手県南部から宮城県北部の経済・交通・文化の中核を担ってきた都市である。

昭和22・23年のカザリン・アイオン両台風による大水害で523人の死者・行方不明者を出した旧一関市は、市街地を水害から守る一関遊水地建設事業が進む。平成10・14年に大水害に見舞われた旧東山町・旧川崎村でも、国と県による大規模な治水整備が進められている。

上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡は、当市の巖美町字上野229-1ほかに位置し、一関市役所から西に約4.9kmの地点に位置する。遺跡の西には昭和2年に国指定名勝天然記念として有名な巖美溪や、平成17年に国の史跡に指定され、平泉文化の遺産の一つとして世界遺産登録を目指す骨寺荘園遺跡がある。

1 遺跡の位置



第1図 遺跡周辺の地形と遺跡分布

2 周辺の地形

本遺跡は磐井川左岸の砂礫段丘上に立地する。磐井川は岩手県・宮城県・秋田県と三県にまたがる標高1,627mの栗駒山（須川岳）に端を発し、西から東へ流れ、北上川に合流する。磐井川が一関市街地である低地に入るまでに、その流域には上流から瑞山・本寺・山谷・巖美・赤荻と5つの平坦地（砂礫段丘）がある。本遺跡は上流から数えて4番目の巖美平坦地に立地している。磐井川はかつてこの平坦地を蛇行して流れ、現在は巖美平坦地の南側を流れている。

3 基本層序

野外調査では、遺跡内に堆積する土層の新旧関係及び各層の時期を把握するようつとめた。下図は上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡調査区の基本土層模式図である。大きくⅠ～Ⅵ層に分けることができる。

Ⅰ層 10YR2/2黒褐色シルト 現表土・耕作土 一部に盛土層・攪乱層を含む。小礫ごく微

Ⅱ層 10YR3/2黒褐色～10YR2/2黒褐色シルト 粘性やや有り。しまり密。

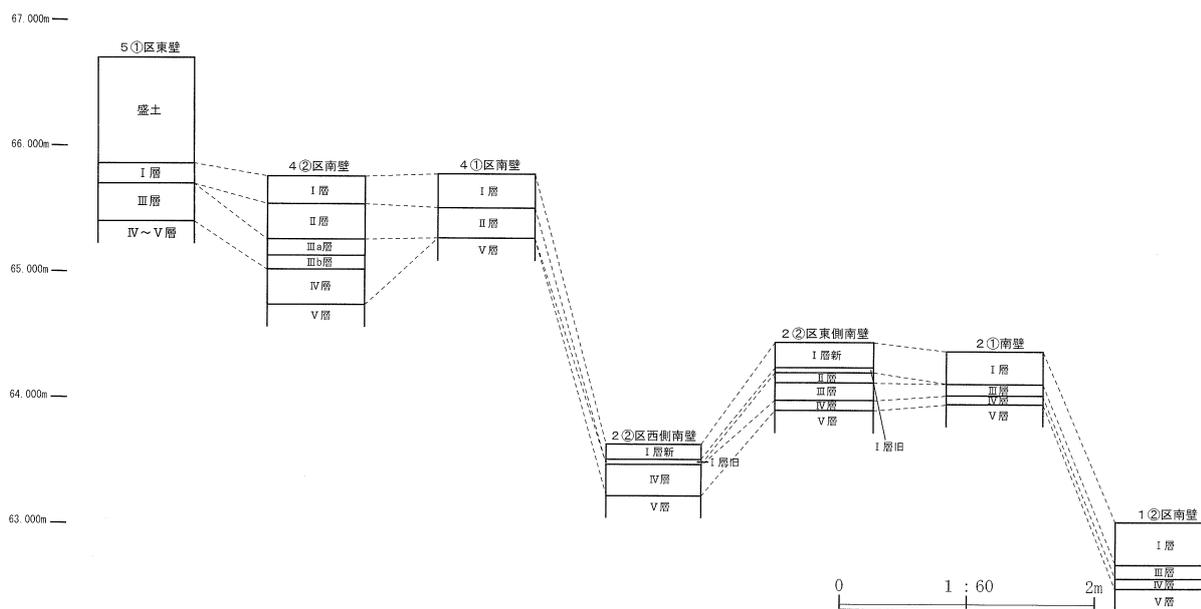
Ⅲa層 10YR2/1黒色～10YR2/2黒褐色シルト

Ⅲb層 10YR2/2黒褐色～10YR2/3黒褐色シルト 粘性弱。しまりやや粗。

10YR6/4にぶい黄褐色～10YR6/6明黄褐色の火山灰を含む。

Ⅳ層 10YR2/1黒色シルト

Ⅴ層 10YR4/4褐色～10YR4/6褐色砂質シルト



第2図 上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡基本層序

調査区は西から東に向かって傾斜している。1区と2区の東端、4区と5区の東端からは縄文土器が出土した。1・4区では縄文土器を包含する黒褐色土を埋土主体とする柱穴土坑群が検出された。2・3・4区はほぼ全面的に水田の造成による削平を受けている。2区・3区は他の調査区よりも一段低い地形で、湧き水がひどく、常に水を掻き出さないと調査区全域が水没してしまう状態であった。

4 周辺の遺跡

遺跡の所在する一関市内には、平成17年度現在179の遺跡が登録されている。上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡周辺を概観すると、縄文時代後期から弥生時代にかけての遺跡が、磐井川と久保川沿いに比較的多く分布している。しかし登録されている遺跡のほとんどが磐井川や久保川兩岸の盆地に立地していることや、周辺に縄文時代の集落遺跡がないことを考えると、丘陵部に集落遺跡の分布する可能性が非常に高いと思われる。

10は、上野Ⅰ遺跡の南東約3kmに所在する谷起島遺跡である。縄文時代晩期終末～弥生時代初頭の土器型式である谷起島式の標式遺跡として知られる。昭和30年に島畑寿夫により標式資料が紹介され、1976年には初めて本格的な発掘調査が行われた。その後昭和56年までに4次調査まで行われ、多量の遺物と土坑・甕棺などが見ついている。

引用・参考文献

- 島畑寿夫 1955 「岩手県西磐井郡谷起島遺跡出土土器について」『上代文化』25
 林謙作・小田野哲憲 1977 『谷起島遺跡第一次発掘調査報告書 (LOC.A)』 一関市教育委員会
 小田野哲憲ほか 1980 『第2次谷起島遺跡発掘調査概報』 一関市教育委員会
 工藤武・佐々木繁樹 1981 『第3次谷起島遺跡発掘調査概報』 一関市教育委員会
 工藤武編 1982 『第4次谷起島遺跡発掘調査概報』 一関市教育委員会

第1表 周辺遺跡一覧

No.	遺跡コード	市町村名	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	NE94-0346	一関市	沖野々	散布地	縄文	縄文土器	蔽美町字沖野々	H9新規
2	NE95-0049	一関市	宝竜Ⅱ	散布地	縄文	フレーク	蔽美町字上野	H9新規
3	NE95-0142	一関市	杭丁館	散布地	縄文・弥生	石器、縄文土器(晩期)、弥生土器	萩荘字谷起島南方	
4	NE95-0151	一関市	宝竜	散布地	縄文	石棒、石鏃、石匙、縄文土器	蔽美町字宝竜	
5	NE95-0181	一関市	上野Ⅰ	散布地	縄文	土版、石鏃、石棒、縄文土器(晩期)	蔽美町字上野	
6	NE95-0198	一関市	上野Ⅱ	散布地	縄文	石鏃・縄文土器	蔽美町字上野	H9新規
7	NE95-0186	一関市	上野Ⅲ	散布地	縄文	石鏃・縄文土器・フレーク	蔽美町字上野	H9新規
8	NE95-0184	一関市	上野Ⅳ	散布地	縄文	フレーク	蔽美町字宝竜	H9新規
9	NE95-2076	一関市	山田	城館跡	中世末	土壘	蔽美町字宝竜	
10	NE95-2381	一関市	谷起島	散布地	旧石器	打製石斧	萩荘字山田	
11	OE05-0046	一関市	藤走	散布地	縄文	石槍、石鏃、凹石、縄文土器(後期)	萩荘字岩城37	
12	OE05-0079	一関市	羽根橋Ⅱ	散布地	縄文	石鏃、縄文土器(後期)	萩荘字羽根橋80	
13	OE05-0147	一関市	小姓館	散布地	縄文	石鏃、石鏃、石匙、縄文土器(中・後期)	萩荘字羽根橋	
14	OE05-0171	一関市	羽根橋Ⅰ	城館跡	中世末		萩荘字大磐	不明
15	OE05-0177	一関市	下川台	散布地	縄文	石鏃、縄文土器(後期)	萩荘字川台	
16	OE05-0250	一関市	上黒沢城 (片平館)	城館跡	中世	土壘、空堀、連郭式、大手口	萩荘字上黒沢	
17	OE05-0372	一関市	鈴ヶ沢	城館跡	中世・他	土器、土師器、空堀、他	萩荘字鈴ヶ沢102-1	
18	OE05-0239	一関市	萩の馬場跡	駅家跡	平安		萩荘字上黒沢	
19	NE95-2285	一関市	天王塚	墳墓			萩荘字中島	
20	NE95-2273	一関市	中島	散布地	平安	住居跡、土師器	萩荘字神田	
21	NE95-1270	一関市	下袋	散布地	縄文・弥生	縄文土器(後期)、弥生土器	赤萩字下袋64	
22	NE95-2219	一関市	松ノ木	散布地	平安	土師器	赤萩字松ノ木111	
23	NE95-2351	一関市	小松柵擬定地	城柵跡	平安		萩荘字谷起島	
24	NE95-2334	一関市	口袋	散布地	弥生	弥生土器	赤萩字口袋117	
25	NE95-2366	一関市	下モ下釜	集落跡	平安	土師器、住居跡	萩荘字下モ下釜	
26	NE95-1311	一関市	弥悦塔	墳墓	近世		赤萩字野中	
27	NE95-0340	一関市	赤萩館 (日光館)	城館跡	中世末	連郭、空堀	赤萩字宿	
28	NE95-0356	一関市	赤萩焼		近世	陶器	赤萩字宮田	
29	NE95-0259	一関市	磐井駅擬定地	駅家跡	平安		赤萩字宿、元宿地内	
30	NE85-0212	一関市	田高館	城館跡	中世末	土壘	赤萩字福泉	
31	NE95-0109	一関市	石坂柵	城柵跡	平安		赤萩字福泉	
32	NE95-0149	一関市	福泉	散布地	縄文	縄文土器(後期)	赤萩字福泉	
33	NE95-0336	一関市	宮田館	城館跡	中世末	空堀	赤萩字宮田	

Ⅲ 野外調査と室内整理

1 野外調査

(1) 調査区

登録されている上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡の範囲は、東西800m、南北460m、総面積約14万8千㎡である。今回調査対象となったのは、道路改築事業によって削平を受ける範囲のうち、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による試掘の結果から本調査を要すると判断された合計12地点である。調査区は国道342号線に沿った形で東西に細長く、総延長は約700mである。

調査では便宜上、調査区を東から順に1～5区に区分し、さらに地点ごとに○囲み数字で1区を①・②、2区を①・②、3区を①・②・③、4区を①・②、5区を①・②・③に細分した。

(2) グリッドの設定と基準点

検出される各種遺構・遺物の詳細な座標値を記録するため、調査区を覆う碁盤目状のグリッドを設定した。今回の調査区は、広大な遺跡範囲の中に点在している。そのため各調査区の位置関係を明確に示し、また本遺跡範囲において将来同様の調査が行われる際にそのまま用いることができるように配慮して、遺跡範囲全体を網羅するグリッド配置とした。

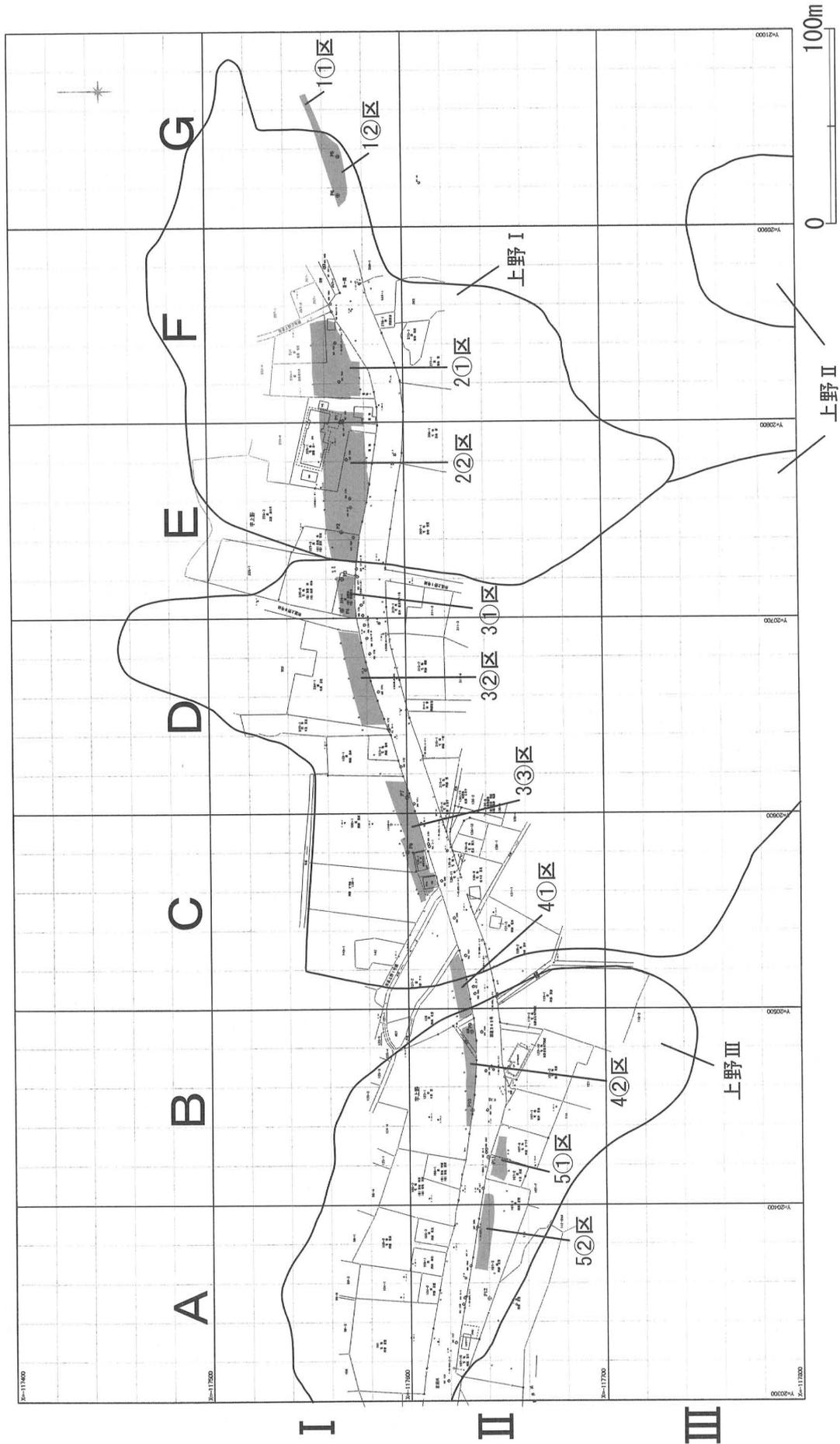
まず、遺跡範囲の北西隅付近に原点（X=117.500m、Y=20.300m；平面直角座標第X系【日本測地系】）を設け、ここから南及び東にのびる軸線を等分して100×100mの大グリッドを設定した。さらに大グリッドの一辺を25分割して小グリッド（4×4m）とした。

大グリッドは北から南に向かってローマ数字Ⅰ・Ⅱ、西から東に向かって英大文字A～Gとして「ⅠA」または「ⅡB」のように表し、さらに小グリッドも同様に北側から順に算用数字1～25、西側から順に英小文字a～yとして「1a」または「2b」のように表した。特定の小グリッドを指し示すには、これらを組み合わせて「ⅠA1a」のように表記した。現地では各小グリッドの北西隅に位置する杭にその名称を表記して用いた。

第2表 基準杭・区画割付杭一覧

	P1	P2	P3	P4	P5	P6
X	-117568.000	-117568.000	-117568.000	-117568.000	-117568.000	-117568.000
Y	20800.000	20744.000	20720.000	20704.000	20936.000	20916.000
H	64.392	64.440	64.616	64.817	62.806	62.912
杭	ⅠF18a (2②区)	ⅡE18l (2②区)	ⅡE18f (3①区)	ⅡE18b (3①区)	ⅡG18j (1②区)	ⅡG18e (1②区)

	P7	P8	P9	P10	P11	P12
X	-117600.000	-117600.000	-117632.000	-117632.000	-117640.000	-117640.000
Y	20608.000	20580.000	20488.000	20448.000	20424.000	20352.000
H	65.499	65.459	65.223	66.116	66.631	66.608
杭	ⅡD1c (3③区)	ⅡC1u (3③区)	ⅡB9W (4②区)	ⅡB9m (4②区)	ⅡB11g (5①区)	ⅡB11n (5②区)



第3図 調査区の位置とグリッド配置図

(3) 試掘・表土除去

調査では、まず対象区域に任意に試掘トレンチを設定し、人力掘削によって土層の堆積状況と遺構の存否を把握した。試掘により遺物包含層および遺構が確認された場合は、その上面を面的に広げるように土層を除去した。この際、バックホー・キャリアダンプ等の重機を積極的に用いたが、検出面までの土層が薄い場合や遺物が集中的に出土する場合など、重機の使用が適当でないと判断した区域では人力による掘削を行った。

(4) 遺構の検出と精査

表土除去の後、鋤簾（じょれん）・両刃草削り・移植ベラを用いて遺構検出を行い、必要に応じてスプレー塗料による白線で遺構プランにマーキングを施した。

精査では遺構の規模に応じて2分法・4分法を使い分け、土層断面を観察しながら埋土を除去した。検出時に遺構の重複が認められた場合、なるべく平面観察で新旧関係を把握するように努め、原則として新規のものから順に埋土の掘削を行った。この場合、両者を縦断する断面を設定し土層の堆積状況からも併せて新旧関係を検討した。出土した遺物は、遺構名やグリッド名および出土層位を記録して取上げ、必要に応じて出土状況記録としての実測・撮影を行った。

(5) 遺 構 名

①野外調査での仮名称

遺構には検出時点で随時固有の仮名称を与えた。検出段階で隅丸方形のプランを呈した竪穴状遺構は全て「S I」の略号を用い、区名と組み合わせて「S I 0 1」のように表した。同じく溝状遺構は「S D」、土坑は「S K」、円～楕円形プランをもつ遺構には「p」の略号を用いた。

②本書中の掲載名称

遺構名は、掲載にあたって仮名称を変更し、遺構種名を冠した1からの連番とした（「溝跡1」・「土坑2」など）。一方、柱穴状ピットは改名せず「pp○」として調査時の名称をそのまま用いた。本書ではこれらの柱穴群から建物跡を構成すると思われる柱穴を抽出し、建物跡復元案として「建物跡1」のように示した。

(6) 実 測

遺構や出土状況などの平面実測は、小グリッドを再細分した1m方眼を基準に実測・作図する「簡易遣り方測量」で行った。縮尺は1/20を基本とした。このほか光波トランシットを用いて、遺構配置図・現況地形図等の作成を行った。

断面図は水平に設定した水系を基準にして実測・作図した。縮尺は1/20を基本とした。

(7) 土層断面の分層と注記

遺構やトレンチなどの土層断面は慎重に観察し堆積状況を把握するよう努めた。分層は堆積過程を表現するのに必要と思われた場合は細部にも配慮したが、薄層が連続的に互層をなす部分や、偶然の結果と思われる混入部物の偏りなどは徒らに細分せず、有意と思われるまとまりの境界を表現した。

この分層の根拠を示すため、各層の性状を記録した。土層は主体土と混入土（物）によって構成されるものと考え、色調・土性・混入物・粘性・締まりの程度等を記載した。また、解釈可能な場合は、その層の持つ性格を想定し付記した。

遺構埋土や捨て場堆積層の「主体土」には、認識可能な場合、その層が堆積した時点で周辺の表土を形成していたと思われる土（埋没開始時点における再新期の土）をあてた。例えば地山土のブロックが大半を占める遺構の壁の崩落層であっても、当時の表土と思われる黒色土が僅かに含まれている場合は、後者を主体土とし、「地山土が大量に混入している状態」と解釈している。主体土と基本土層の対比から、その層の堆積時期を推定することが可能だと考えたからである。

土色の表記は新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議事務局）に準じたが、調査員が受ける層間の印象の差が土色名の違いとして反映されない場合も多くあった。このため、各層の記録には調査員個人の主観による相対的な層全体の印象（明暗や色味の差）も併記した。例えば、「○層よりも明るい」・「焼土含み全体に赤味」・「炭化物多く黒味強」・「地山土含み黄味がかかる」などの表現がこれにあたる。また混入物の量について「極微」・「やや多」等の表記を行っているが、調査員の主観的基準を土色帖に示されているパーセント表記に置き換えれば、概ね、極微（1～2%）・微（3～5%）・少（5～10%）・やや多（15～20%）・多（30～50%）・大量（50%）となるうか。

(8) 写真撮影

野外調査では6×7cm判カメラ（モノクロ）、35mm判カメラ（カラーリバーサル）、デジタルカメラを用い、各種遺構の全景・土層断面・遺物出土状況等を撮影した。撮影に際しては、撮影状況を記したカードをその都度写し込み、現像後これを元に整理を行った。なお、一部の遺構ではいずれかのカットを省略したことがある。また、不手際によって必要なカットを撮影できなかったものも含まれる。

2 室内整理

(1) 作業手順

出土遺物の洗浄と地点別の仕分け作業、土器を除く各遺物の分類は、野外調査と並行して現地で行った。野外調査終了の後、室内において土器の接合・復元作業を開始し、随時掲載資料の選別・登録を行った。その後、実測図作成・拓影作成・トレースの順に作業を進めた。調査員はこれらの作業の統括と並行して図面合成・遺物観察表作成・原稿執筆を行った。

(2) 遺構

各遺構は必要に応じて第2原図を作成し、これをもとにトレースののち図版を作成した。図中には縮尺を示すスケールを付し、また方位マークにより座標北を示した。

(3) 遺物

土器は出土地点・遺構別に分けた後、それぞれの集合の内容を代表させる資料を選抜し、実測等の作業対象資料とした。

IV 検出遺構と出土遺物

1 1 区

(1) 概要

1区は調査範囲全体の東端部、国道342号の南側に位置し、上野I遺跡の一部に相当する。河岸段丘の縁辺部にあたり、現況は水田及び荒蕪地であった。北側は現国道の建設時に大きく削られており境界部には擁壁が設置されている。近傍住民によれば隣接する揚水ポンプ施設の建設時に縄文土器等、多量の遺物が出土したという。

今回の調査では、時期不明の柱穴34個とこれらの一部からなる柱穴列1条、溝跡3条が検出され、縄文時代晩期中葉から末葉の土器（1箱）、石器（尖頭器・石鎌・石匙など2袋）が出土した。

(2) 検出遺構（第4図、写真図版3）

①柱穴列・柱穴群

1②一柱穴列1

[位置] 1②西部 I G18fグリッド付近に位置する。

[平面形・規模] 直線状に並ぶ。東西480cm。

[軸線方向] N-71°-E、N-17°-W

[構成柱穴] pp11・13・20・22。

[柱間寸法] 150cm。

[関連・重複遺構] 柱穴列周辺にも多数の柱穴が検出されたが、配置構成は不明。

[帰属年代] 時期は不明。

②溝跡

1②一溝跡1

[位置] 1②東部 I G16kグリッド付近に位置する。

[規模・形状] 東西に直線状に伸びる。全長13m、幅60cm～2m、残存深度は20cmである。

[埋土と堆積状況] 黒褐色シルト主体で、下部に地山起源の粘土ブロックが見られる。

[出土遺物] 1～3。

[関連・重複遺構] 溝跡2・3は本遺構と併存したものと思われる。

[帰属年代] 時期は不明。

1②一溝跡2

[位置] 1②東部 I G15lグリッド付近に位置する。

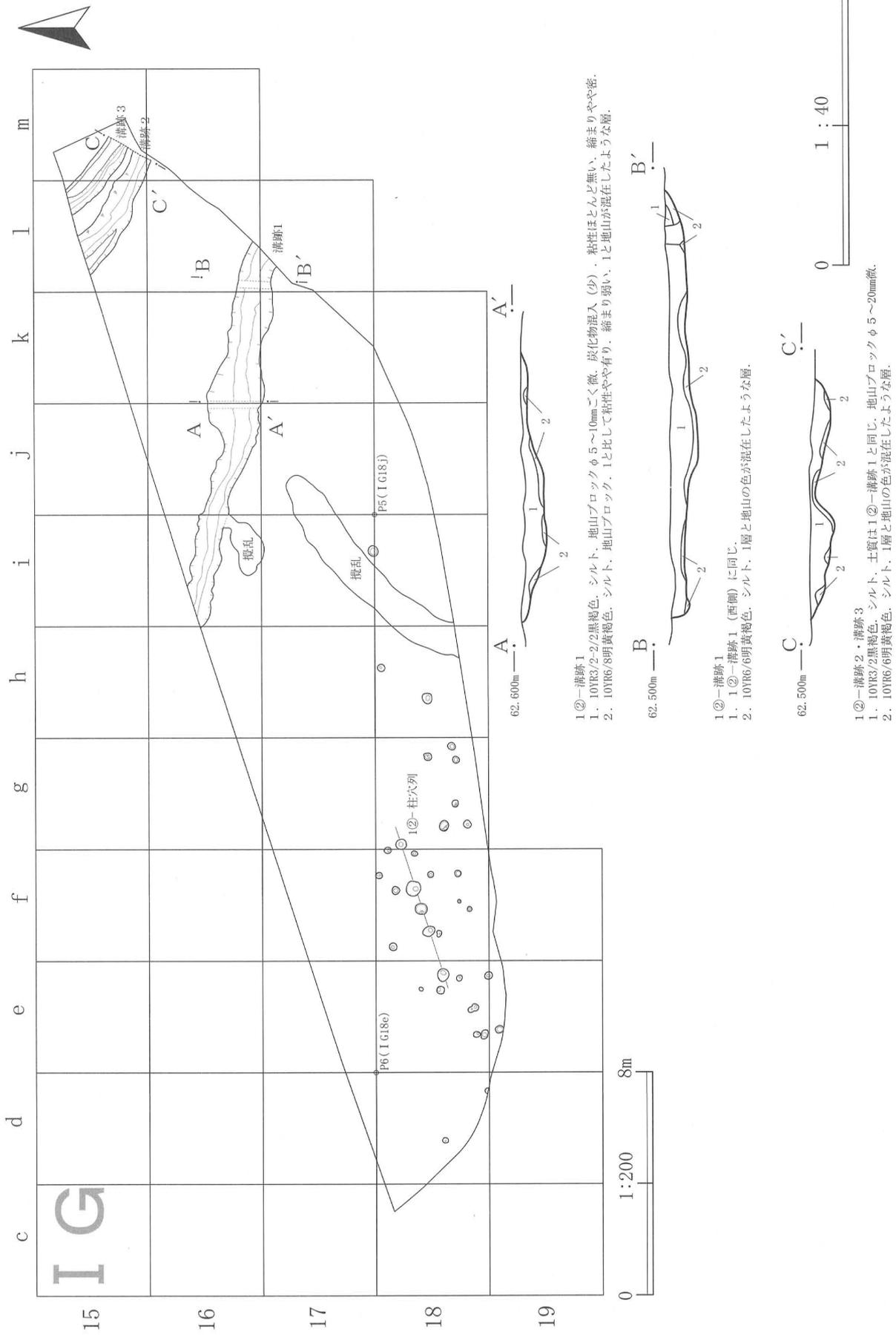
[規模・形状] 東西に直線状に伸びる。全長4m、幅80～140cm、残存深度は16cmである。

[埋土と堆積状況] 黒褐色シルト主体で、下部に地山起源の粘土ブロックが見られる。

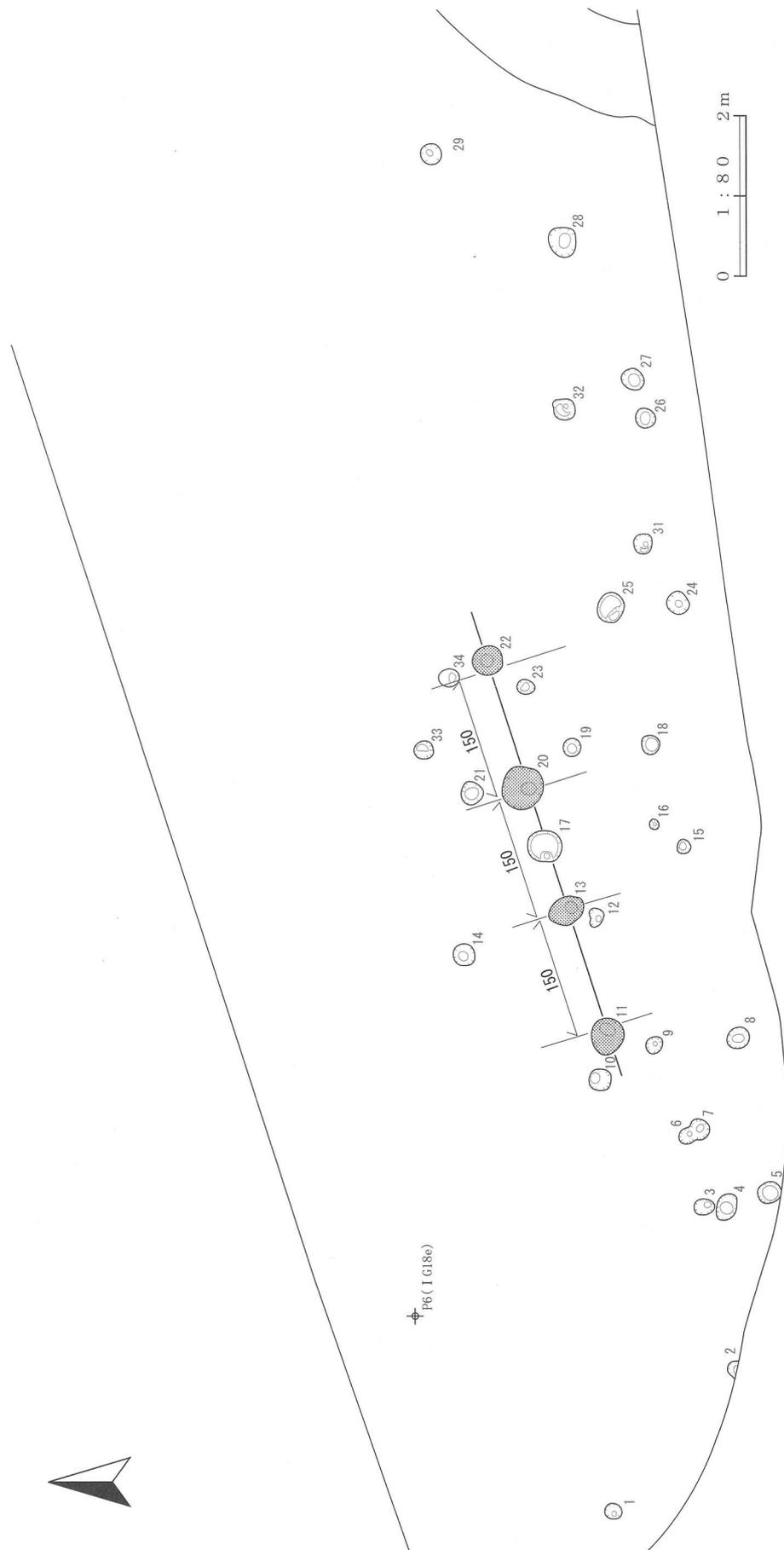
[出土遺物] なし。

[関連・重複遺構] 溝跡1・3は本遺構と併存したものと思われる。

[帰属年代] 時期は不明。



第4図 1 ②区遺構配置図と溝跡1.2.3断面図



第5図 1②区柱穴列

1②—溝跡3

[位置] 1②東部IG15Iグリッド付近に位置する。

[埋土と堆積状況] 黒褐色シルト主体で、下部に地山起源の粘土ブロックが見られる。

[出土遺物] なし。

[関連・重複遺構] 溝跡1・2は本遺構と併存したものと思われる。

[帰属年代] 時期は不明。

(3) 出土遺物

1区では調査区全域から縄文土器が検出された。中でも溝1周辺のIG16g~i・17f~hグリッドに比較的集中して見られた。

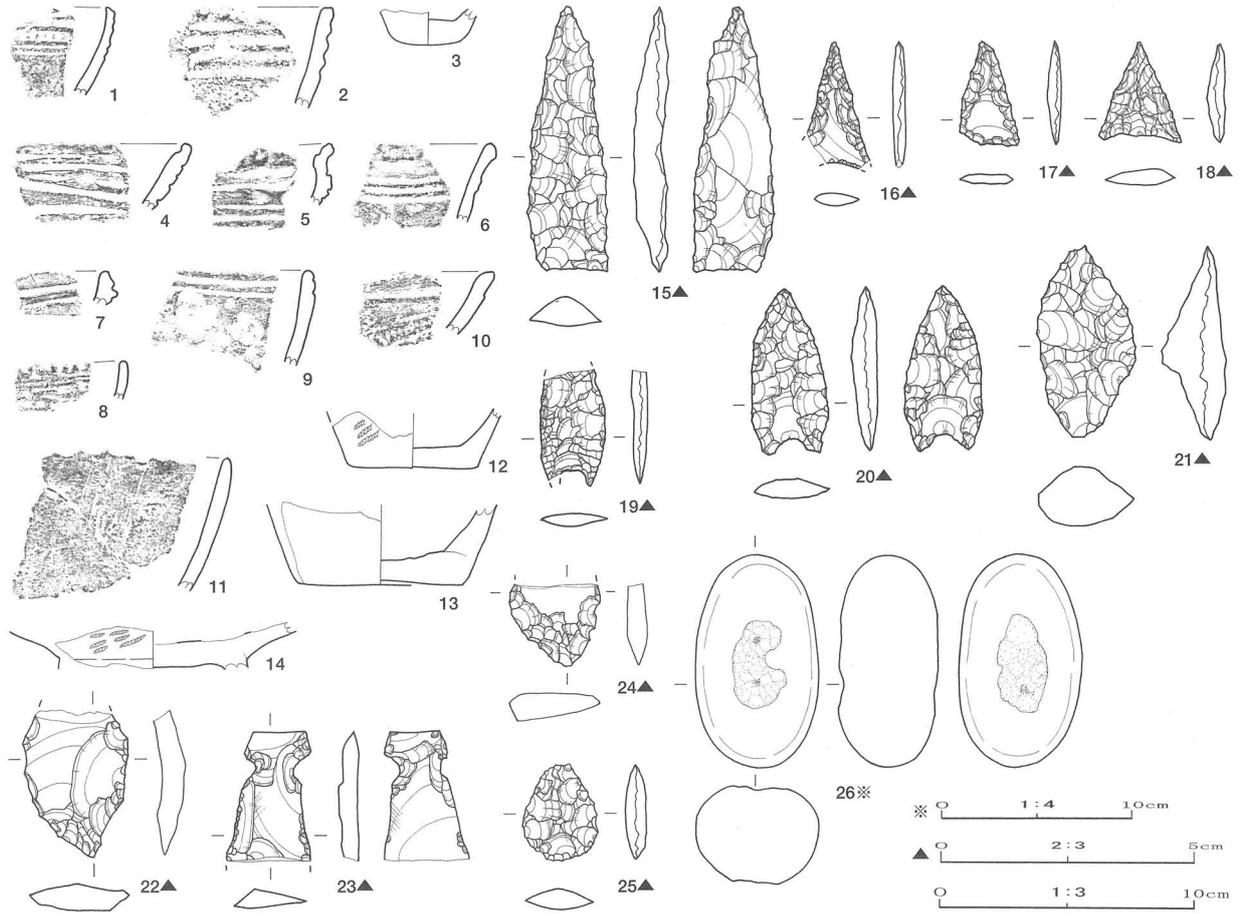
器種には深鉢(11・13)、鉢(1・2・6)、浅鉢(4)、台付鉢(14)、ミニチュア(3)がある。1と8には、口縁部に2列の裁痕がみられる。2は一形の沈線文がみられ、工字文が施されていたものと思われる。4には沈線と突起による変形工字文が施される。出土土器の大半は摩滅がひどく、特徴を把握できなかった。

出土土器は縄文時代晩期中葉から終末に位置づけられるものである。

石器には尖頭器・石鏃・石匙・凹石のほか、石器の未成品が出土した。20の石鏃の基部には、黒色の付着物が見られた。

第3表 1②区 柱穴一覧

遺跡	区	No.	位置	掘り方埋土主体土		混入物		柱痕径 (cm)	底面レベル	帰属遺構	重複 (新>旧)	出土遺物			備考
				色調	土質	地山ブロック	炭					種類	図版	写真	
上野I	1②	1	I G18d	10YR2/2	シルト	ごく微			62.612						
上野I	1②	2	I G18d	10YR2/2	シルト	微			62.600						
上野I	1②	3	I G18e	10YR2/2	シルト	少			62.475						
上野I	1②	4	I G18e	10YR2/2	シルト	多			62.238			縄文土器	—	—	
上野I	1②	5	I G18e	10YR2/2	シルト	ごく微			62.528						
上野I	1②	6	I G18e	10YR2/2	シルト	ごく微			62.440						
上野I	1②	7	I G18e	10YR2/2	シルト	ごく微			62.592						
上野I	1②	8	I G18e・19e	10YR2/2	シルト	ごく微			62.468						
上野I	1②	9	I G18e	10YR2/2	シルト	微			62.482						
上野I	1②	10	I G18e	10YR2/2	シルト	微			62.497						
上野I	1②	11	I G18e	10YR2/2	シルト	微			62.460	柱穴列1					
上野I	1②	12	I G18f	10YR3/1	シルト	多			62.615						
上野I	1②	13	I G18f	10YR2/2	シルト	微			62.365	柱穴列1					
上野I	1②	14	I G18f	10YR2/2-2/3	シルト	微			62.650						
上野I	1②	15	I G18f	10YR3/1	シルト	多			62.586						
上野I	1②	16	I G18f	10YR2/2	シルト	微			62.456						
上野I	1②	17	I G18f	—	—	—	—	—	62.610	—	—	—	—	—	—
上野I	1②	18	I G18f	10YR2/2	シルト	微	○		62.615						
上野I	1②	19	I G18f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			62.464						
上野I	1②	20	I G18f	10YR2/2	シルト	ごく微			62.488						
上野I	1②	21	I G18f	10YR2/2	シルト	ごく微			62.524	柱穴列1					
上野I	1②	22	I G18g	10YR2/2	シルト	ごく微			62.308			縄文土器	—	—	
上野I	1②	23	I G18f	10YR2/2	シルト	ごく微			62.558	柱穴列1					
上野I	1②	24	I G18g	10YR2/2	シルト	多			62.514						
上野I	1②	25	I G18g	10YR2/2-2/3	シルト	多			62.608						
上野I	1②	26	I G18g	10YR2/2-2/3	シルト	多			62.434						
上野I	1②	27	I G18g	10YR2/2	シルト	多			62.296						
上野I	1②	28	I G18h	10YR2/2	シルト	多			62.262			縄文土器	—	—	
上野I	1②	29	I G18h	10YR2/2	シルト	ごく微			62.448			縄文土器	—	—	
上野I	1②	30	I G17i・18i	10YR2/2-2/3	シルト	多			62.368			縄文土器	—	—	
上野I	1②	31	I G18g	10YR2/2-2/3	シルト	多			62.512						
上野I	1②	32	I G18g	10YR2/2-2/3	シルト	多			62.534						
上野I	1②	33	I G18f	10YR2/2-2/3	シルト	多			62.664						
上野I	1②	34	I G18f・18g	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			62.568			縄文土器	—	—	



第6図 1区出土遺物

第4表 1区出土遺物一覧

掲載番号	仮No'	区	出土地点・遺構名	器種	部位	最大径	器高	底径	地文	特徴	図版番号	写真図版
1	4	1②	溝1	鉢	口縁部	—	—	—	LR?	口唇部突起、截痕2列	6-1	16-1
2	3	1②	溝1	鉢	口縁部	—	—	—	LR?	工字文	6-2	16-2
3	6	1②	溝1	ミニチュア	底部	*3.8	(1.4)	*2.6	不明		6-3	16-3
4	11	1②	IG17f	鉢	体部	—	—	—	無文	変形工字文、内面沈線1条	6-4	16-4
5	16	1②	表土	—	—	—	—	—	不明	口唇部突起、沈線4条。肩部に2個一対の突起。	6-5	16-5
6	10	1②	IG17f	鉢	口縁部	—	—	—	RL	沈線3条	6-6	16-6
7	5	1②	IG15h	鉢	口縁部	—	—	—	不明	沈線1条	6-7	16-7
9	12	1②	IG17g	鉢	口縁部	—	—	—	無文	沈線2条	6-8	16-8
10	13	1②	IG17g	鉢	口縁部	—	—	—	LR	沈線1条	6-9	16-9
8	17	1②	表土	—	—	—	—	—	不明	小波状口縁、截痕あり。	6-10	16-10
11	15	1②	IG17g	浅鉢?	口縁部	—	—	—	無文	小波状口縁、器表面タテズリ	6-11	16-11
12	7	1②	IG16g	鉢	底部	*6.8	(2.5)	*5.0	LR		6-12	16-12
13	14	1②	IG17g	鉢鉢	底部	*9.0	(3.3)	*6.4	無文	上げ底	6-13	16-13
14	8	1②	IG16h	台付鉢	底部	*11.2	(1.8)	—	LR		6-14	16-14

掲載番号	仮No'	区	出土地点・遺構名	長	幅	厚	重量	器種	石質	産地	図版番号	写真図版
15	15	1②	IG16g	5.3	1.6	0.7	5.4	尖頭器	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	6-15	16-15
16	7	1②	IG17g	2.05	(1.70)	0.25	0.7	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	6-16	16-16
17	6	1②	IG17g	2.15	1.20	0.20	0.6	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	6-17	16-17
18	1	1②	IG17g	2.0	1.6	0.4	0.8	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	6-18	16-18
19	8	1②	IG15i	(2.35)	1.30	0.30	1.3	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	6-19	16-19
20	14	1②	IG16g	3.30	1.50	0.50	2.5	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	6-20	16-20
21	3	1②	IG16i	3.9	1.9	1.3	6.7	石鏃?	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	6-21	16-21
22	5	1②	表土	(2.95)	2.1	0.6	3.4	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	6-22	16-22
23	17	1②	表土	(2.60)	1.70	0.40	1.8	石匙	珪質頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	6-23	16-23
24	4	1②	IG16i	(1.7)	1.8	0.6	2.1	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	6-24	16-24
25	2	1②	溝2・3	1.9	1.5	0.4	1.3	石鏃	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	6-25	16-25
26	22	1②	IG16i	11.3	6.5	5.3	555.7	凹石	安山岩	奥羽山脈、新生代	6-26	16-26

2 2 区

(1) 概 要

検出遺構 柱穴287個、建物跡6棟、柱穴列2条、竪穴状遺構9棟、土坑2基、溝跡4条。

出土遺物 近世陶磁器片(1袋)、縄文時代晩期末葉土器片(1箱)、石鏃等(1袋)。

2区は調査範囲全体の東部、国道342号の北側に位置し、上野I遺跡の一部に相当する。河岸段丘上に立地しており、現況は水田・畑地・宅地の一部となっていた。調査区を横断している宅道を境に、東側を2①区、西側を2②区とした。2①区は全面に遺構が分布し、2②区では中央部を斜めに横断する低湿地を間にはさみ、その東西の微高地上に遺構の分布が確認された。

(2) 検 出 遺 構

①掘立柱建物跡・柱穴列

2①-建物跡1(第8図、写真図版5)

〔位置〕2①区西部、IF17gグリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行840cm、梁間420cmの掘立柱建物である。

〔建物方位〕N-11°-E、N-78°-W。

〔構成柱穴〕〈主〉pp10・13・14・18・36・65・117・120。〈可能性有〉pp11・12・15~17・19・20・31・37・56・74・78・118・119。

〔柱間寸法〕桁方向は210cmを基本とし、梁方向は180cm・120cmなどが用いられる。

〔関連・重複遺構〕東面が2①-建物跡2のプランに接している。pp10・18を共有しており、両者が一連の建物である可能性がある。また、pp117~120は2①-竪穴状遺構1の埋土に切られており、本建物跡の方が古いことがわかっている。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸~明治時代のものである可能性がある。

2①-建物跡2(第9図、写真図版6)

〔位置〕2①区中央部、IF18hグリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行540cm、梁間450cmの掘立柱建物跡である。

〔建物方位〕N-14°-E、N-76°-W。

〔構成柱穴〕〈主〉pp7・10・18・27・29・33・127・129。〈可能性有〉pp8・9・19・21・22・23・26・66・82・83。

〔柱間寸法〕桁方向は180cmを基本とし、梁方向は180cm・150cm・90cmなどが用いられる。

〔関連・重複遺構〕2①-建物跡1のプランに接している。pp10・18を共有しており、両者が一連の建物である可能性がある。プランの北半部中央には2①-土坑1、2①-土坑2が位置しており、本建物跡に付属するものの可能性がある。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸~明治時代のものである可能性がある。

2①-建物跡3(第10図、写真図版6)

〔位置〕2①区北東端部、IF15lグリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行600cm、梁間480cmの掘立柱建物跡である。

〔建物方位〕N-85°-E、N-4°-W。

〔構成柱穴〕〈主〉 pp95・131・135・63・61・59・60・130・62・104。〈可能性有〉 pp57・69・67・64・68・137。

〔柱間寸法〕桁方向は210cm・180cm、梁方向は300cm・180cm・120cmなどが用いられる。

〔関連・重複遺構〕南辺の柱穴pp131・132・134が、2①- 竪穴状遺構 3 の埋土に切られている。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②- 建物跡 1 a (第16図、写真図版11)

〔位置〕2②区北東部、I E16 y グリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行600cm以上、梁間420cmの掘立柱建物跡である。

〔建物方位〕N-11°-E、N-81°-W。

〔構成柱穴〕〈主〉 pp20・26・28・39・67・73・75。〈可能性有〉 pp10・27a・33・71・74。

〔柱間寸法〕桁方向は90cm・180cm・240cm、梁方向は210cmなどが用いられる。

〔関連・重複遺構〕東西辺の桁方向の柱穴列が、2②- 建物跡 1 b のそれと同一線上に配列されている。両者は規模も共通しており、同一位置への建て替えが行われた可能性がある。新旧関係は確認できなかった。また、南側には軸方向を揃えて2②- 建物跡 2 が隣接する。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②- 建物跡 1 b (第17図、写真図版11)

〔位置〕2②区北東部、I E16 y グリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行630cm以上、梁間420cmの掘立柱建物跡である。

〔建物方位〕N-9°-E、N-81°-W。

〔構成柱穴〕〈主〉 pp19・25・27b・29・40・76・81・86。〈可能性有〉 pp22・34・36。

〔柱間寸法〕桁方向は210cm、梁方向は180cm・240cmなどが用いられる。

〔関連・重複遺構〕東西辺の桁方向の柱穴列が、2②- 建物跡 1 a のそれと同一線上に配列されている。両者は規模も共通しており、同一位置への建て替えが行われた可能性がある。新旧関係は確認できなかった。また、南側には軸方向を揃えて2②- 建物跡 2 が隣接する。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②- 建物跡 2 (第16図、写真図版12)

〔位置〕2②区北東部、I E17 y グリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行450cm、梁間270cmの掘立柱建物跡である。

〔建物方位〕N-11°-E、N-82°-W。

〔構成柱穴〕〈主〉 pp11・15・17・18・38・42・48b。〈可能性有〉 pp22・34・36。

〔柱間寸法〕桁方向は150cm、梁方向は120cm・150cmなどが用いられる。

〔関連・重複遺構〕北側には軸方向を揃えて2②- 建物跡 1 a ・同 1 b が隣接する。プラン南部には2②- 柱穴列 1 が重複する。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②- 柱穴列 1 (第18図、写真図版12)

〔位置〕2②区東部中央、I E18 x グリッド付近に位置する。

〔平面形・規模〕南東部にコーナーを持つL字状に配置されている。東西列600cm、南北列210cmである。

〔軸線方位〕N-11°-E（南北列）、N-79°-W（東西列）。

〔構成柱穴〕〈主〉pp41、44、46、47、51、53、56。〈可能性有〉pp54。

〔柱間寸法〕東西列は200cm、南北列は70cmである。

〔関連・重複遺構〕南北列の北半部が2②-建物跡2のプランに重複している。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②-柱穴列2（第21図、写真図版13）

〔位置〕2②区西部南西、I E 19 i グリッド付近に位置する。

〔平面形・規模〕東西、南北方向に並ぶ柱穴がクランク状に配置されている。約8m四方の範囲に展開している。

〔軸線方位〕N-11°-E（pp2～pp12間）、N-78°-W（pp91～pp97間）、N-15°-E（pp97～pp98）、N-73°-W（pp98～pp100）。

〔構成柱穴〕〈主〉pp91・93・95・97・98・100a・100b・101・131。〈可能性有〉pp90・94・96・130。

〔柱間寸法〕150cm、200cm、250cmなどが見られる。

〔関連・重複遺構〕2②-溝跡1aの西縁および溝跡1cの北縁に沿って配置されている。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

②堅穴状遺構

2①-堅穴状遺構1（第11図、写真図版7）

〔位置〕2①区西部、I F 16 g グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕330×300cmの隅丸方形の掘り込みの南壁側に不整形なスロープ状の張り出し部を持つ。張り出し部をあわせた最大長は460cmである。底面までの残存深度は20cmである。底面中央部はほぼ平坦に整っており、壁は底面から自然に連続し緩やかに立ち上がる。

また堅穴の南半部を囲うようコ字状に配された柱穴列を伴う。径20～25cm程度、深さが64cm前後の小規模で浅い柱穴8個からなる。柱間は東西辺が200cm、南辺が100cm及び200cmである。

〔軸線方位〕N-14°-E（柱穴列南北方向）、N-75°-W（柱穴列東西方向）。

〔埋土と堆積状況〕堅穴の堆積土は、上部から流入したと思われる黒褐色シルトを主体とし、全体に均質な性状を呈する。床面付近からは大形礫（径40cm前後）がまとまって出土している。

〔関連・重複遺構〕本遺構の堅穴の埋土はpp117・119・120を切っており、本遺構が2①-建物跡1より新しいことがわかっている。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物と年代測定結果から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2①-堅穴状遺構2（第12図、写真図版8）

〔位置〕2①区中央北部、I F 15 i グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕300×270cmの方形を基調とするが、北東隅のみが内側に張り出している。同様の張り出しは2②-堅穴状遺構2の南西隅にも認められる。底面までの残存深度は16cmである。底面は全体が平坦に整い、壁は外傾して立ち上がる。またこの堅穴は四辺に沿って420×400cmの方形に配された柱穴列を伴っている。上部構造物の痕跡とみられる。主たる柱穴は径45cm程度の6個（pp48・49・

50・53・54・71) で、深さは64cm前後、いずれも径約20cmほどの柱材が残存していた。pp54の柱材は鑑定によりクリであることが判明している。このほかpp51・52・55・121・122・123もまた本遺構に帰属する柱穴と見られる。

〔軸線方位〕 N-80°-E (柱穴列東西方向)、N-12°-W (柱穴列南北方向)。

〔埋土と堆積状況〕 堅穴の堆積土は上部から流入したと思われる黒褐色シルトが主体で、全体に均質な性状を呈する。

〔関連・重複遺構〕 本遺構の北東隅に近接する大型柱穴pp72は、pp71に切られていることから本遺構より古い。pp72は本遺構よりも大規模な構造物に帰属する可能性が高いが、これに関連するその他の柱穴は検出されなかった。調査区外(北側)に存在する可能性が高いと思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔遺構の時期〕 不明であるが、周辺の出土遺物と年代測定結果から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2①-堅穴状遺構3 (第13図、写真図版7)

〔位置〕 2①区東端部、I F16mグリッドに位置する。

〔規模・形状〕 500×160cmの長楕円形を呈する。底面までの残存深度は20cmである。底面は全体に平坦で壁は外傾して緩やかに立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕 埋土は黒褐色シルトを主体とする。下部はグライ化し上部に酸化鉄班が発達する。埋土の上部は南隣の流れ井戸の底面へ連続している。

〔関連・重複遺構〕 2①-建物跡3の南辺柱穴pp131・132・134を切っている。また南側には現代になって埋められた「流れ井戸」が隣接し、堆積状況から本遺構と併存した時期があるものと思われる。

〔出土遺物〕 なし。

〔遺構の時期〕 不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②-堅穴状遺構1 (第18図、写真図版12)

〔位置〕 2②区東部中央、I E19wグリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕 平面形は270×230cmの隅丸方形を呈し、底面までの残存深度は12cmである。底面は全体が平坦に整い、壁は外傾して立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕 黒褐色シルトを主体とする。壁際と底面の一部に地山ブロックを含む堆積土が見られるが、全体的には均質な性状を呈する。

〔関連・重複遺構〕 北西隅にpp58が重複するが新旧関係は不明である。また、北側に2②-柱穴列1が近接する。

〔出土遺物〕 なし。

〔遺構の時期〕 不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②-堅穴状遺構2 (第18図、写真図版12)

〔位置〕 2②区東部南端、I E20wグリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕 南辺部が調査区外にあり全形は不明であるが、東西380cm、南北380cm以上の隅丸方形を呈するものと思われる。残存深度は20cmで、底面は全体が平坦に整い壁は外傾して立ち上がる。なお北西隅には内側に向かって張り出す棚状の高まりが作り出されている。2①-堅穴状遺構2の北東隅の張り出しに類似するものである。

〔埋土と堆積状況〕 黒褐色シルトを主体とする。断面A-A'の西側には1・2層が3層を切って立ち上がる様子がみられることから、新旧の掘り込みが重複している可能性がある。

〔関連・重複遺構〕なし。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②一 竪穴状遺構 3 (第19図、写真図版12)

〔位置〕2②区東部東端、I F 19 a グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕225×118cmの楕円形を呈する。底面は平坦で北側のみステップ状に一段高くなっており、壁は外傾して立ち上がる。検出面からの残存深度は12cmである。

〔埋土と堆積状況〕黒色～黒褐色シルトを主体とする単層である。

〔関連・重複遺構〕なし。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②一 竪穴状遺構 4 (第19図、写真図版14)

〔位置〕2②区西部北西端、I E 17 i グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕平面形は314×235cmの不整楕円形であるが、南半部には直線的な壁と丸みを持ったコーナーが認められることから本来は隅丸方形であった可能性が高いと思われる。底面までの残存深度は19cmである。底面は北西部が低くそれに向かってなだらかに傾斜している。壁は南・西側が明瞭に立ち上がるのに対し、北・東側では不明瞭である。

〔埋土と堆積状況〕黒褐色シルトが主体。埋土は均質の単層で、底面に酸化鉄斑が発達する。

〔関連・重複遺構〕南壁東部に2②-溝跡1 bが重複している。新旧関係は不明で併存した可能性もある。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②一 竪穴状遺構 5 (第20図、写真図版14)

〔位置〕2②区西部中央、I E 17 j グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕竪穴は264×210cmの不整隅丸長方形を呈する。床面中央のやや西寄りには128×116cmの楕円形の範囲が約10cmほど深くなっている。底面は特に壁際でやや凹凸が目立つ。またこの竪穴の周囲からは、上部構造物の痕跡とみられる500×300cmの長方形に配された柱穴列が見ついている。主たる柱穴は径35cm程度の8個(pp103・106・111・114・118・120・137・143・147)で、このほかpp110b・104・108・112・116・117・138などもまた本遺構に帰属する柱穴と見られる。竪穴は柱穴列に囲まれた範囲の東に偏っているが、底面内部の楕円形掘り込み部は、柱穴範囲の中心(南北)軸上に位置している。

〔軸線方位〕N-9°-E(柱穴列南北方向)、N-81°-W(柱穴列東西方向)。

〔埋土と堆積状況〕黒褐色シルトが主体で、下部は粘土質を帯びる。上方からの自然流入土により埋没したものと思われる。

〔関連・重複遺構〕柱穴列の西辺は2②-溝跡1 a～dによって区画された長方形範囲の東縁に平行して接している。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2②一 竪穴状遺構 6 (第21図、写真図版14)

〔位置〕2②区西部中央南端、I F 19 i グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕全体に隅丸長方形を呈するものと思われるが南端は調査区外に延び、東壁は攪乱によって乱されているため本来の形状は不明である。調査区内における規模は245×140cmである。底面までの残存深度は9cm。底面は全体が平坦に整い、残存する西・北壁は外傾して緩やかに立ち上がる。

〔埋土と堆積状況〕黒褐色の粘土質シルトを主体とした、均質な単層である。

〔関連・重複遺構〕西壁南部に2②-溝跡1cが接続する。また西壁の延長線上を溝跡1dが走行している。溝跡1cとは埋土が連続していることから、溝跡1と本遺構は併存したものと思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

③土坑

2①-土坑1 (第13図、写真図版10)

〔位置〕2①区中央部、I F 17h グリッドに位置する。

〔規模・形状〕径100cmほどの円形を呈する。底面までの残存深度は14cmである。底面には径約70cmの環状をなす小溝が認められる。

〔埋土と堆積状況〕埋土の主体は黒褐色シルト。底面に残る環状の小溝には木質物の小片が多く見られることから、桶状の埋設物が設置された痕跡と考えられる。1層は桶状の埋設物の内部堆積物、2層は埋設時の掘り形埋土であるとみられる。1層下面すなわち埋設物内部底面からは多量の礫が出土した。

〔関連・重複遺構〕2①-土坑2と近接・並列する。この2基の土坑は2①-建物跡2のプラン内部に位置しており、当該建物跡に付属する可能性がある。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2①-土坑2 (第13図、写真図版10)

〔位置〕2①区中央部、I F 17h グリッドに位置する。

〔規模・形状〕径90cmほどの円形を呈する。底面までの残存深度は8cmである。

〔埋土と堆積状況〕埋土の主体は黒褐色シルト。底面に環状の痕跡は持たないが、埋土の様相は隣接の土坑1と同じである。1層が埋設物の痕跡である可能性がある。

〔関連・重複遺構〕2①-土坑1と近接・並列する。この2基の土坑は2①-建物跡2のプラン内部に位置しており、当該建物跡に付属する可能性がある。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

④溝跡

2①-溝跡1 (第7図、写真図版9)

〔位置〕2①区中央～北東部、I F 14h～同17i～同16n グリッドに位置する。

〔規模・形状〕当区北東部を区画するようにL字状に検出された。I F 17i グリッド杭付近を隅とし、西辺の北端は同14h グリッド、南辺の東端は16n グリッドで調査区外へと延びている。調査区内における西辺の全長は約11m、南辺は21mである。南辺では壁上部が緩く開いているが、下部には幅40～50cm、深さ15～20cmほどのしっかりした掘り込みが全体を通して認められ薬研状を呈している。走行方向は西辺がN-13°-W、南辺がN-87°-E。

〔埋土と堆積状況〕黒褐色シルト主体で、下部に地山起源の砂層が見られる。

〔関連・重複遺構〕南辺中央部の北壁には2①-溝跡2が接し、東端部は廃絶が現代に下る「流れ井

戸」に連続している。また、本溝跡による区画の内部には2①-建物跡3、2①-竪穴状遺構2・3が位置する。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2①-溝跡2 (第14図、写真図版9)

〔位置〕2①区東部、I F16k グリッドに位置する。

〔規模・形状〕長さ175cm、幅75cm、深さは22cmで、薬研状の断面を呈する。

〔埋土と堆積状況〕黒褐色シルト主体の埋土が、2①-溝跡1内に連続して堆積している。

〔関連・重複遺構〕2①-溝跡1南辺中央の北壁に直交するよう接している。埋土が連続することから両者は併存したものとされる。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。

2①-溝跡3 (第14図、写真図版9)

〔位置〕2①区中央南部、I F18i グリッドに位置する。

〔規模・形状〕隅丸のL字状を呈する。全長540cm、幅20～40cm、残存深度は5cm前後である。底面には小規模な凹凸が連続してみられる。竪穴住居跡の周溝に似た印象をもつ。

〔埋土と堆積状況〕黒色シルトの単層。周辺遺構の埋土より暗く緻密な土層である。

〔関連・重複遺構〕なし。

〔出土遺物〕なし。

〔遺構の時期〕不明であるが、埋土等から周辺の遺構より古いものとみられる。

2②-溝跡1 (a～d) (第21図、写真図版13)

〔位置〕2②区西部西側、I E17i～同19i グリッドに位置する。

〔規模・形状〕削平によって消失した部分もあり全体の様子が明らかではないが、2②区西部西半部の遺構空白域の外周を区画するよう長方形に走行するものと見られる。区画範囲は12.0×4.5mほどである。溝はT字状に接する2条と2つの残欠部からなり、それぞれにa～dの補名を付した。区画の西辺をなす2②-溝跡1 aは長さ720cm、幅50cm前後で南端は調査区外に延びている。北端で途切れた1 aの延長上には残欠と見られる1 b (長さ80cm・幅25cm前後)が認められ、北端が2②-竪穴状遺構4に連続している。また、1 aの南端近くの東壁には、区画南辺をなす溝跡1 cが直交方向に接している。溝跡1 cは長さ390cm、幅60cm前後で東端に2②-竪穴状遺構6が接している。竪穴状遺構6の西辺の北側延長上にはやはり残欠と見られる1 d (長さ250cm・幅25cm前後)が観察される。1 dは、2②-竪穴状遺構5に伴う長方形柱穴列の西辺南部に平行して接しており、区画東辺をなすものと見られる。走行方向は1 a (西辺)がN-13°-E、1 c (南辺)がN-77°-W。深さは溝跡1 a中央付近で5cm、1 c中央付近で12cmで、南に向かって傾斜していることがわかる。

〔埋土と堆積状況〕緻密な黒褐色シルトを主体とする単層である。

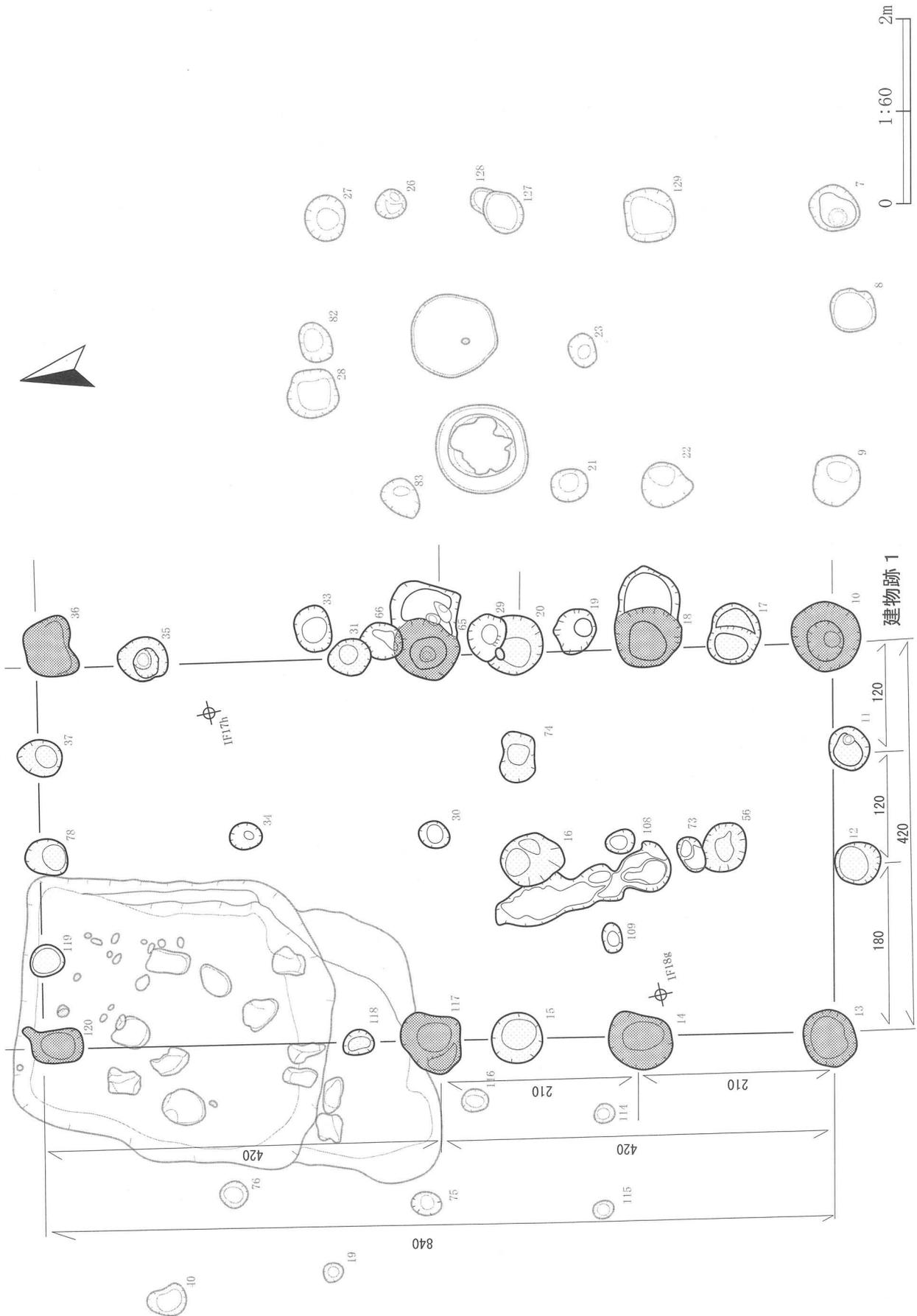
〔関連・重複遺構〕上述の通り、2②-竪穴状遺構4及び同6と重複し、同5関連の柱穴列に近接・平行している。また2②-柱穴列2が溝跡1 a西縁、1 b北縁に沿って配置されている。埋土や配置から見て、これらは併存した可能性が高いと思われる。

〔出土遺物〕なし。

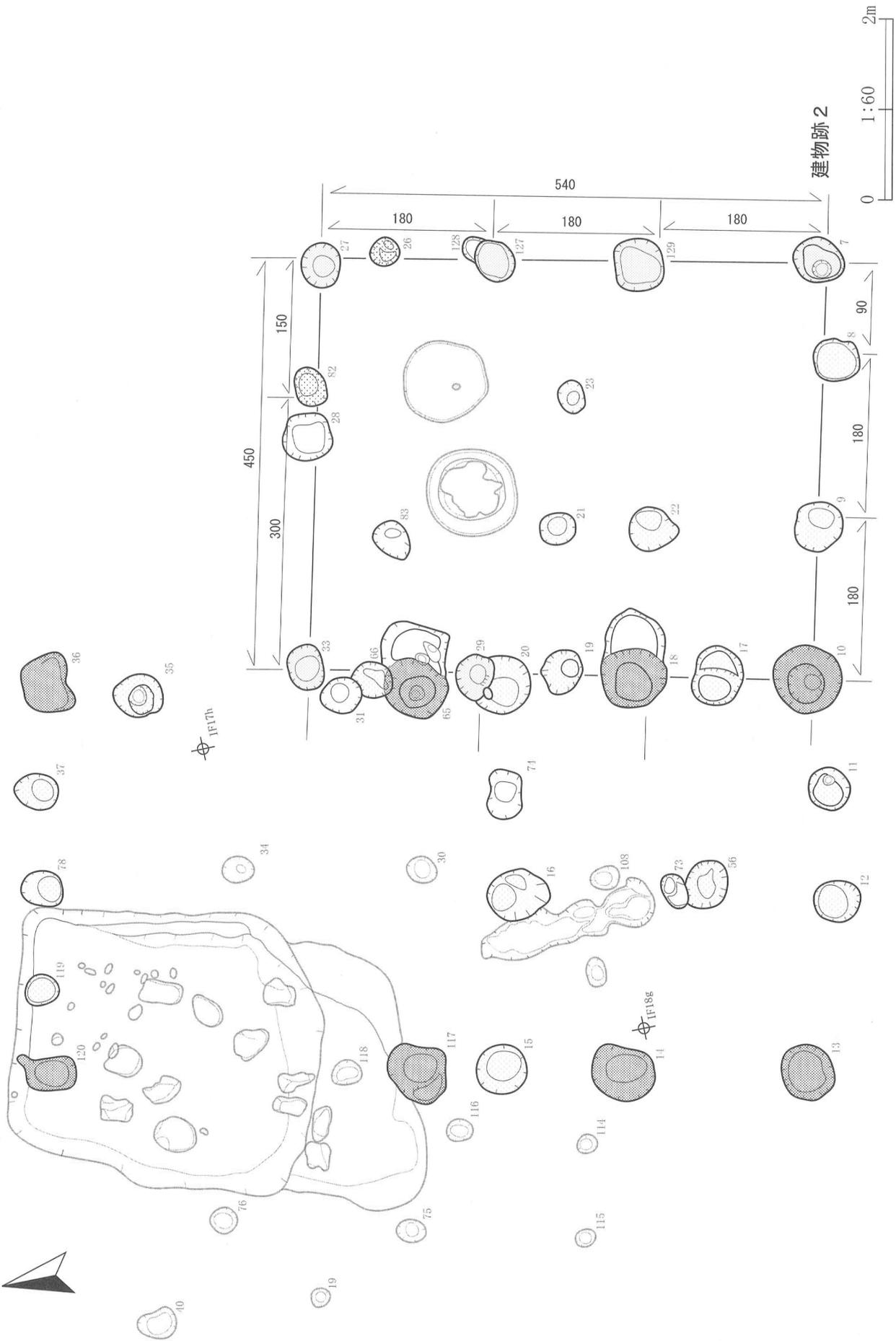
〔遺構の時期〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものである可能性がある。



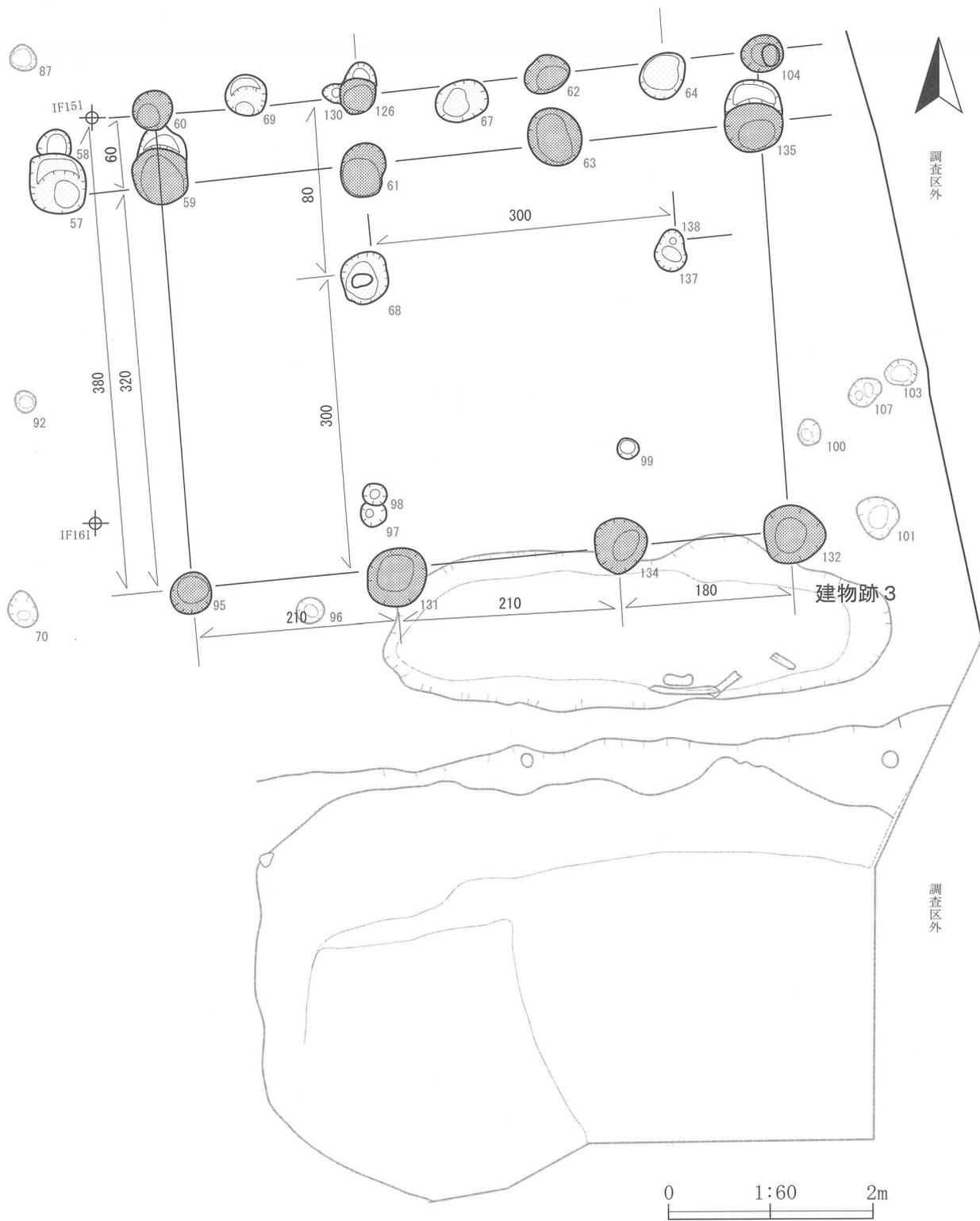
第7図 2①区遺構配置図



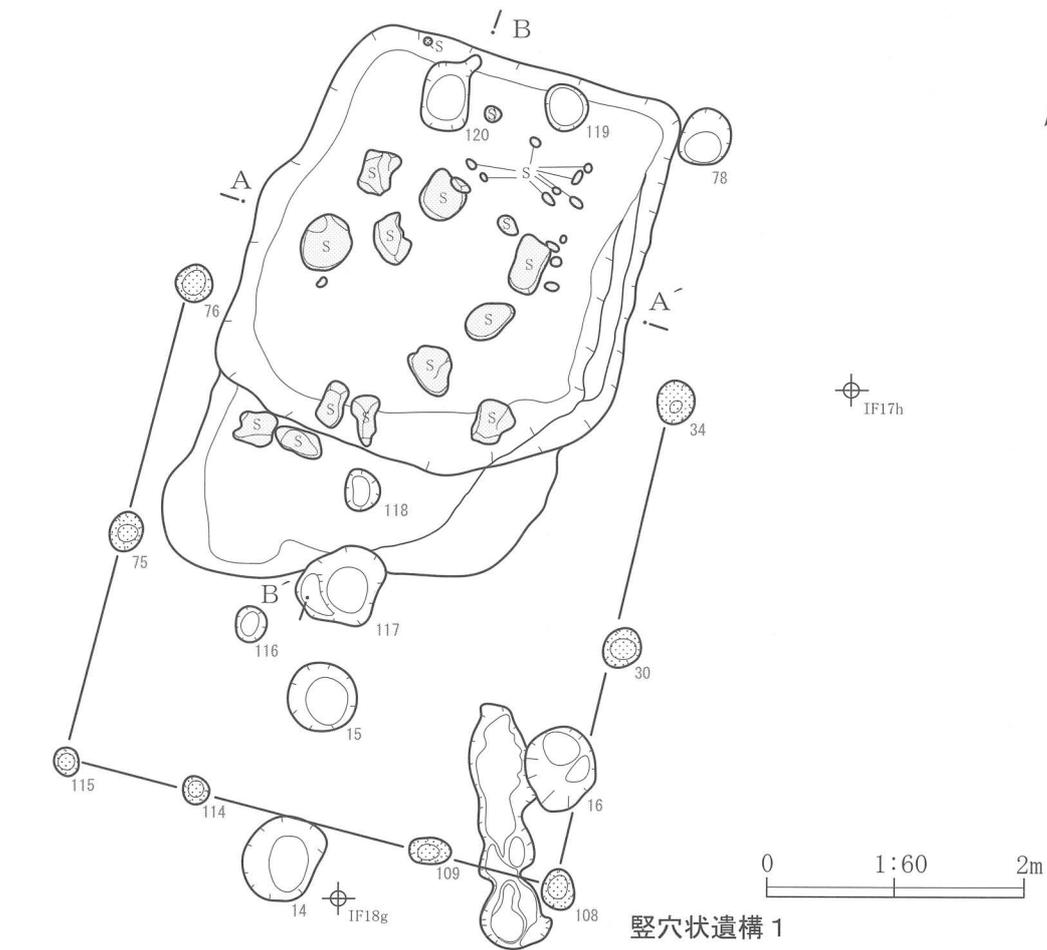
第8图 2①区建物跡1



第9図 2①区建物跡2



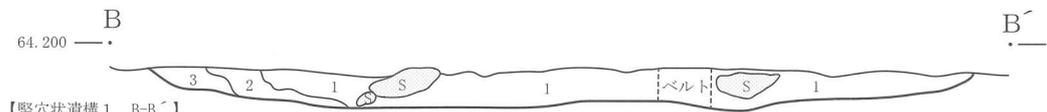
第10図 2①区建物跡3



縦穴状遺構 1



【縦穴状遺構 1 A-A'】

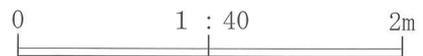


【縦穴状遺構 1 B-B'】

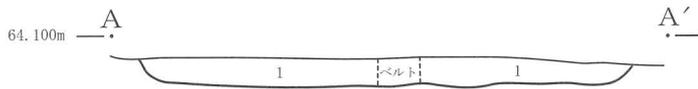
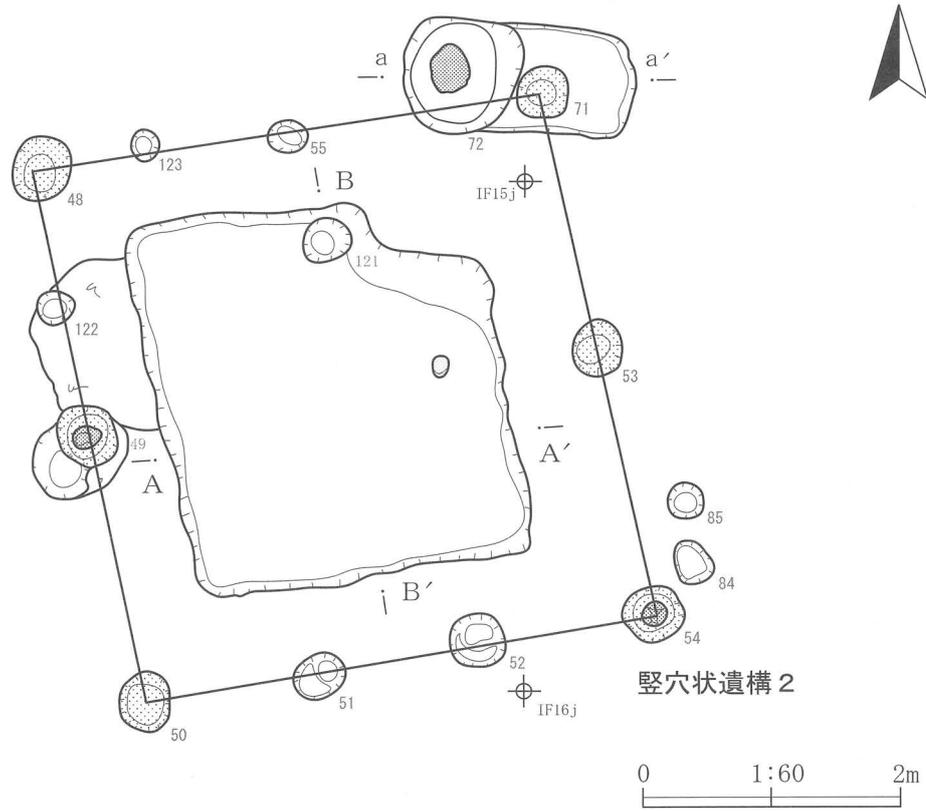
2①-縦穴状遺構 1

1. 10YR2/2黒褐色、シルト、締まりやや密、粘性やや有、大形礫φ30~40cm含む。
2. 10YR3/2黒褐色、シルト、地山ブロック(φ5mm)多。
3. 1層に酷似。

※南壁側は立ち上がりが不安定で、原型が損なわれている可能性が有る。中央~北側を中心とした方形のプランが原型ではないか？
 埋土は自然流入の黒褐土主体、底面は概ね平坦だが、中央部が最も深く、周縁部はやや凹凸有。
 底面付近から新期磁器碗口縁が出土しているが、上方からの混入の可能性有。
 周囲に柱穴状小ピット伴うらしいことから、上部構造を持っていた可能性有。
 埋土に点在の大形礫(φ30~40cm)は上部構造物に伴うものか？



第11図 2①区縦穴状遺構 1



【縦穴状遺構 2 A-A'】



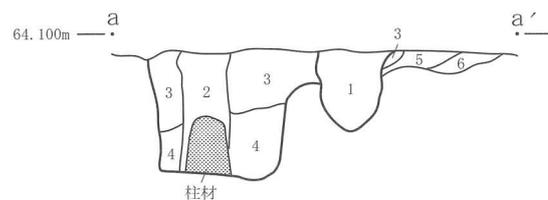
【縦穴状遺構 2 B-B'】

2①-縦穴状遺構 2

1. 10YR2/2黒褐色, シルト, 縮まりやや密, 粘性やや有.

※平面形状は方形に近いが北東コーナー部が内側に張り出したL字のような形状となっている.

加えて, 西壁地側には外に張り出した部分をもつ, 周囲を材の残る柱穴に囲まれており, 上部構造を持つものと推測される.



2①-柱穴pp71・pp72

1. 10YR2/3黒褐色, シルト, 地山ブロック (φ 5~10mm) を全体に均質に少量含む.

2. 10YR2/3黒褐色, シルト, 1層に酷似 (P 7 2 柱痕).

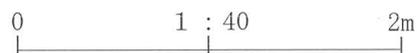
3. 10YR2/2黒褐色, シルト, 地山ブロック (φ 20~30mm) 微, 上下につぶされたように横に広がっている.

4. 10YR2/2黒褐色-2/1黒色, シルト, 3層によく似るがやや暗い.

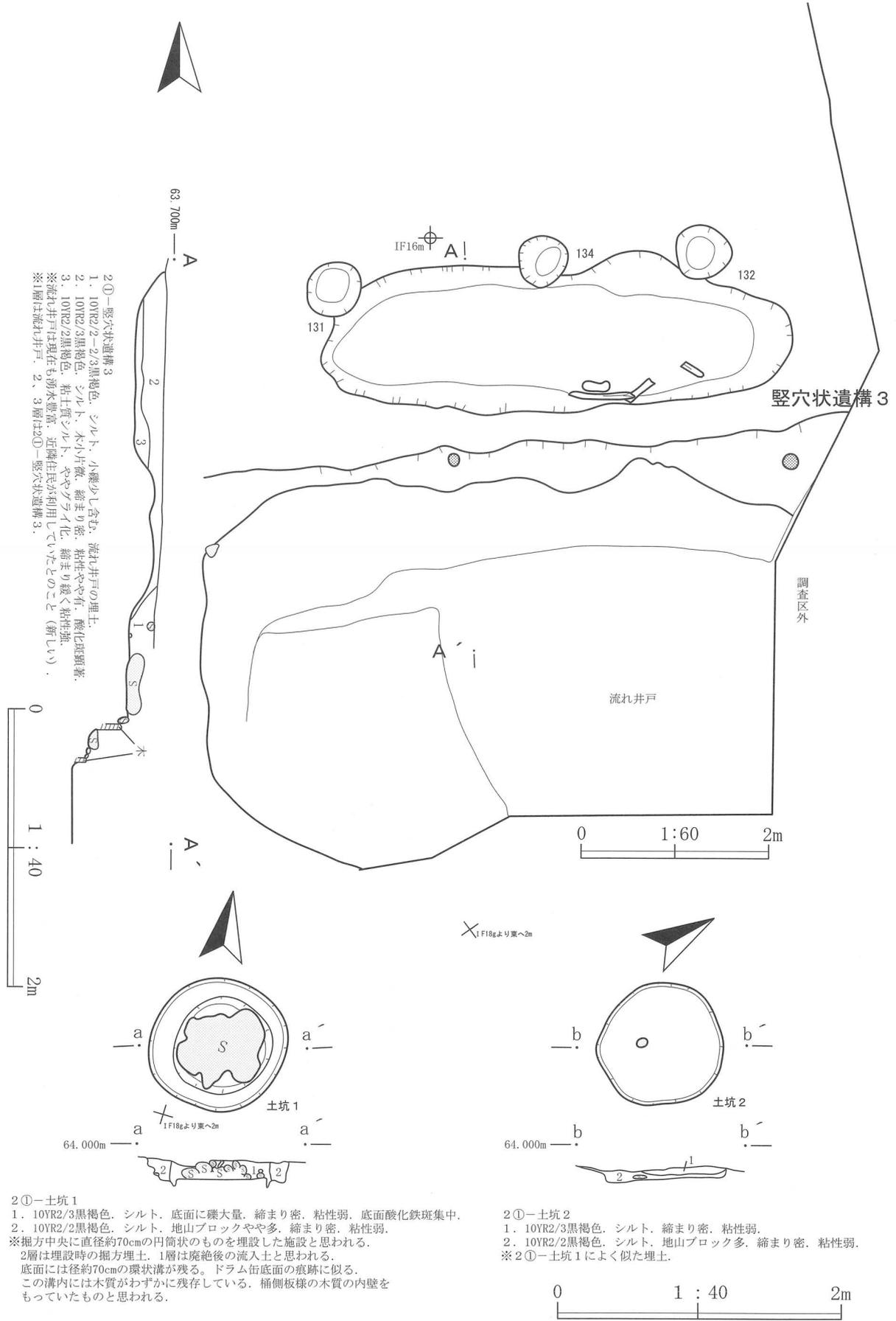
5. 10YR5/6黄褐色, 粘土質シルト, 地山ブロック層.

6. 10YR2/2黒褐色, シルト, 3層によく似る.

※1層はpp71埋土, 2~6層はpp72.



第12図 2①区縦穴状遺構 2 と pp71・72

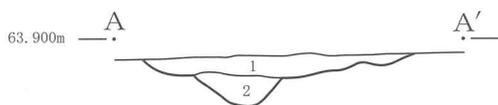


2①-豎穴状遺構 3
 1. 10YR2/2-2/3黒褐色、シルト、小礫少し含む、流れ井戸の埋土。
 2. 10YR2/3黒褐色、シルト、木小片微、締まり密、粘性やや弱、酸化鉄斑著。
 3. 10YR2/2黒褐色、粘土質シルト、ややシラ化、締まり緩く粘性強。
 ※流れ井戸は現在も湧水豊富、近隣住民が利用しているとのこと(新しい)。
 ※1層は流れ井戸、2、3層は2①-豎穴状遺構 3。

2①-土坑 1
 1. 10YR2/3黒褐色、シルト、底面に礫大量、締まり密、粘性弱、底面酸化鉄斑集中。
 2. 10YR2/2黒褐色、シルト、地山ブロックやや多、締まり密、粘性弱。
 ※掘方中央に直径約70cmの円筒状のものを埋設した施設と思われる。
 2層は埋設時の掘方埋土。1層は廃絶後の流入土と思われる。
 底面には径約70cmの環状溝が残る。ドラム缶底面の痕跡に似る。
 この溝内には木質がわずかに残存している。桶側板様の木質の内壁をもっていたものと思われる。

2①-土坑 2
 1. 10YR2/3黒褐色、シルト、締まり密、粘性弱。
 2. 10YR2/2黒褐色、シルト、地山ブロック多、締まり密、粘性弱。
 ※2①-土坑 1 によく似た埋土。

第13図 2①区豎穴状遺構 3 と土坑 1・2

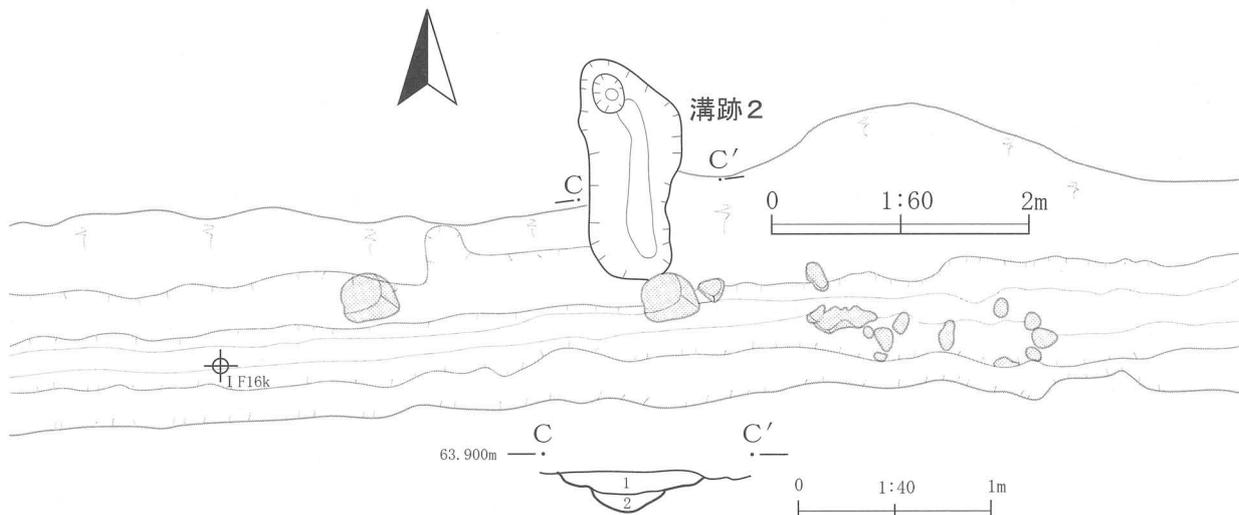
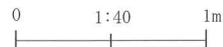


2①-溝跡1

1. 10YR3/2-2/2黒褐色. シルト. 粘性有. 縮まりやや密.
 2. 10YR3/1黒褐色-2/1黒色. シルト. 1層によく似る. 1層のグライ化部.
 ※2①-溝跡1は、堅穴状遺構2、建物跡3等が分布する区域の南辺及び西辺を区画しているL字状の溝である. 底面に点々と木杭痕がみられる. 堀の可能性も有るか? 東端部は流れ井戸へと連続している.

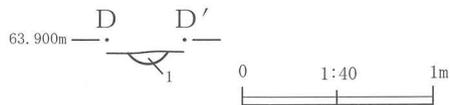
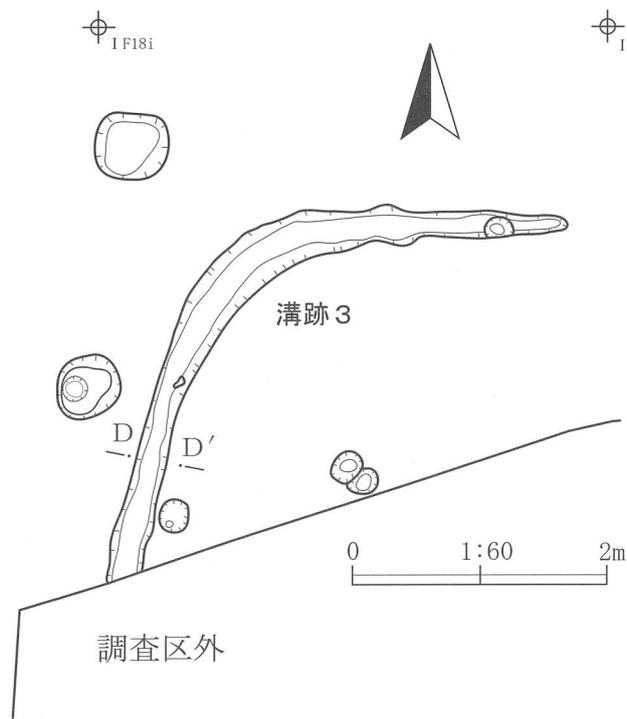
2①-溝跡1

1. 10YR2/2-2/3黒褐色. シルト. 地山砂下部に多.
 ※西辺では底面の凹凸多.



2①-溝跡2

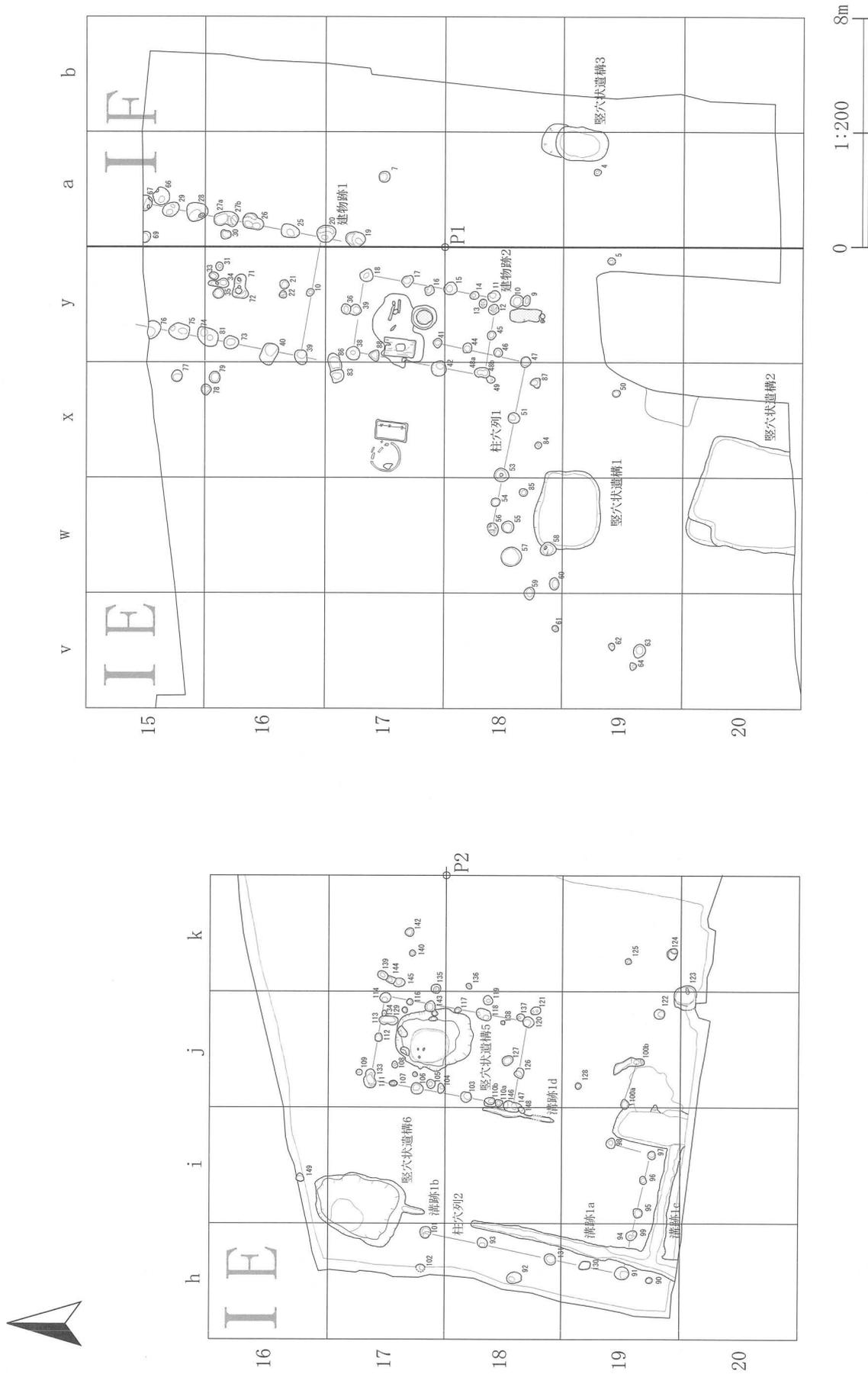
1・2. 2①-溝跡1同じ.
 ※溝跡2は溝跡1に直交して合流する短い溝状遺構. 溝でない可能性も有.



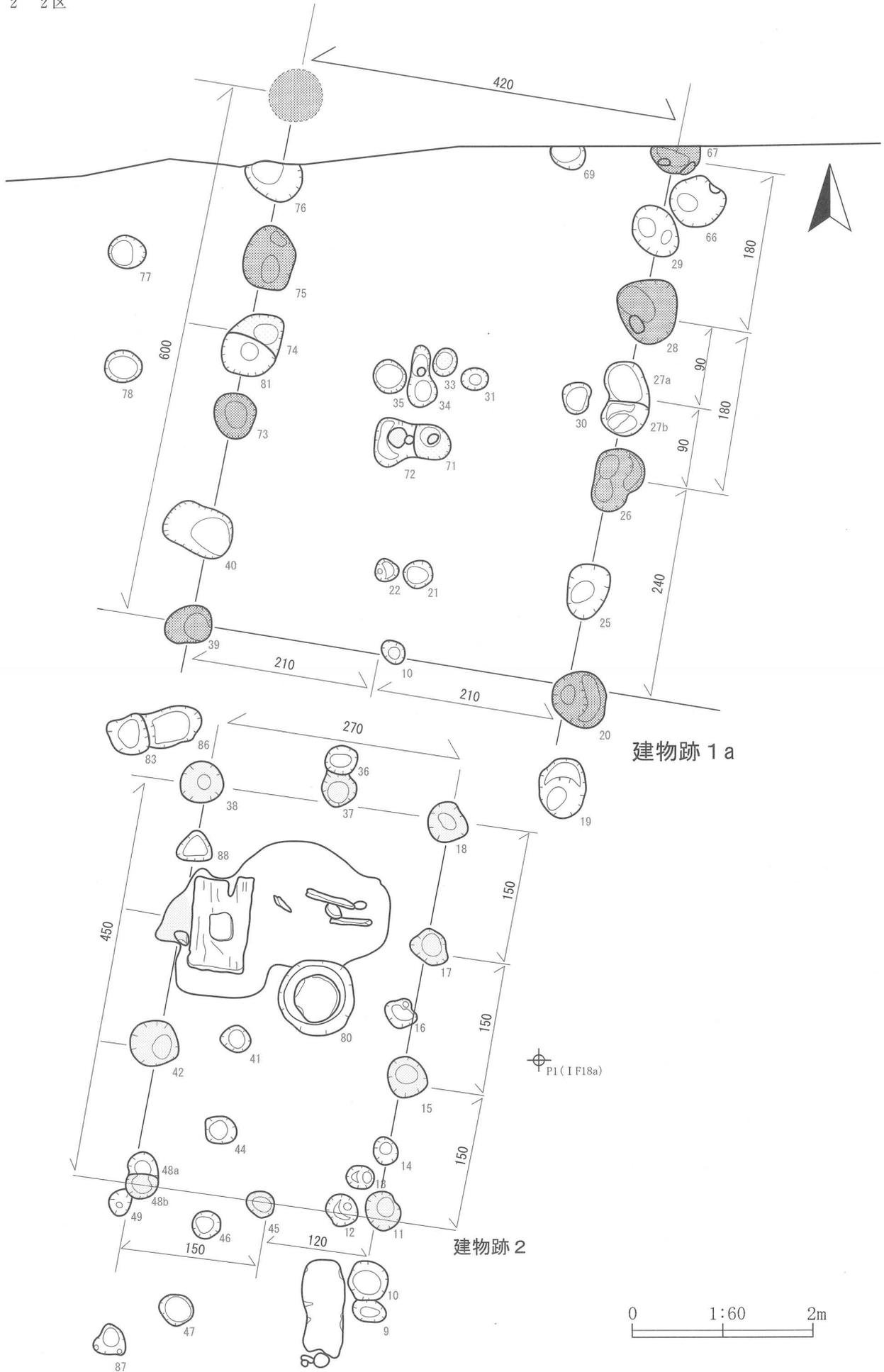
2①-溝跡3

1. 10YR2/2黒褐色-2/1黒色. シルト. 縮まり密. 粘性やや有.
 ※流水の痕跡なく. 溝跡1・溝跡2とは異質. 唯一古いかも...
 底面凹凸目立つ. 隅丸のL字状に走行. 南端は調査区外.
 東端は消失. (この周辺で土器細片分布)

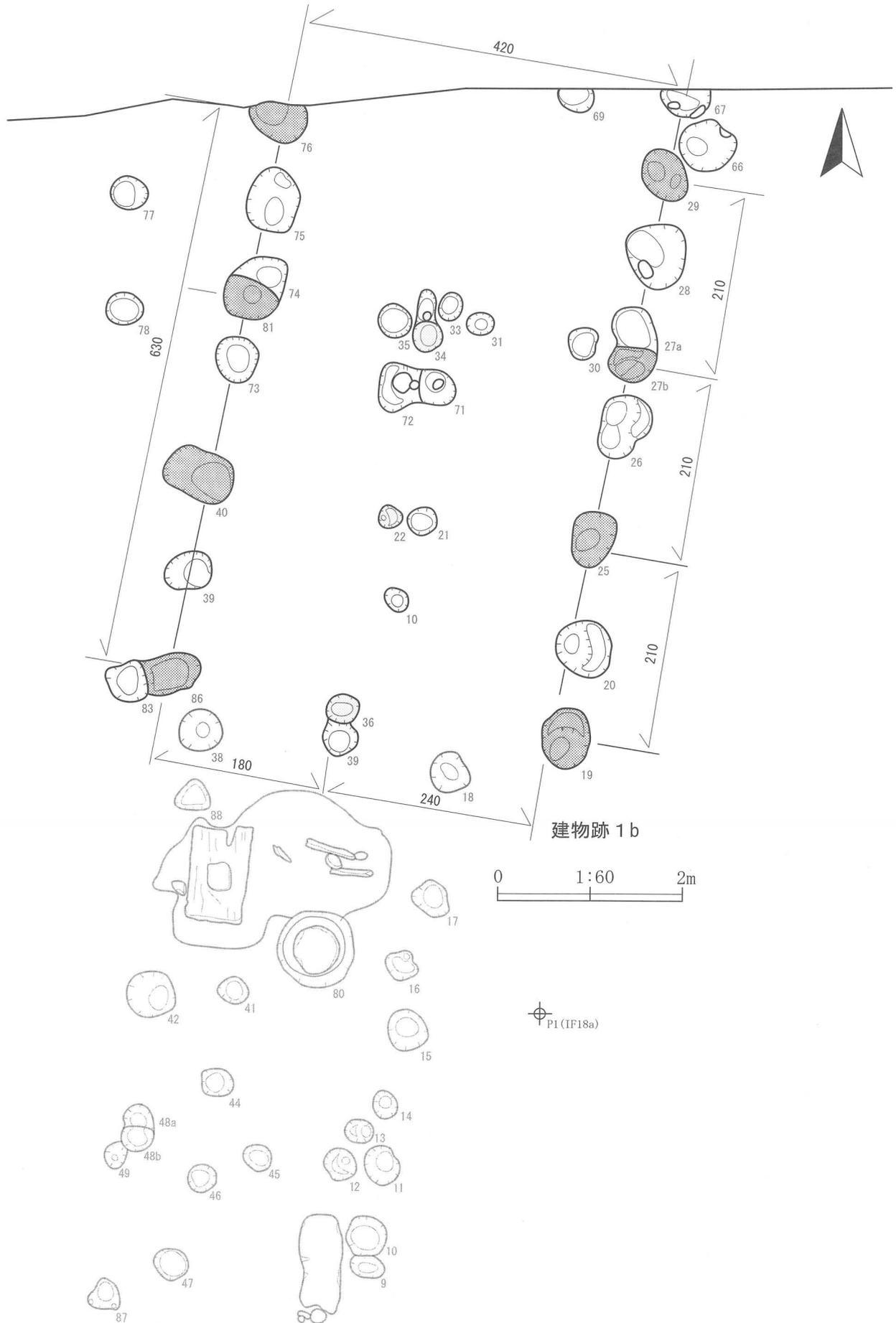
第14図 2②区溝跡1・2・3



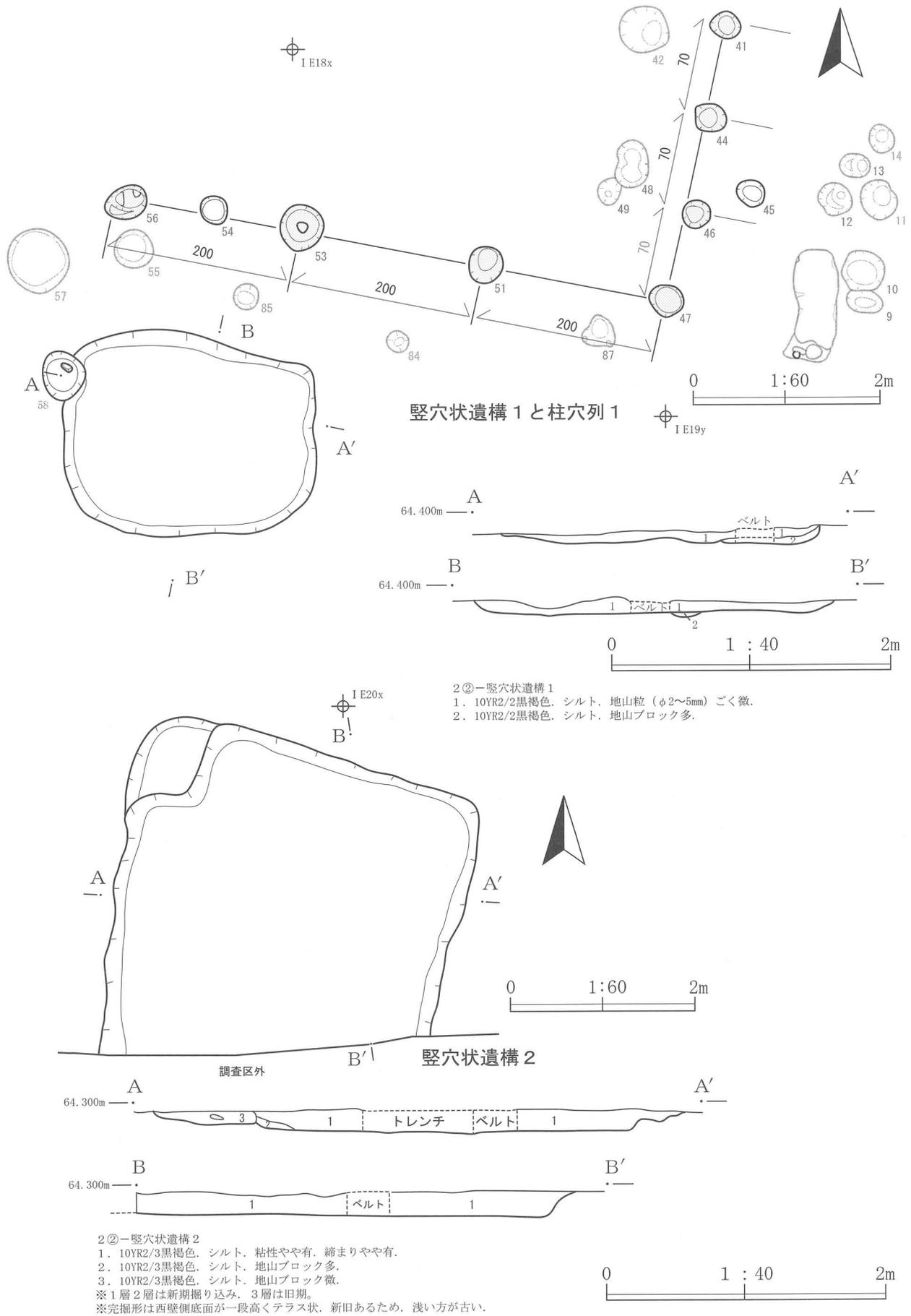
第15図 2㉔区遺構配置図



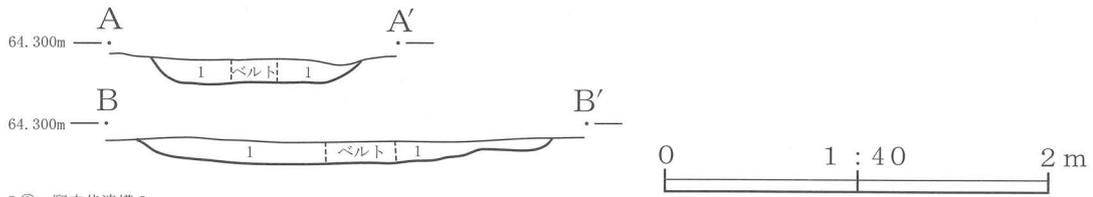
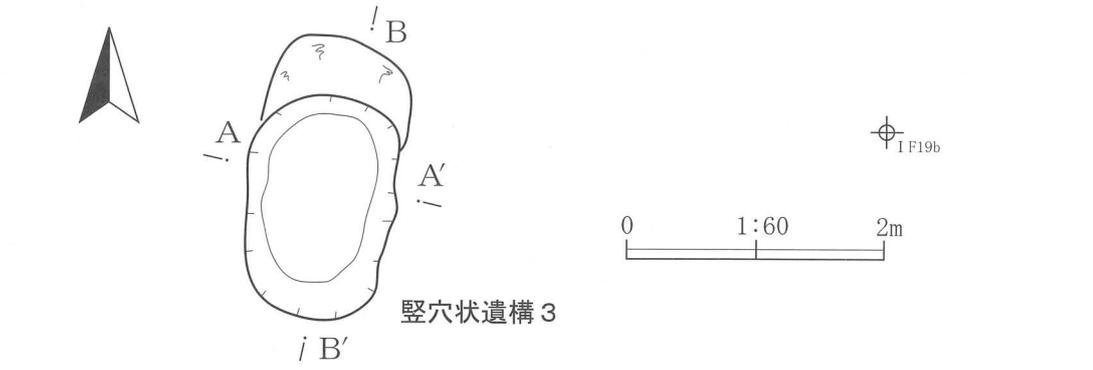
第16図 2②区建物跡1a・2



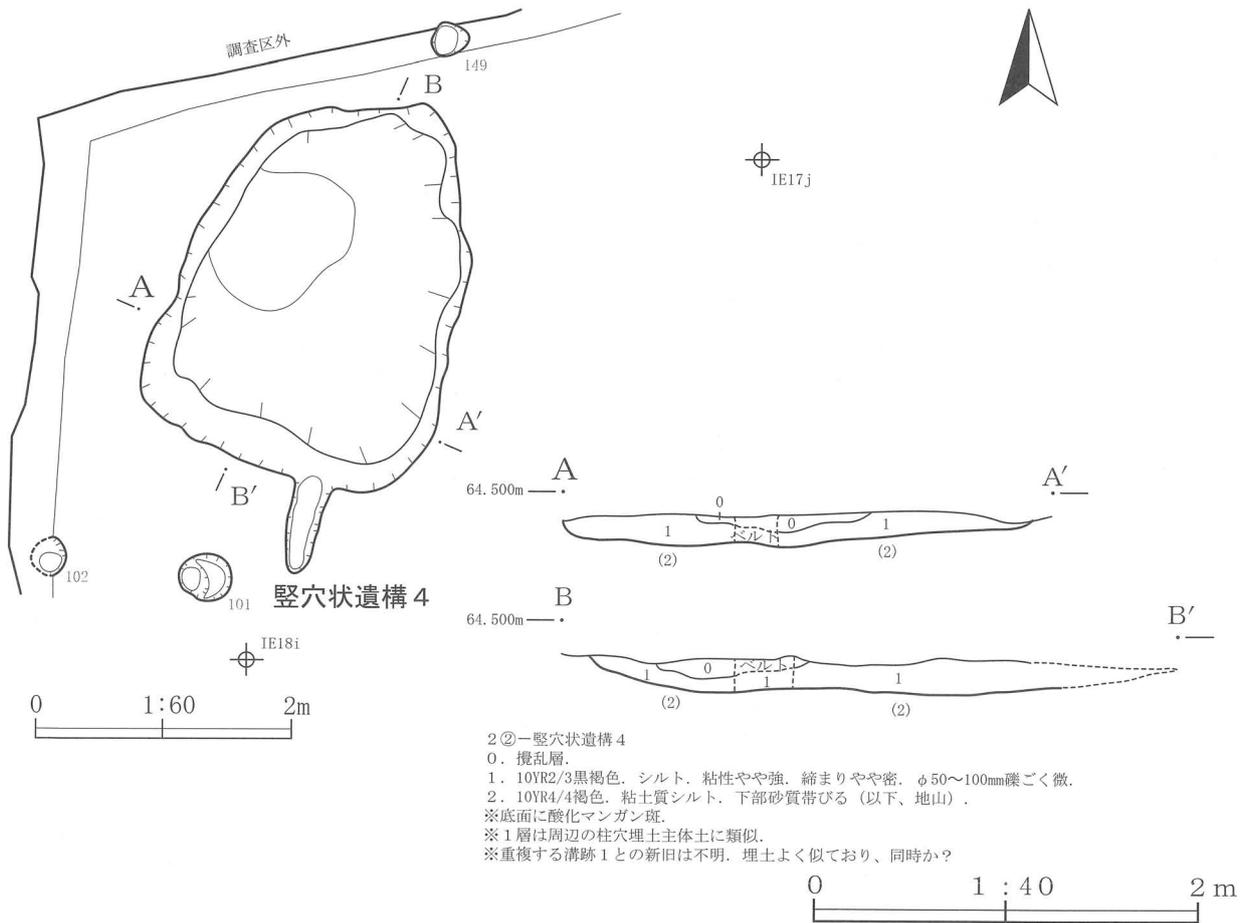
第17図 2②区建物跡1b



第18図 2②区堅穴状遺構1・2

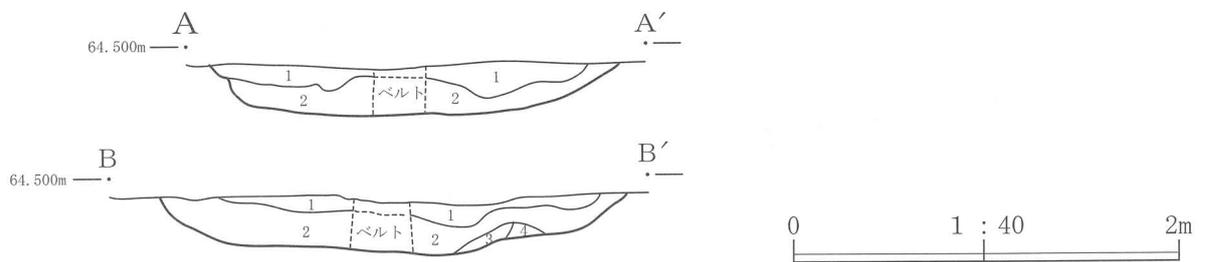
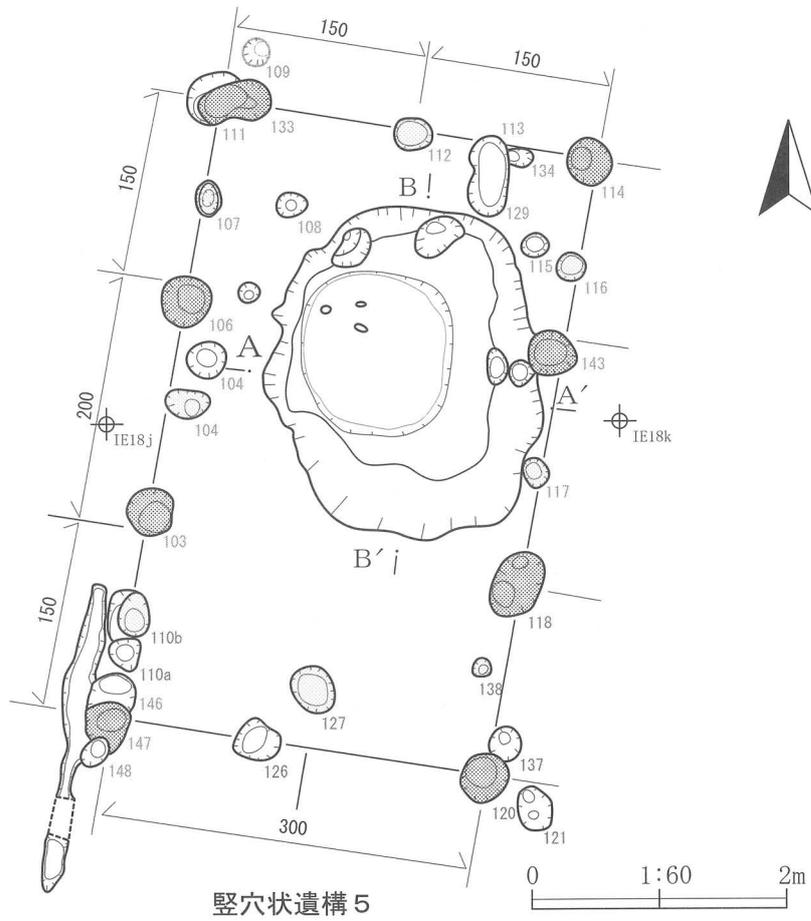


2②-縦穴状遺構 3
 1. 10YR3/1黒褐色-2/1黒色. シルト. やや密. 粘性あまり無い. 地山ブロック φ5~10mmごく微.
 ※遺物は出土せず. 時期不明.
 ※東壁に特徴同じ.



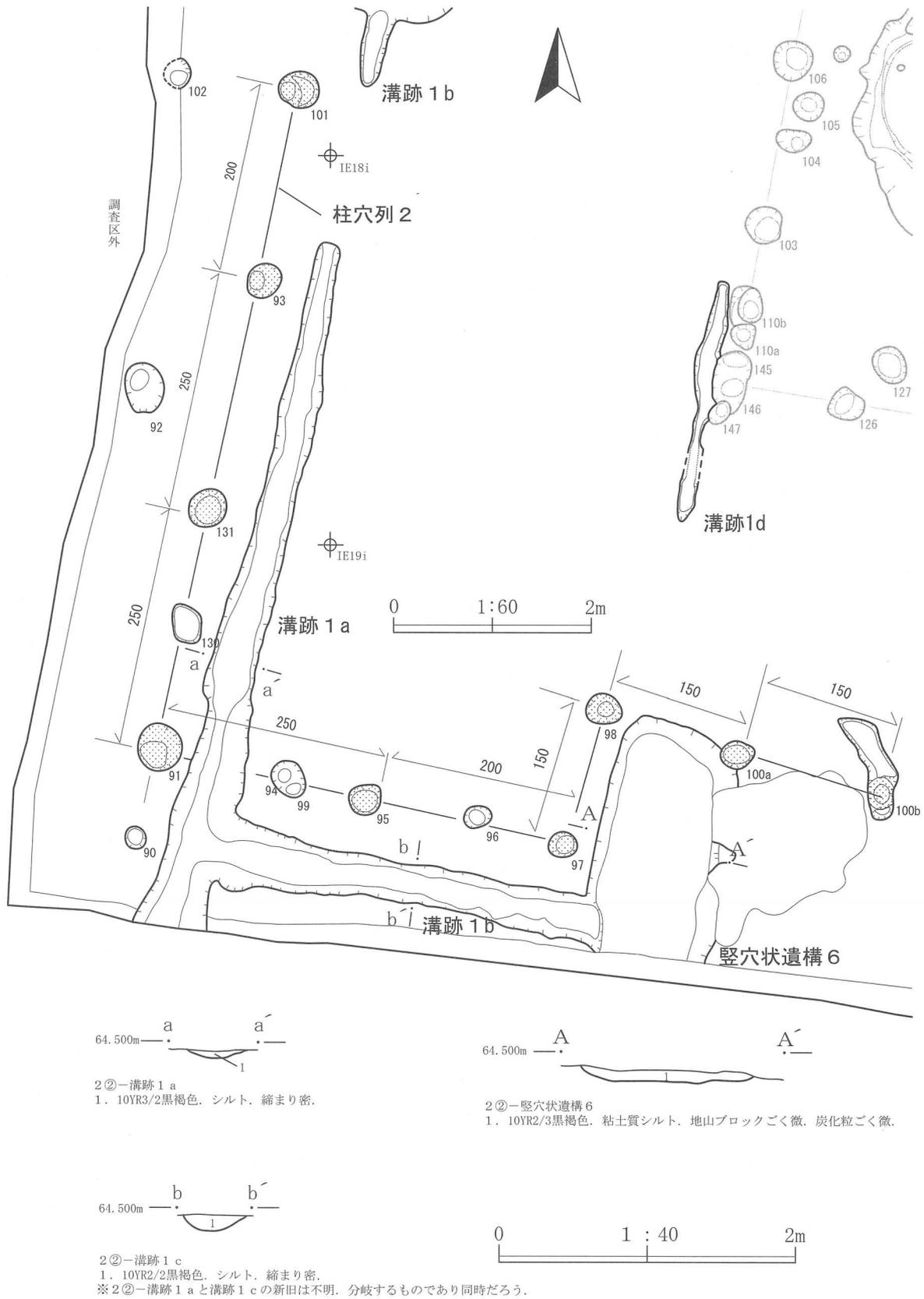
2②-縦穴状遺構 4
 0. 攪乱層.
 1. 10YR2/3黒褐色. シルト. 粘性やや強. 締まりやや密. φ50~100mm礫ごく微.
 2. 10YR4/4褐色. 粘土質シルト. 下部砂質帯びる (以下. 地山).
 ※底面に酸化マンガン斑.
 ※1層は周辺の柱穴埋土主体土に類似.
 ※重複する溝跡1との新旧は不明. 埋土よく似ており. 同時か?

第19図 2②区縦穴状遺構3・4



- 2②-縦穴状遺構5
 1. 10YR2/3黒褐色. シルト, 地山粘土ブロック (φ5~20mm) 少.
 2. 10YR2/2黒褐色. 粘土質シルト.
 3. 10YR2/2黒褐色. 粘土質シルト, 地山ブロック (φ10mm) 少, グライ化.
 4. 地山ブロック層.

第20図 2②区縦穴状遺構5



第21図 2②区竪穴状遺構6、柱穴列2、溝跡1

第5表 2区柱穴一覧

遺跡	区	No.	位置	掘り方埋土主体土		混入物		柱径径 (cm)	底面レベル (cm)	帰属遺構	重複 (新>旧)	出土遺物			備考
				色調	土質	地山ブロック	炭					種類	図版	写真	
上野 I	2㉑	1	I F19h	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.676						
上野 I	2㉑	2	I F19g	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.670						
上野 I	2㉑	3	I F19g	10YR2/2-2/3	シルト	少		12	63.678						
上野 I	2㉑	4	I F19g	10YR2/2-2/3	シルト	少		14	63.756						
上野 I	2㉑	5	I F19g・19h	10YR2/2-2/3	シルト	少		15	63.711						
上野 I	2㉑	6	I F19h	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.880						
上野 I	2㉑	7	I F18h・18i	10YR2/2-2/3	シルト	やや多			63.640	建物跡2					
上野 I	2㉑	8	I F18h	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.785						
上野 I	2㉑	9	I F18h	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.585						
上野 I	2㉑	10	I F18g	10YR2/2-2/3	シルト	やや多			63.557	建物跡1・2					
上野 I	2㉑	11	I F18g	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.835						
上野 I	2㉑	12	I F18g	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.740						
上野 I	2㉑	13	I F18f	10YR2/2-2/3	シルト	やや多			63.834	建物跡1					
上野 I	2㉑	14	I F17f	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.630	建物跡1					
上野 I	2㉑	15	I F17f・17g	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.720						
上野 I	2㉑	16	I F17g	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.614						
上野 I	2㉑	17	I F18g	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.656						
上野 I	2㉑	18	I F18g	10YR2/2-2/3	シルト	やや多			63.455	建物跡1・2					
上野 I	2㉑	19	I F17g・17h	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.576						
上野 I	2㉑	20	I F17g・17h	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.585		<pp29				
上野 I	2㉑	21	I F18h	10YR2/2-2/3	シルト	多			63.620						
上野 I	2㉑	22	I F18h	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.508						
上野 I	2㉑	23	I F18h	10YR2/2-2/3	シルト	多		14	63.608						
上野 I	2㉑	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2㉑	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2㉑	26	I F17i	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.713						
上野 I	2㉑	27	I F17i	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.550	建物跡2					
上野 I	2㉑	28	I F18h	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.704						
上野 I	2㉑	29	I F17g・17h	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.585	建物跡2	>pp20				
上野 I	2㉑	30	I F17g	10YR2/2-2/3	シルト	なし			63.860	竪穴状遺構1					
上野 I	2㉑	31	I F17h	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.640						
上野 I	2㉑	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2㉑	33	I F17h	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.670	建物跡2					
上野 I	2㉑	34	I F16g・17g	10YR2/2-2/3	シルト	多			63.784	竪穴状遺構1					
上野 I	2㉑	35	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2㉑	36	I F16h	—	—	—	—	—	—	建物跡1					
上野 I	2㉑	37	I F16g	10YR2/2-2/3	シルト	少		15	63.749						
上野 I	2㉑	38	I F17e・17f	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2㉑	39	I F16e・16f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			64.010						
上野 I	2㉑	40	I F16f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			64.040						
上野 I	2㉑	41	I F15f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.982						
上野 I	2㉑	42	I F15f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.967						
上野 I	2㉑	43	I F18i	10YR2/2	シルト	なし			63.725						2㉑西部より黒っぽい
上野 I	2㉑	44	I F18j	10YR2/2	シルト	なし			63.730						2㉑西部より黒っぽい
上野 I	2㉑	45	I F18j	10YR2/2	シルト	ごく微			63.560						2㉑西部より黒っぽい
上野 I	2㉑	46	I F17j	10YR2/2	シルト	ごく微			63.588						
上野 I	2㉑	47	I F18k	10YR2/2	シルト	少			63.578						2㉑西部より黒っぽい
上野 I	2㉑	48	I F14i・15i	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微		16	63.632	竪穴状遺構2					柱材残
上野 I	2㉑	49	I F15i	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微		16	63.550	竪穴状遺構2					柱材残
上野 I	2㉑	50	I F15i・16i	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.618	竪穴状遺構2					
上野 I	2㉑	51	I F15i	10YR2/2-2/3	シルト	微		14	63.860						掘り方浅い
上野 I	2㉑	52	I F15i	10YR2/2-2/3	シルト	微		16	63.716						掘り方浅い
上野 I	2㉑	53	I F15j	10YR2/2-2/3	シルト	微		16	63.396	竪穴状遺構2					柱材残
上野 I	2㉑	54	I F15j	10YR2/2-2/3	シルト	微		16	63.574	竪穴状遺構2					柱材残
上野 I	2㉑	55	I F14i	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.782						
上野 I	2㉑	56	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2㉑	57	I F15k	10YR2/2	シルト				63.525						
上野 I	2㉑	58	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

IV 検出遺構と出土遺物

遺跡	区	No.	位置	掘り方埋土主体土		混入物		柱径 (cm)	底面レベル (cm)	帰属遺構	重複 (新>旧)	出土遺物			備考
				色調	土質	地山ブロック	炭					種類	図版	写真	
上野 I	2①	59	I F15i	10YR2/2	シルト	大量			63.399	建物跡3					
上野 I	2①	60	I F14・15i	10YR2/3	シルト	ごく微			63.522	建物跡3					
上野 I	2①	61	I F15i	10YR2/2-2/3	シルト	大量		16	63.358	建物跡3					根固め石有
上野 I	2①	62	I F14m	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.390	建物跡3					
上野 I	2①	63	I F15m	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.230	建物跡3					根固め石有
上野 I	2①	64	I F14m	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.580						
上野 I	2①	65	I F17g・17h	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.472	建物跡1	<pp66	縄文土器	—	—	根固め石有
上野 I	2①	66	I F17h	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.775		>pp65				柱材残、根固石有
上野 I	2①	67	I F14i	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.603						
上野 I	2①	68	I F15i	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.322						
上野 I	2①	69	I F14i	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.593						
上野 I	2①	70	I F16k	10YR2/2	シルト	ごく微			63.468						古いかも
上野 I	2①	71	I F14i		シルト				65.500	竪穴状遺構2					第12図参照
上野 I	2①	72	I F14j		シルト				65.500				24-71		第12図参照
上野 I	2①	73	I F18g	10YR2/2-2/3	シルト	やや多			63.873						
上野 I	2①	74	I F17g	10YR2/2	シルト	多			63.536			石器	—	—	根固め石有
上野 I	2①	75	I F17f	10YR2/2	シルト	ごく微			63.930	竪穴状遺構1					
上野 I	2①	76	I F16f	10YR2/2	シルト	ごく微			64.010	竪穴状遺構1					
上野 I	2①	77	I F16f・17f	10YR2/2	シルト	多			63.835						
上野 I	2①	78	I F16g	10YR2/2	シルト	ごく微			63.690						根固め石有
上野 I	2①	79	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2①	80	I F16g	10YR2/2	シルト	少			63.801						
上野 I	2①	81	I F16g	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.920						根固め石有
上野 I	2①	82	I F17h	10YR2/2-2/3	シルト	少	16		63.604		<pp32				
上野 I	2①	83	I F17h	10YR2/2	シルト	ごく微			63.760						
上野 I	2①	84	I F15j	10YR2/2	シルト	少			63.764						
上野 I	2①	85	I F15j	10YR2/2	シルト	ごく微	○		63.664						
上野 I	2①	86	I F14j・15j	10YR2/2	シルト	微			63.776			縄文土器			
上野 I	2①	87	I F14k	10YR2/2	シルト	微			63.704						
上野 I	2①	88	I F14k	10YR2/2	シルト	少			63.740						
上野 I	2①	89	I F14k	10YR2/2	シルト	ごく微			63.772						
上野 I	2①	90	I F15k	10YR2/2	シルト	ごく微			63.778						
上野 I	2①	91	I F15k	10YR2/2	シルト	やや多			63.695						
上野 I	2①	92	I F15k	10YR2/2	シルト	ごく微			63.730						
上野 I	2①	93	I F16k	10YR2/2	シルト	ごく微			63.620						
上野 I	2①	94	I F16k	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.666						
上野 I	2①	95	I F16i	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.370	建物跡3					
上野 I	2①	96	I F16i	10YR2/2	シルト	微			63.526						
上野 I	2①	97	I F15i	10YR2/2	シルト	ごく微			63.416		<pp98				
上野 I	2①	98	I F15i	10YR2/2	シルト	ごく微			63.580		>pp97				
上野 I	2①	99	I F15m	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.700						
上野 I	2①	100	I F15m	10YR2/2	シルト	微			63.307						
上野 I	2①	101	I F15m・16m	10YR2/1-2/2	シルト	ごく微			63.654						
上野 I	2①	102	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2①	103	I F15m・15n	10YR2/2	シルト	少			63.600						
上野 I	2①	104	I F14m	10YR2/2	シルト	ごく微			63.510	建物跡3					根固め石?
上野 I	2①	105	I F14m	10YR2/2	シルト	多			63.633						
上野 I	2①	106	I F18j	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.594						
上野 I	2①	107	I F19i	10YR2/2	シルト	微			63.466						
上野 I	2①	108	I F17g・18g	10YR2/2-2/3	シルト	微	8		63.825	竪穴状遺構1					
上野 I	2①	109	I F17g	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			65.500	竪穴状遺構1					
上野 I	2①	110	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2①	111	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2①	112	I F19i	10YR2/1	シルト	ごく微			63.670		>pp113				
上野 I	2①	113	I F19i	10YR2/2	シルト	微			63.616		<pp112				
上野 I	2①	114	I F17f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			64.051	竪穴状遺構1					
上野 I	2①	115	I F17f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.975	竪穴状遺構1					
上野 I	2①	116	I F17f	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.974						
上野 I	2①	117	I F17g・17g	10YR2/2	シルト	ごく微			65.500	建物跡1	>2①竪穴状遺構1				

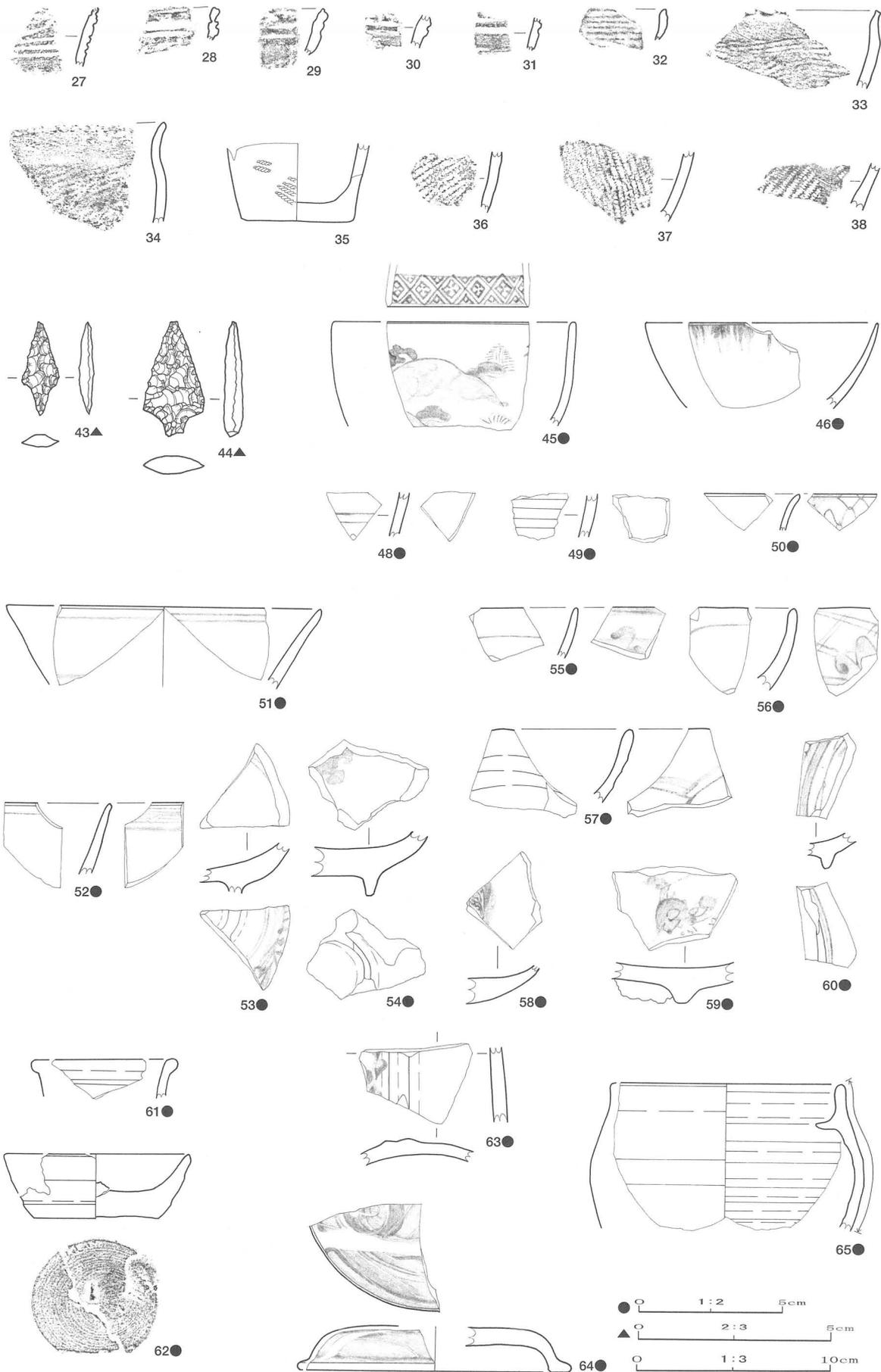
IV 検出遺構と出土遺物

遺跡	区	No.	位置	掘り方埋土主体土		混入物		柱径 (cm)	底面レベル (cm)	帰属遺構	重複 (新>旧)	出土遺物			備考
				色調	土質	地山ブロック	炭					種類	図版	写真	
上野 I	2①	118	I F17g	10YR2/2-2/3	シルト	微			65.500		>2①竪穴状遺構1				
上野 I	2①	119	I F16g	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.877		>2①竪穴状遺構1				
上野 I	2①	120	I F16g	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.545	建物跡1	>2①竪穴状遺構1				根固め石有
上野 I	2①	121	I F15i	10YR2/1-2/2	シルト	微			63.642		>2①竪穴状遺構2				
上野 I	2①	122	I F15i	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.808						
上野 I	2①	123	I F14i	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.935						
上野 I	2①	124	I F16i	10YR2/2-2/3	シルト	大量			63.717						
上野 I	2①	125	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2①	126	I F14i	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.465		>pp130				
上野 I	2①	127	I F18i	10YR2/1	シルト	ごく微			63.632	建物跡2	>pp128				
上野 I	2①	128	I F17i	10YR2/1	シルト	ごく微			63.695		<pp127				
上野 I	2①	129	I F18i	10YR3/1-2/1	シルト	微			63.607	建物跡2					
上野 I	2①	130	I F14i	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.570	建物跡3	<pp126				
上野 I	2①	131	I F16i	10YR3/1-2/1	シルト	少			63.218	建物跡3					
上野 I	2①	132	I F15m・16m	10YR3/1-2/1	シルト	多	○		63.166		>2①竪穴状遺構3				根固め石有
上野 I	2①	133	I F16k	10YR3/1-2/1	シルト	少			63.546		>2①溝跡2				
上野 I	2①	134	I F16m	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微			63.636		>2①竪穴状遺構3				
上野 I	2①	135	I F14m・15m	10YR3/1-2/1	シルト	多			63.270	建物跡3					
上野 I	2①	136	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2①	137	I F15m	10YR2/2	シルト	ごく微			63.645		>pp138				
上野 I	2①	138	I F15m	10YR2/2	シルト	ごく微			63.635		<pp137				
上野 I	2②	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	4	IF19a	10YR3/1-2/2	シルト	なし			63.962						
上野 I	2②	5	IE19y	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.098						杭状
上野 I	2②	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	7	IF17a	10YR2/1-2/2	シルト	微			64.205						
上野 I	2②	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	9	IE18y	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.157						浅 落ち込み?
上野 I	2②	10	IE18y	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.282						浅 落ち込み?
上野 I	2②	11	IE18y	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微			64.104	建物跡2					
上野 I	2②	12	IE18y	10YR3/1	シルト	ごく微			64.100						底面 柱穴 φ8mm
上野 I	2②	13	IE18y	10YR3/1	シルト	ごく微			64.102						底面 柱穴 φ12mm
上野 I	2②	14	IE18y	10YR3/1	シルト	ごく微			64.144						底面 柱穴 φ10mm
上野 I	2②	15	IE18y	10YR2/2	シルト	なし			64.152	建物跡2					
上野 I	2②	16	IE17y	10YR3/1-2/2	シルト	微			64.174						
上野 I	2②	17	IE17y	10YR3/1-2/2	シルト	微			64.177	建物跡2					
上野 I	2②	18	IE17y	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.198	建物跡2					
上野 I	2②	19	IF17a	10YR3/1-2/1	シルト	地山礫少			63.986						
上野 I	2②	20	IF16a・17a	10YR3/1-2/1	シルト	少			63.925	建物跡1a					
上野 I	2②	21	IE16y	10YR2/2-2/3	シルト	少			64.362						底面 柱穴 φ8mm
上野 I	2②	22	IE16y	10YR3/1-2/2	シルト	なし			64.250						底面 柱穴 φ10mm
上野 I	2②	23	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	24	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	25	IF16a	10YR3/1-2/2	シルト	少			63.970	建物跡1b					
上野 I	2②	26	IF16a	10YR3/1-2/2	シルト	少			63.976						
上野 I	2②	27	IF16a	10YR3/1-2/2	シルト	少			64.045	建物跡1b					
上野 I	2②	28	IF15a・16a	10YR3/1-2/2	シルト	少			63.896	建物跡1a					
上野 I	2②	29	IF15a	10YR3/1-2/2	シルト	少			63.918	建物跡1b					
上野 I	2②	30	IF16a	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.176						杭穴?
上野 I	2②	31	IE16y	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.264						
上野 I	2②	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	33	IE16y	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.208						
上野 I	2②	34	IE16y	10YR2/2-2/3	シルト	少			64.212						
上野 I	2②	35	IE16y	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.250						
上野 I	2②	36	IE17y	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.221		<pp137				
上野 I	2②	37	IE17y	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.206		>pp136				
上野 I	2②	38	IE17y	10YR2/2-2/3	シルト	少		18	64.174	建物跡2					

IV 検出遺構と出土遺物

遺跡	区	No.	位置	掘り方埋土主体土		混入物		柱径径 (cm)	底面レベル (cm)	帰属遺構	重複 (新>旧)	出土遺物			備考
				色調	土質	地山ブロック	炭					種類	図版	写真	
上野 I	2②	39	IE16x・IE16y	10YR3/1-2/2	シルト	ごく微			63.932	建物跡1a					
上野 I	2②	40	IE16x・IE16y	10YR3/1-2/2	シルト	少			64.082	建物跡1b					
上野 I	2②	41	IE17y	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.187	柱穴列1					
上野 I	2②	42	IE17x	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.166	建物跡2					
上野 I	2②	43	IE18x・18y	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.162						
上野 I	2②	44	IE18y	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.146	柱穴列1					
上野 I	2②	45	IE18y	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.103						
上野 I	2②	46	IE18y	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.102	柱穴列1					
上野 I	2②	47	IE18x・18y	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.040	柱穴列1					
上野 I	2②	48	IE18x	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.135	建物跡2					
上野 I	2②	49	IE18x	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.135						
上野 I	2②	50	IE19x	10YR3/1-2/1	シルト	少			64.010						
上野 I	2②	51	IE18x	10YR3/1-2/1	シルト	なし			63.986	柱穴列1					
上野 I	2②	52	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	53	IE18w・18x	10YR3/1-2/1	シルト	微			63.974	柱穴列1					
上野 I	2②	54	IE18w	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.136						
上野 I	2②	55	IE18w	10YR3/1-2/1	シルト	少			64.173						
上野 I	2②	56	IE18w	10YR3/1-2/1	シルト	少			63.940	柱穴列1					
上野 I	2②	57	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	58	IE18w	10YR3/1-2/2	なし	なし			64.122						
上野 I	2②	59	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	61	IE18u	10YR3/1-2/2	シルト	なし			64.010						
上野 I	2②	62	IE19u	10YR3/1-2/2	シルト	微			63.992						
上野 I	2②	63	IE19u	10YR3/1-2/2	シルト	少			63.970						
上野 I	2②	64	IE19u	10YR3/1-2/1	シルト	なし			63.900						
上野 I	2②	65	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	66	IF15a	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			63.882						
上野 I	2②	67	IF15a	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.906	建物跡1a					
上野 I	2②	68	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	69	IF15a	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微			64.010						地山砂・礫
上野 I	2②	70	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	71	IE16y	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.085		<pp72				地山礫
上野 I	2②	72	IE16y	10YR3/1-2/1	シルト	微			64.096		>pp71				地山礫
上野 I	2②	73	IE16y	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微			63.872	建物跡1a					地山砂・礫
上野 I	2②	74	IE15y・16y	10YR3/1-2/2	シルト	ごく微			64.066		>pp81				地山砂・礫
上野 I	2②	75	IE15y	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微			63.755	建物跡1a					地山砂・礫
上野 I	2②	76	IE15y	10YR3/1-2/1	シルト	微			63.982	建物跡1b					地山砂・礫
上野 I	2②	77	IE15x	10YR2/2	シルト	ごく微			64.145						地山砂・礫
上野 I	2②	78	IE15x・16x	10YR3/1-2/1	シルト	大量			64.088						
上野 I	2②	79	IE16x	10YR2/2	シルト	ごく微			64.180			縄文土器			地山礫
上野 I	2②	80	IE17y	10YR3/1-2/1	シルト	少			64.064						地山礫
上野 I	2②	81	IE16y	10YR2/1-2/2	シルト	ごく微			63.896	建物跡1b	<pp74				地山砂・礫
上野 I	2②	82	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	83	IE17x	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微			63.697		>pp86				
上野 I	2②	84	IE18x	10YR3/1-2/1	シルト	少			64.156						
上野 I	2②	85	IE18w	10YR3/1-2/1	シルト	少			64.086						
上野 I	2②	86	IE17x・17y	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微			63.971	建物跡1b	<pp83				地山礫
上野 I	2②	87	IE18x	10YR2/1-2/2	シルト	少			64.138						
上野 I	2②	88	IE17y	10YR3/1-2/1	シルト	ごく微			64.190						
上野 I	2②	89	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上野 I	2②	90	IE19k	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.343						
上野 I	2②	91	IE19k	10YR2/2-2/3	シルト	少			64.046	柱穴列2					
上野 I	2②	92	IE18k	10YR2/2-2/3	シルト	少			64.090						
上野 I	2②	93	IE18k	10YR2/2-2/3	シルト	少			64.007	柱穴列2					
上野 I	2②	94	IE19k	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.201		>pp99				
上野 I	2②	95	IE19i	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.330	柱穴列3					
上野 I	2②	96	IE19i	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.184						
上野 I	2②	97	IE19i	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.154						

遺跡	区	No.	位置	掘り方埋土主体土		混入物		柱痕径 (cm)	底面レベル (cm)	帰属遺構	重複 (新>旧)	出土遺物			備考
				色調	土質	地山ブロック	炭					種類	図版	写真	
上野 I	2②	98	IE19i	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			64.071	柱穴列2					
上野 I	2②	99	IE19k	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.176		<pp94				
上野 I	2②	100	IE19i・IE19j	10YR2/2-2/3	シルト	微			63.955	柱穴列2					
上野 I	2②	101	IE17k	10YR2/2-2/3	シルト	少			64.111	柱穴列2					
上野 I	2②	102	IE17k	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			64.171						根固石有り
上野 I	2②	103	IE18j	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.956	竪穴状遺構5					
上野 I	2②	104	IE17j	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.200						
上野 I	2②	105	IE17j	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.222						
上野 I	2②	106	IE17j	10YR2/2-2/3	シルト	少			63.970	竪穴状遺構5					
上野 I	2②	107	IE17j	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.276						
上野 I	2②	108	IE17j	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			64.140						
上野 I	2②	109	IE17j	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.060						
上野 I	2②	110	IE18j	10YR2/2-2/3	シルト	微			64.012						
上野 I	2②	111	IE17j	10YR2/2-2/3	シルト	ごく微			64.045	竪穴状遺構5					
上野 I	2②	112	IE17j	10YR2/2-2/3	シルト	なし			64.225						
上野 I	2②	113	IE17j	10YR2/2-2/3	シルト	少	18	63.975			<pp129				
上野 I	2②	114	IE17j	10YR2/2-2/3	シルト	なし		64.064		竪穴状遺構5					
上野 I	2②	115	IE17j	10YR2/2-2/3	シルト	微		64.240							
上野 I	2②	116	IE17j	10YR2/2-2/3	シルト	なし		64.322							
上野 I	2②	117	IE18j	10YR2/2-2/3	シルト	なし		64.306							
上野 I	2②	118	IE18j	10YR2/2-2/3	シルト	少		63.965		竪穴状遺構5					
上野 I	2②	119	IE18j	10YR2/2-2/3	シルト	少		64.119							
上野 I	2②	120	IE18j	10YR2/2-2/3	シルト	微		64.012		竪穴状遺構5					
上野 I	2②	121	IE18j	10YR2/2-2/3	シルト	少		64.153							
上野 I	2②	122	IE19j	10YR2/2-2/3	シルト	少		64.011							
上野 I	2②	123	IE19j・20j・19k・20k	10YR2/2-2/3	シルト	少		64.140							土坑?
上野 I	2②	124	IE19k	10YR2/2-2/3	シルト	少		64.121							
上野 I	2②	125	IE19k	10YR2/2-2/3	シルト	微		63.852							
上野 I	2②	126	IE18j	10YR2/2-2/3	シルト	微		64.196							
上野 I	2②	127	IE18j	10YR2/2-2/3	シルト	微		64.115							
上野 I	2②	128	IE19j	10YR2/3	シルト	少		64.084							
上野 I	2②	129	IE17j	10YR2/3	シルト	少	18	63.975			>pp113				
上野 I	2②	130	IE19k	10YR2/3	シルト	少		64.421							
上野 I	2②	131	IE18k	10YR2/3	シルト	少		64.076		柱穴列2					
上野 I	2②	132	IE17j	10YR2/3	シルト	なし		64.305							土坑?
上野 I	2②	133	IE17j	10YR2/3	シルト	微	16	64.045							
上野 I	2②	134	IE17j	10YR2/3	シルト	なし		64.294							
上野 I	2②	135	IE17j・17k	10YR2/3	シルト	微	18	63.995							
上野 I	2②	136	IE18k	10YR2/3	シルト	少		64.246							
上野 I	2②	137	IE18j	10YR2/3	シルト	少	15	64.035		竪穴状遺構5					
上野 I	2②	138	IE18j	10YR2/3	シルト	少		64.224							
上野 I	2②	139	IE17k	10YR2/3	シルト	少		64.214			<pp145、<pp144				
上野 I	2②	140	IE17k	10YR2/3	シルト	微		64.193							
上野 I	2②	141	IE17k	10YR2/3	シルト	地山砂 少		64.236							
上野 I	2②	142	IE17k	10YR2/3	シルト	地山砂 少		63.999							
上野 I	2②	143	IE17j	10YR2/3	シルト	微	12	63.990		竪穴状遺構5					
上野 I	2②	144	IE17k	10YR2/3	シルト	少	15	64.151			>pp145、pp139				
上野 I	2②	145	IE17k	10YR2/3	シルト	微		64.268			<pp144、>pp139				
上野 I	2②	146	IE18i・18j	10YR2/3	シルト	多	15	64.006			>pp147				
上野 I	2②	147	IE18i・18j	10YR2/3	シルト	微		64.040		竪穴状遺構5	<pp146、<pp148				
上野 I	2②	148	IE18i	10YR2/3	シルト	ごく微		64.189			<pp147				
上野 I	2②	149	IE16k	10YR2/3	シルト	なし		64.135							



第22図 2区出土遺物(1)

(3) 出土遺物 (第22~24図、写真図版16~18)

①縄文土器

2区では2①区において柱穴や竪穴状遺構、溝跡から縄文土器が若干出土している。また、2①区東端のIF15m・nグリッドの風倒木痕から比較的まとまって縄文土器が出土したことから、2①区の東側調査区外に遺物包含層が残っている可能性がある。

28は柱穴埋土から出土したもので、変形工字文が施されていたものと思われる。30・19・20・23の精製土器や31・32の粗製土器も28と近い時期のものと考えられる。

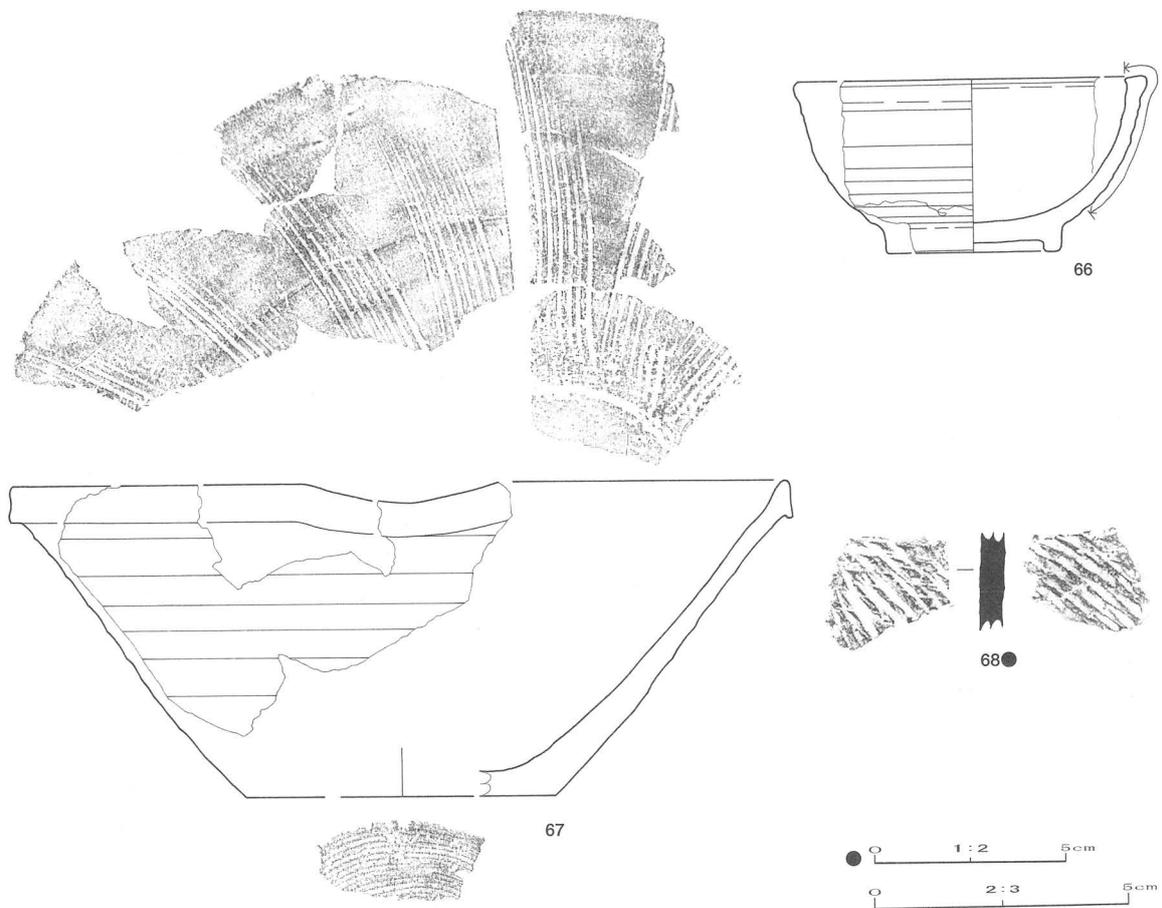
また2②区の東側でも極僅かに縄文土器が出土したが、摩滅がひどく、特徴を把握できなかった。

②石器

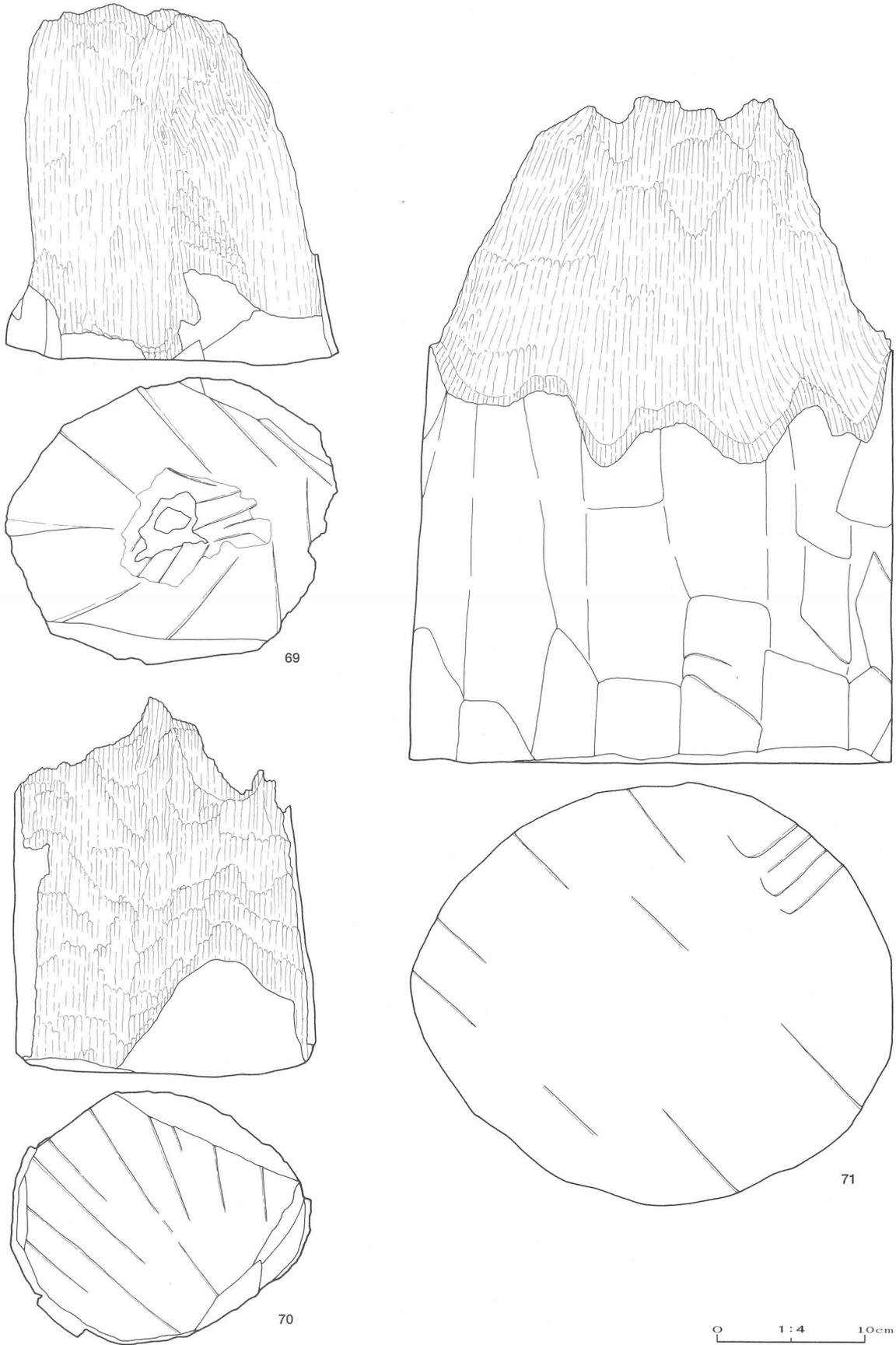
石器は、石鏃が2点出土した。

③陶磁器

碗8点、皿7点、徳利2点、灯明皿1点、花器1点、蓋1点、急須1点、鉢1点、播鉢1点が出土した。時期は18世紀後半から19世紀初頭のもものが中心である。その他、須恵器が1点出土している。



第23図 2区出土遺物 (2)



第24図 2区出土遺物 (3)

第6表 2区出土遺物一覧

掲載番号	仮No'	区	出土地点・遺構名	器種	部位	最大径	器高	底径	地文	特徴	図版番号	写真図版
27	28	2①	pp86	鉢	体部	—	—	—		変形工字文?	22-27	16-27
28	30	2①	表土一括	鉢	口縁部	—	—	—	不明	沈線3条、内面沈線1条	22-28	16-28
29	19	2①	2①竪穴状遺構2	鉢	口縁部	—	—	—	不明	沈線2条、内面沈線1条	22-29	16-29
30	20	2①	竪穴状遺構3	不明	口縁部付近	—	—	—	無文	沈線1条	22-30	16-30
31	23	2①	pp64	不明	口縁部付近	—	—	—	不明	沈線3条	22-31	16-31
32	26	2①	pp68	不明	口縁部	—	—	—	不明	沈線1条	22-32	16-32
33	31	2①	表土一括	鉢	口縁部	—	—	—	LR	小波状口縁	22-33	16-33
34	32	2①	表土一括	鉢	口縁部	—	—	—	LR	小波状口縁、口縁S字外反	22-34	16-34
35	1	2①	IF15n	鉢	底部	*7.1	4.1	5.7	LR		22-35	16-35
36	18	2①	2①竪穴状遺構1	鉢	体部	—	—	—	LR		22-36	16-36
37	22	2①	pp59	不明	体部	—	—	—	LR		22-37	16-37
38	24	2①	pp65	不明	体部	—	—	—	LR		22-38	16-38
39	21	2①	溝1	鉢?	口縁部	—	—	—	不明	口唇刻み、内面沈線1条	不掲載	不掲載
40	25	2①	pp68	不明	体部	—	—	—	無文?		不掲載	不掲載
41	27	2①	pp78	不明	体部	—	—	—	無文		不掲載	不掲載
42	29	2①	pp120	不明	体部	—	—	—	無文		不掲載	不掲載

掲載番号	仮No'	区	出土地点・遺構名	長	幅	厚	重量	器種	石質	産地	図版番号	写真図版
43	10	2①	表土一括	2.45	0.95	0.40	0.6	石燧	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	22-43	16-43
44	11	2②	pp148	2.05	1.60	0.50	2.0	石燧	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	22-44	16-44

掲載番号	仮No'	区	出土地点・遺構名	器種	部位	最大径	器高	底径	産地	年代	図版番号	写真図版
45	52	2①	2①竪穴状遺構1	碗	口縁部	8.4	(3.8)	—	不明	(明治以降)	22-45	16-45
46	22	2②	2②竪穴状遺構2	碗	口縁部	(※8.0)	(3.0)	—	不明	明治以降	22-46	16-46
47	23	2②	2②竪穴状遺構2	皿	口縁部	—	—	—	肥前	18c	不掲載	不掲載
48	24	2②	2②竪穴状遺構3	德利	体部	—	—	—	肥前?	時期不明	22-48	16-48
49	20	2②	pp8	碗	体部	—	—	—	在地	時期不明	22-49	16-49
50	21	2②	pp24	碗	口縁部	—	—	—	不明	19c以降	22-50	16-50
51	7	2②	表土一括	碗	口縁部	(※10.8)	(2.8)	—	肥前	18c後半~19c初頭?	22-51	16-51
52	13	2②	表土一括	碗	口縁部	—	—	—	肥前	18c後半~19c初頭	22-52	16-52
53	9	2②	表土一括	碗	底部	—	—	—	瀬戸	19c前半	22-53	16-53
54	18	2②	表土一括	碗	底部	—	—	—	肥前	18(17cにも入るか)	22-54	16-54
55	6	2②	表土一括	皿	体部	—	—	—	肥前?	18c後半~19c初頭?	22-55	16-55
56	4	2②	表土一括	皿	口縁部	—	—	—	肥前	18c後半~19c初頭?	22-56	16-56
57	3	2②	表土一括	皿	体部	—	—	—	肥前	18c後半~19c初頭?	22-57	16-57
58	11	2②	表土一括	皿	体部	—	—	—	在地	19c中~(明治?)	22-58	16-58
59	1	2②	表土一括	皿	底部	—	—	—	肥前	18c後半	22-59	16-59
60	10	2②	表土一括	皿	底部	—	—	—	在地	19c以降	22-60	16-60
61	8	2②	表土一括	德利	口縁部	※5.0	(1.4)	—	在地	時期不明	22-61	16-61
62	16	2②	表土一括	灯明皿		※6.4	2.3	4.3	在地	時期不明	22-62	16-62
63	5	2②	表土一括	花器	体部	—	—	—	瀬戸?	18c後半~19c初頭?	22-63	16-63
64	12	2②	表土一括	蓋		※9.4	(1.6)	—	在地	19c中~(明治?)	22-64	16-64
65	2	2②	表土一括	急須	口縁部	(※9.4)	(5.2)	—	在地	18c以降	22-65	16-65
66	14	2②	表土一括	鉢		(※13.8)	6.9	(※6.6)	在地	18c以降	23-66	16-66
67	17	2②	表土一括	播鉢		(※30.5)	12.5	(※12.0)	在地	時期不明	23-67	17-67
68	19	2②	表土一括	須恵器	体部	—	—	—	—		23-68	17-67

掲載番号	仮No'	区	出土地点・遺構名	種類	長さ	幅	厚	樹種	図版番号	写真図版
69	53	2①	pp49	柱材	24.6	22.4	19.6	クリ	23-69	17-69
70	54	2①	pp54	柱材	26.0	21.6	17.2	クリ	23-70	17-70
71	55	2①	pp71	柱材	45.2	32.4	28.6	クリ	23-71	18-71

3 3 区

(1) 概要

検出遺構 柱穴67個、建物跡2棟、溝跡2条。

出土遺物 近世陶磁器片(0.5箱)、縄文時代尖頭器1点。

3区は調査範囲全体の中央部、国道342号の北側に位置し、上野Ⅱ遺跡の一部に相当する。現況は水田・畑地・宅地の一部となっていた。現在の地境を元に東から順に、宅地の一部を3①区、間に市道をはさんで西側の畑地を3②区、さらに未取得地をはさんで西側の宅地等を3③区とした。

調査の結果、2②区西部から連続する微高地上の3①区からは掘立柱建物跡等の遺構分布が確認された。一方、微高地間の低湿地に相当することがわかった3②区は、風倒木痕が多数分布するのみであった。さらに西側の別の微高地にあたる3③区は遺構の分布が予想されたが、著しい改変を受けており残存する遺構は認められなかった。

(2) 検出遺構

①掘立柱建物跡

3①一建物跡1(第27図、写真図版15)

〔位置〕3①中央部、I E18cグリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行1000cm、梁間500cmの掘立柱建物跡と思われる。

〔建物方位〕N-82°-W(桁方向)、N-8°-E(梁方向)。

〔構成柱穴〕〈主〉pp1・4・6・7・15・18・20・24・30・31・36・40。〈可能性有〉pp2・10・11・38。

〔柱間寸法〕桁方向は200cm、梁方向は100cm・150cm・200cm・300cmなどが用いられている。

〔関連・重複遺構〕東西を溝跡1・2に区画された範囲に位置する。建物跡2とプランが重複するが新旧関係は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものの可能性がある。

3①一建物跡2(第28図、写真図版15)

〔位置〕3①中央部、I E18dグリッド付近に位置する。

〔平面形式〕桁行960cm、梁間570cmの掘立柱建物跡と思われる。

〔建物方位〕N-82°-W(桁方向)、N-5°-E(梁方向)。

〔構成柱穴〕〈主〉pp8・14・19・25・31・33・42・44。〈可能性有〉pp5・12・41・46a・48・52・53・62・66・67。

〔柱間寸法〕桁方向は90cm・120cm・250cm、梁方向は390cm・90cmなどが用いられている。

〔関連・重複遺構〕東西を溝跡1・2に区画された範囲に位置する。建物跡1とプランが重複するが新旧関係は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔帰属年代〕不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものの可能性がある。

②溝跡

3①一溝跡1(第26図)

〔位置〕3①区東端部、I E18fグリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕当区東端部を区画するように南北方向に伸展する。検出した全長は800cm、幅は最大75

cmで、両端は調査区外へと延びる。平坦な底面とほぼ直立する壁面を持ち、南端部は25cmほどに急激に幅を狭めている。走行方向はN-5°-E。

〔埋土と堆積状況〕 混入物の目立たない黒褐色シルト主体の単層である。

〔関連・重複遺構〕 3①-建物跡1及び同2の配置される空間を区画していることから併存した可能性が高い。直接重複する遺構はない。

〔出土遺物〕 なし。

〔遺構の時期〕 不明であるが、周辺の出土遺物等から、江戸～明治時代のものの可能性がある。

3①-溝跡2 (第26図、写真図版15)

〔位置〕 3①区西端部、I E18a グリッド付近に位置する。

〔規模・形状〕 当区西端部を区画するように南北方向に伸展する。検出した全長は620cm、幅は最大118cmで、両端は調査区外へと延びる。断面形は浅皿上を呈し、壁面は緩やかに立ち上がる。走行方向はN-9°-E。

〔埋土と堆積状況〕 混入物の目立たない黒褐色シルト主体の単層である。

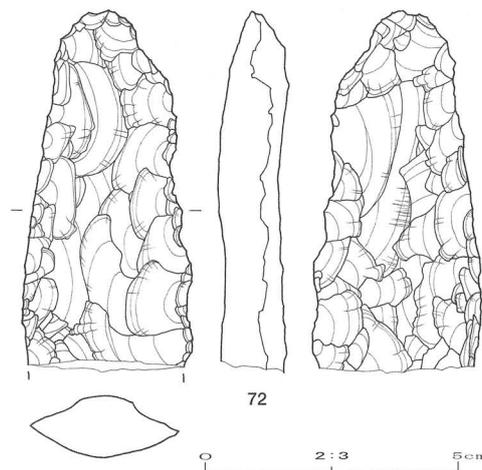
〔関連・重複遺構〕 3①-建物跡1及び同2の配置される空間を区画していることから併存した可能性が高い。直接重複する遺構はない。

〔出土遺物〕

〔遺構の時期〕

(3) 出土遺物 (第25図)

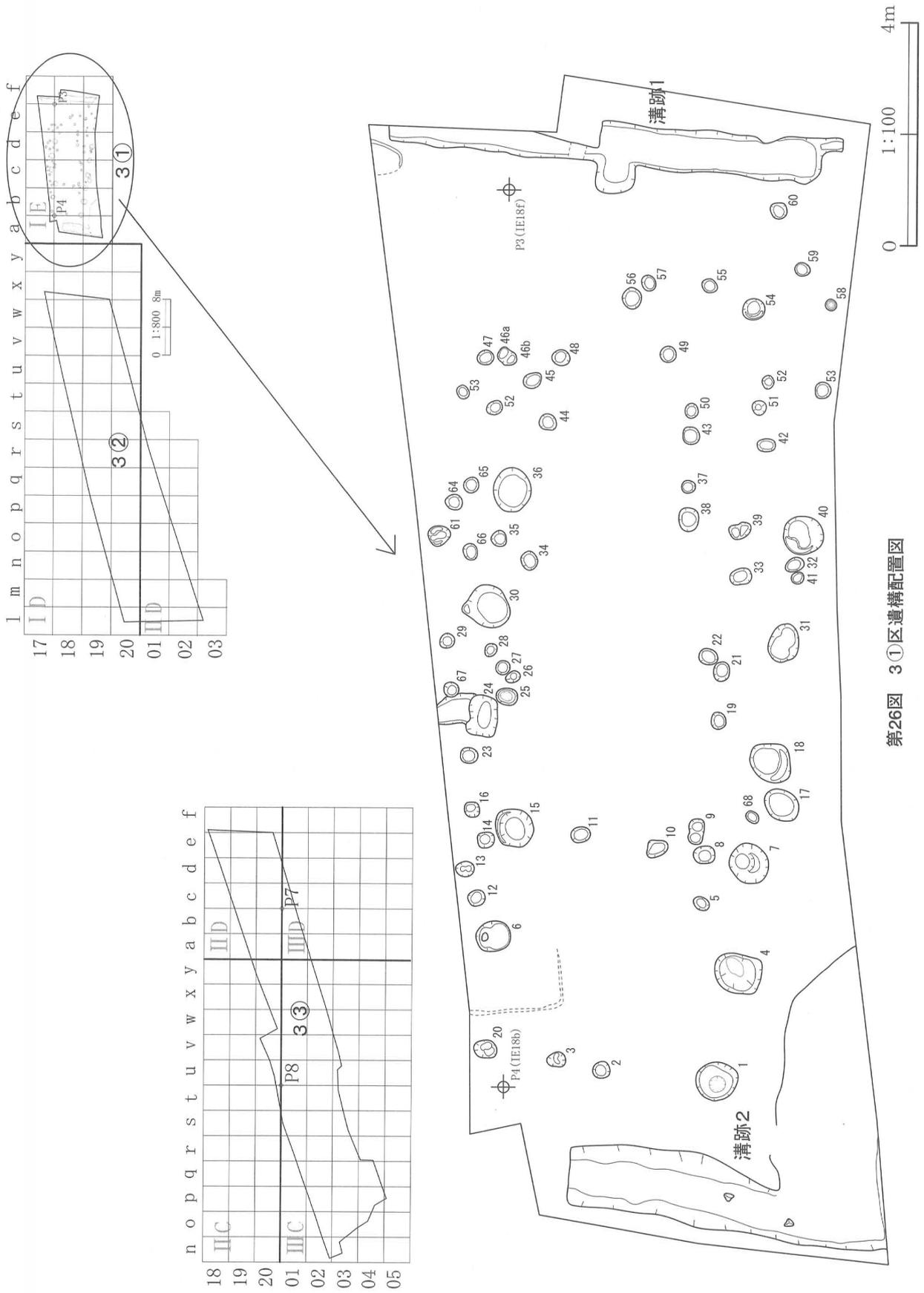
尖頭器が1点出土した。



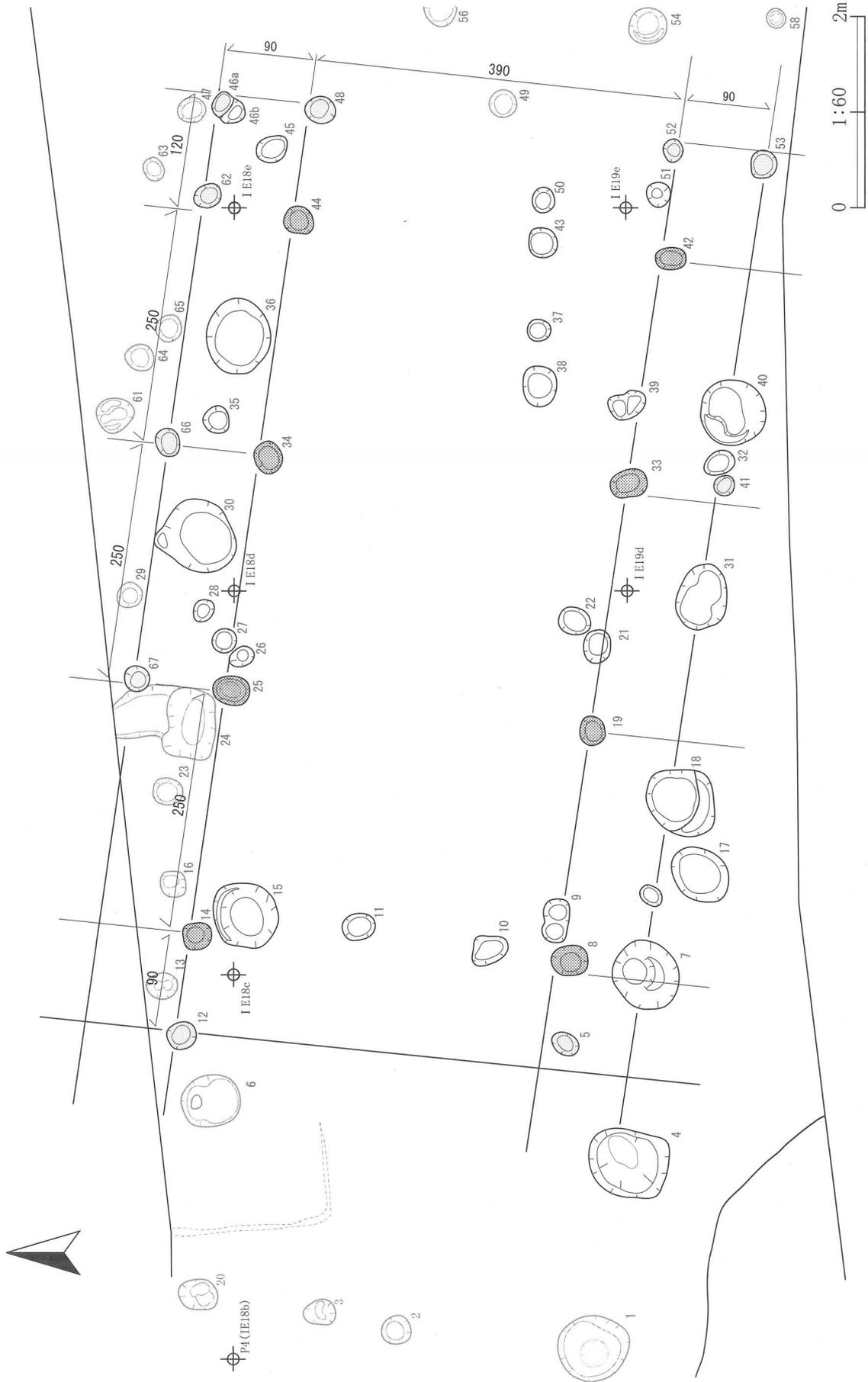
第25図 3区出土遺物

第7表 3区出土遺物一覧

掲載番号	仮No'	区	出土地点・遺構名	長	幅	厚	重量	器種	石質	産地
72	18	3①	表土	7.3	3.4	1.4	35.8	尖頭器	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀



第26図 3①区遺構配置図



第28図 3①区建物跡2

第8表 3①区柱穴一覧

遺跡	区	No.	位置	掘り方埋土主体土		混入物		柱痕径 (cm)	底面レベル	帰属遺構	重複 (新>旧)	出土遺物			備考
				色調	土質	地山ブロック	炭					種類	図版	写真	
上野Ⅱ	3区	1	I E18b	—	—	—	—		64.414	建物跡1					
上野Ⅱ	3区	2	I E18b	—	—	—	—		64.645						
上野Ⅱ	3区	3	I E18b	—	—	—	—		64.641						
上野Ⅱ	3区	4	I E18b・19b	—	—	—	—		64.428	建物跡1					
上野Ⅱ	3区	5	I E18b	—	—	—	—		64.573						
上野Ⅱ	3区	6	I E17b	—	—	—	—		64.420	建物跡1					
上野Ⅱ	3区	7	I E19b・19c	—	—	—	—		64.374	建物跡1					
上野Ⅱ	3区	8	I E18c	—	—	—	—		64.306	建物跡2					
上野Ⅱ	3区	9	I E18c	—	—	—	—		64.598						
上野Ⅱ	3区	10	I E18c	—	—	—	—		64.692						
上野Ⅱ	3区	11	I E18c	—	—	—	—		64.645						
上野Ⅱ	3区	12	I E17b	—	—	—	—		64.610						
上野Ⅱ	3区	13	I E17b	—	—	—	—		64.549						
上野Ⅱ	3区	14	I E17c	—	—	—	—		64.456	建物跡2					
上野Ⅱ	3区	15	I E17c・18c	—	—	—	—		64.360	建物跡1					
上野Ⅱ	3区	16	I E17c	—	—	—	—		64.540						
上野Ⅱ	3区	17	I E19c	—	—	—	—		64.522						
上野Ⅱ	3区	18	I E19c	—	—	—	—		64.412	建物跡1					
上野Ⅱ	3区	19	I E18c	—	—	—	—		64.374	建物跡2					
上野Ⅱ	3区	20	I E17b	—	—	—	—		64.557	建物跡1					
上野Ⅱ	3区	21	I E18c	—	—	—	—		64.490						
上野Ⅱ	3区	22	I E18c	—	—	—	—		64.456						
上野Ⅱ	3区	23	I E17c	—	—	—	—		64.598						
上野Ⅱ	3区	24	I E17c	—	—	—	—		64.300	建物跡1					
上野Ⅱ	3区	25	I E17c・18c	—	—	—	—		64.464	建物跡2					
上野Ⅱ	3区	26	I E18c	—	—	—	—		64.498						
上野Ⅱ	3区	27	I E17c	—	—	—	—		64.490						
上野Ⅱ	3区	28	I E17c	—	—	—	—		64.576						
上野Ⅱ	3区	29	I E17c	—	—	—	—		64.471						
上野Ⅱ	3区	30	I E17d	—	—	—	—		64.272	建物跡1					
上野Ⅱ	3区	31	I E19c・19d	—	—	—	—		64.360	建物跡1・2					
上野Ⅱ	3区	32	I E19d	—	—	—	—		64.360						
上野Ⅱ	3区	33	I E19d	—	—	—	—		64.419	建物跡2					
上野Ⅱ	3区	34	I E18d	—	—	—	—		64.424						
上野Ⅱ	3区	35	I E17d	—	—	—	—		64.497						
上野Ⅱ	3区	36	I E17d・18d	—	—	—	—		64.346	建物跡1					
上野Ⅱ	3区	37	I E18d	—	—	—	—		64.432						
上野Ⅱ	3区	38	I E18d	—	—	—	—		64.427						
上野Ⅱ	3区	39	I E18d・19d	—	—	—	—		64.424						
上野Ⅱ	3区	40	I E19d	—	—	—	—		64.323	建物跡1					
上野Ⅱ	3区	41	I E19d	—	—	—	—		64.465						
上野Ⅱ	3区	42	I E19d	—	—	—	—		64.324	建物跡2					
上野Ⅱ	3区	43	I E18d	—	—	—	—		64.422						
上野Ⅱ	3区	44	I E18d	—	—	—	—		64.399	建物跡2					
上野Ⅱ	3区	45	I E18e	—	—	—	—		64.557						
上野Ⅱ	3区	46	I E17e・18e	—	—	—	—		64.397						
上野Ⅱ	3区	47	I E17e	—	—	—	—		64.380						
上野Ⅱ	3区	48	I E18e	—	—	—	—		64.438						
上野Ⅱ	3区	49	I E18e	—	—	—	—		64.356						
上野Ⅱ	3区	50	I E18d・18e	—	—	—	—		64.445						
上野Ⅱ	3区	51	I E18d・18e	—	—	—	—		64.372						
上野Ⅱ	3区	52	I E17d・17e	—	—	—	—		64.458						
上野Ⅱ	3区	53	I E17e	—	—	—	—		64.389						
上野Ⅱ	3区	54	I E19e	—	—	—	—		64.353						
上野Ⅱ	3区	55	I E18e	—	—	—	—		64.458						
上野Ⅱ	3区	56	I E18e	—	—	—	—		64.316						
上野Ⅱ	3区	57	I E18e	—	—	—	—		64.411						
上野Ⅱ	3区	58	I E19c	—	—	—	—		64.465						
上野Ⅱ	3区	59	I E19e	—	—	—	—		64.485						
上野Ⅱ	3区	60	I E19e	—	—	—	—		64.287						
上野Ⅱ	3区	61	I E17d	—	—	—	—		64.436						
上野Ⅱ	3区	62	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—
上野Ⅱ	3区	63	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—
上野Ⅱ	3区	64	I E17d	—	—	—	—		64.414						
上野Ⅱ	3区	65	I E17d	—	—	—	—		64.478						
上野Ⅱ	3区	66	I E17d	—	—	—	—		64.431						
上野Ⅱ	3区	67	I E17c	—	—	—	—		64.663						

4 4 区 (第29図、写真図版15)

(1) 概要

検出遺構 柱穴状ピット63個。

出土遺物 縄文時代中期中葉土器 (小1箱)、石器 (尖頭器・石鏃・石匙等)

4区は調査範囲全体の西部、国道342号の北側に位置し、上野Ⅱ遺跡西端～上野Ⅲ遺跡東部に相当する。現況は水田。現在の地境を元に上野Ⅱ遺跡側を4①区、上野Ⅲ遺跡側を4②区とした。

調査の結果、現在4①区と4②区の境界を流れる用水路の下には沢跡があり、両区は沢に沿って形成された微高地であることがわかった。この沢跡の堆積土層には十和田a降下火山灰に類似する灰白火山灰が広がる面が確認されたが、これに伴う遺構・遺物は検出されなかった。4①区は全体的に攪乱を受けており遺構の分布は認められなかったが、4②区では主に西半部に柱穴状ピットの分布が確認された。火山灰分布面より下位の縄文土器を含む黒褐色土を埋土の主体としていることから縄文時代の遺構と推測される。

(2) 検出遺構

①柱穴状ピット群

4②西半部で検出されたピットは、直径15～40cmで、直径40cm以上のpp3・12・14・19・27・31・53は比較的規模が大きい。しかし、これらのピットの並びを把握することはできず、構成は不明である。

(3) 出土遺物

①土器

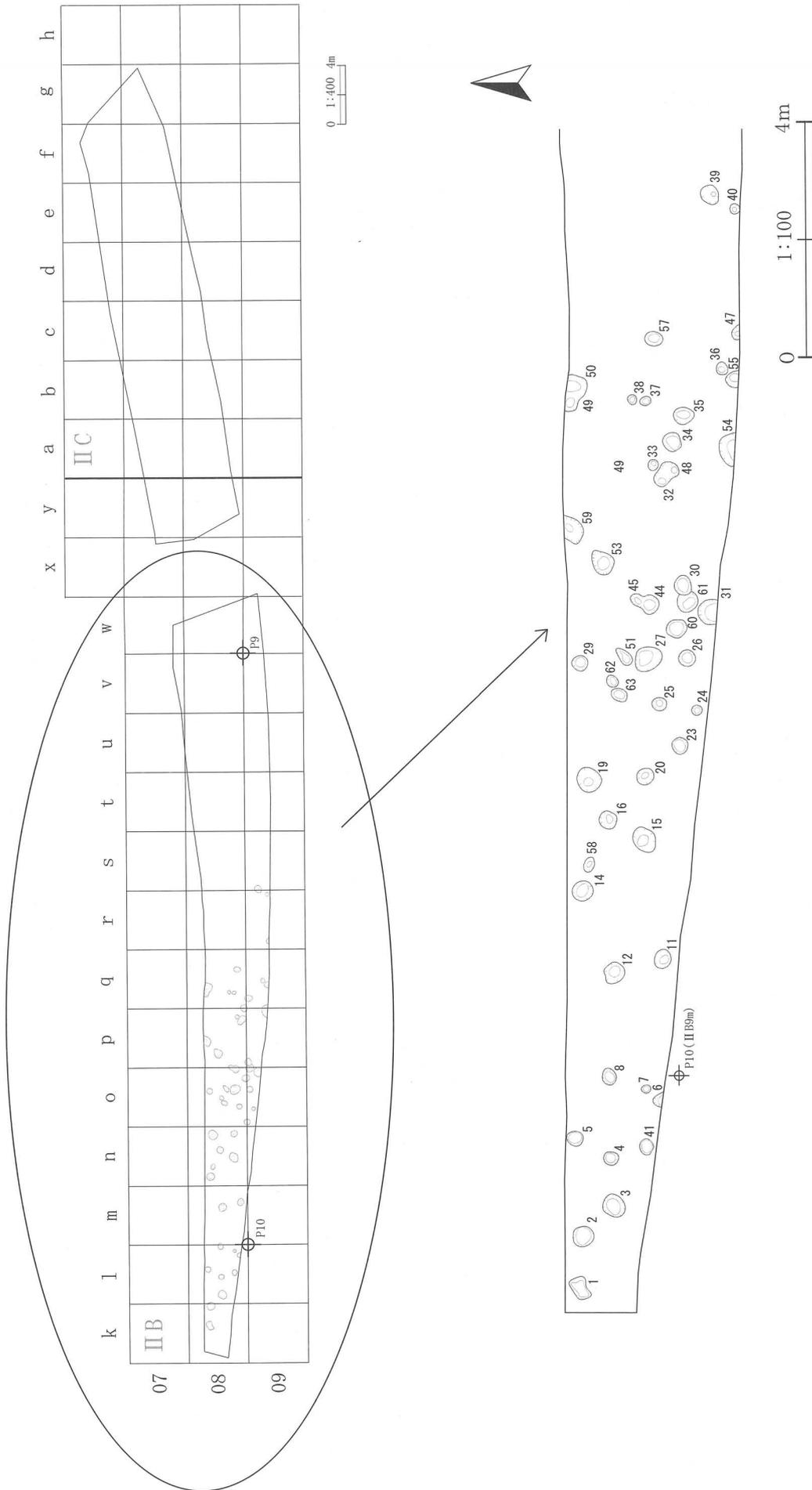
4区では4②区西半の柱穴 (pp28・39) と4②区東半の黒褐色層から縄文土器が出土した。柱穴から出土した土器は極小破片で特徴を把握できなかった。4②区東半から出土したものは第29図で、38・40はキャリパー形の深鉢と思われる。46は土器の突起片で、表裏両面に肉彫的な装飾が施される。43・47は深鉢の口縁部に付けられた大形突起の破片である。これらの遺物は縄文時代中期後葉に位置づけられるものと思われる。

②石器

土器に伴ってフレイクが僅かに出土したが、定形石器は出土していない。

第9表 4②区出土遺物一覧

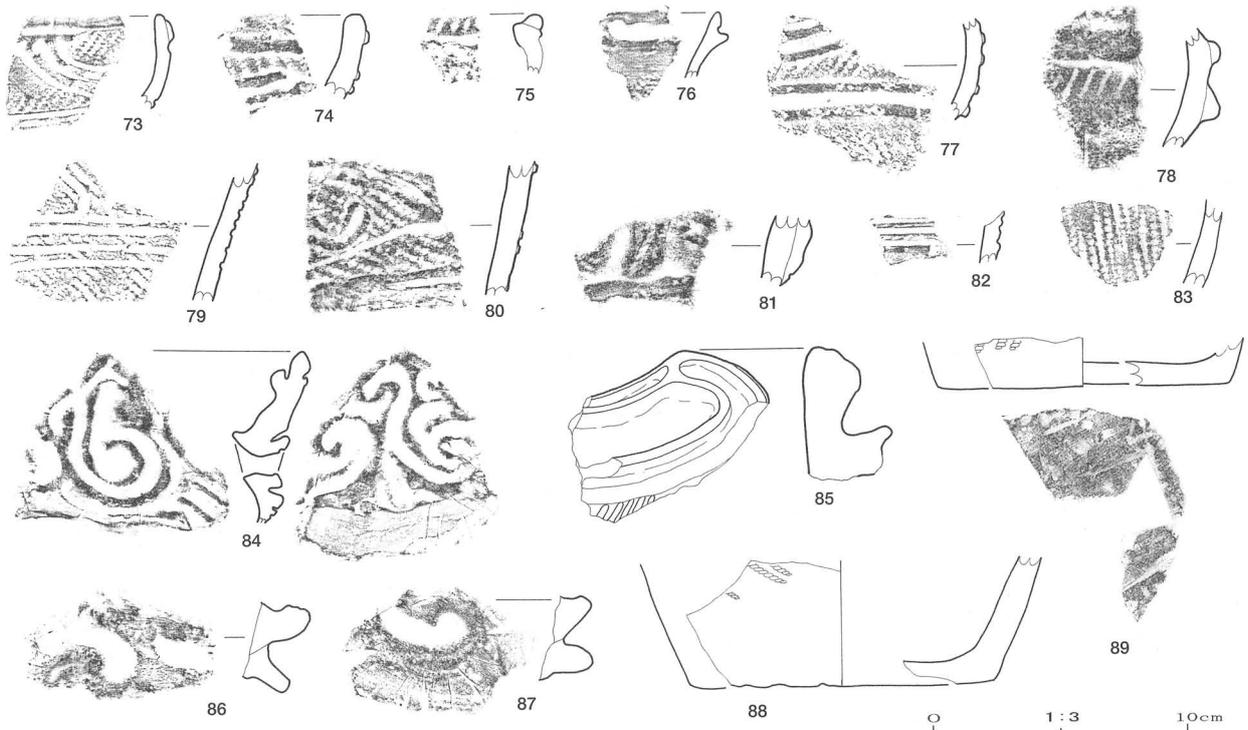
掲載番号	仮No'	区	出土地点・遺構名	器種	部位	最大径	器高	底径	地文	特徴
73	38	4②	Ⅲ層	深鉢	口縁部	—	—	—	LR	隆帯による文様
74	35	4②	Ⅲ層	不明	口縁部	—	—	—	不明	粘土紐貼付3本、炭化物付着
75	37	4②	Ⅲ層	不明	口縁部	—	—	—	不明	口唇刻み
76	36	4②	Ⅲ層	不明	口縁部	—	—	—	RL?	沈線による隆帯の作出
77	40	4②	Ⅲ層	深鉢	体部	—	—	—	LR	隆帯による文様
78	41	4②	Ⅲ層	深鉢	口縁部付近	—	—	—	不明	隆帯2本とその間に斜めの刻み
79	39	4②	Ⅲ層	深鉢	体部	—	—	—	複節	沈線による文様
80	42	4②	Ⅲ層	深鉢	体部	—	—	—	LR	隆帯による文様(渦巻?)
81	45	4②	Ⅲ層	深鉢	口縁部	—	—	—	不明	隆帯による文様
82	34	4②	pp39	不明	口縁部付近	—	—	—	不明	沈線2条
83	33	4②	pp28	不明	体部	—	—	—	LR	
84	46	4②	Ⅲ層	深鉢	突起	—	—	—	不明	口縁部の貼付突起部分
85	47	4②	Ⅲ層	深鉢	突起	—	—	—	不明	口縁部の貼付突起部分
86	44	4②	Ⅲ層	不明	突起	—	—	—	不明	口縁部の貼付突起部分
87	43	4②	Ⅲ層	不明	突起	—	—	—	不明	口縁部の貼付突起部分
88	2	4②	Ⅲ層	深鉢	底部	*15.6	(5.1)	*11.8	LR	
89	48	4②	Ⅲ層	深鉢	底部	*11.3	(2.0)	*10.7	RL	網状痕



第29図 4区全図(上)と4②区遺構配置図(下)

第10表 4②区柱穴一覧

通跡	No.	位置	掘り方埋土主体土		混入物		柱径径 (cm)	底面レベル	帰属遺構	重複 (新>旧)	出土遺物			備考
			色調	土質	地山ブロック	炭					種類	図版	写真	
上野Ⅲ	1	ⅡB08k	10YR2/1-3/1	シルト	砂多			65.105						地山砂
上野Ⅲ	2	ⅡB08k	10YR2/1-3/1	シルト	砂ごく微			65.114						地山礫・砂
上野Ⅲ	3	ⅡB08l	10YR2/1-3/1	シルト	砂ごく微			65.122			縄文土器			地山礫・砂 深い
上野Ⅲ	4	ⅡB08l	10YR2/1-3/1	シルト	砂少	○		65.181						地山砂
上野Ⅲ	5	ⅡB08l	10YR2/1-3/1	シルト	砂少			65.255						地山砂 浅い
上野Ⅲ	6	ⅡB08l	10YR2/1-3/1	シルト	砂ごく微			65.185						地山砂
上野Ⅲ	7	ⅡB08l	10YR2/1-3/1	シルト	砂ごく微			65.179						地山砂
上野Ⅲ	8	ⅡB08l	10YR2/1-3/1	シルト	砂ごく微			65.161						地山礫・砂 深い
上野Ⅲ	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	11	ⅡB08m	10YR2/1-3/1	シルト	砂ごく微			65.045						地山礫・砂 深い
上野Ⅲ	12	ⅡB08m	10YR2/1-3/1	シルト	砂ごく微			65.018						地山礫・砂 深い
上野Ⅲ	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	14	ⅡB08n	10YR2/1-3/1	シルト	砂ごく微			65.040						地山礫 深い 柱穴
上野Ⅲ	15	ⅡB08n	10YR2/1-3/1	シルト	砂ごく微			65.104						地山礫 浅い
上野Ⅲ	16	ⅡB08n	10YR4/2	砂質シルト	砂多			65.069						地山礫 柱穴
上野Ⅲ	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	19	ⅡB08n	10YR2/1-3/1	シルト	砂多(砂ブロック混入)			64.920						地山礫 深い 柱穴
上野Ⅲ	20	ⅡB08n	10YR2/1-3/1	シルト	砂ごく微			65.021						地山礫 柱穴
上野Ⅲ	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	23	ⅡB08o・09o	10YR4/2	シルト	砂少			65.089						地山礫 柱穴
上野Ⅲ	24	ⅡB09o	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			65.110						地砂
上野Ⅲ	25	ⅡB08o	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			65.050						地山礫 柱穴
上野Ⅲ	26	ⅡB09o	10YR2/1-3/1	シルト	砂微 浮石(?)			65.091						地山礫
上野Ⅲ	27	ⅡB08o	10YR2/1-3/1	シルト	砂微 粘土ブロック			65.035						地山礫 柱穴
上野Ⅲ	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	29	ⅡB08o	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			65.081						地山礫 柱穴
上野Ⅲ	30	ⅡB09p	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			65.059		>pp61				地山礫 柱穴
上野Ⅲ	31	ⅡB09p・09q	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			64.960						地山礫 深い 柱穴
上野Ⅲ	32	ⅡB09p	10YR2/1-3/1	シルト	砂少(砂ブロック混入)			65.040						地山礫
上野Ⅲ	33	ⅡB09p	10YR3/1	シルト	砂少			64.985						地砂
上野Ⅲ	34	ⅡB09p・08q	10YR2/1-3/1	シルト	砂少(砂ブロック混入)			64.911						地山礫 深い 柱穴
上野Ⅲ	35	ⅡB08q	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			65.026						地砂 浅い
上野Ⅲ	36	ⅡB09q	10YR2/1-3/1	シルト	砂少			65.009						地砂
上野Ⅲ	37	ⅡB08q	10YR2/1-3/1	シルト	砂少			65.095						地砂
上野Ⅲ	38	ⅡB08q	10YR2/1-3/1	シルト	砂多			65.064						地砂
上野Ⅲ	39	ⅡB09r・09s	10YR2/1-3/1	シルト	砂少			64.871			縄文土器			地砂
上野Ⅲ	40	ⅡB09r	10YR2/1-3/1	シルト	砂ごく微			64.970						地砂 浅い
上野Ⅲ	41	ⅡB08l	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			65.181						浅い
上野Ⅲ	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	44	ⅡB08o	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			65.033						地山礫 深い
上野Ⅲ	45	ⅡB08o	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			65.135						地砂 浅い
上野Ⅲ	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	47	ⅡB09r	-	-	-	-	-	65.041						-
上野Ⅲ	48	ⅡB09p	10YR3/2	シルト	砂少			65.070						地砂 浅い
上野Ⅲ	49	ⅡB08q	10YR2/1-3/1	シルト	砂多(砂ブロック混入)			65.049						地砂 浅い 49と同一(?)
上野Ⅲ	50	ⅡB08q	10YR2/1-3/1	シルト	砂多(砂ブロック混入)			65.010						地砂 浅い 50と同一(?)
上野Ⅲ	51	ⅡB08o	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			65.117						地山礫
上野Ⅲ	52	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	53	ⅡB09p	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			64.992						地山礫 深い 柱穴
上野Ⅲ	54	ⅡB09p・09q	-	-	-	-	-	64.968						-
上野Ⅲ	55	ⅡB09q	10YR2/2	シルト	砂多			65.048						地山礫
上野Ⅲ	56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上野Ⅲ	57	ⅡB08q	10YR2/1-3/1	シルト	砂多			65.019						地砂
上野Ⅲ	58	ⅡB08n	10YR2/2	砂質シルト	砂多			65.108						地山礫 小さい穴
上野Ⅲ	59	ⅡB08p	10YR2/1-3/1	シルト	砂微 浮石(?)			64.931						地山礫 深い 柱穴
上野Ⅲ	60	ⅡB08o・09o	10YR2/1-3/1	シルト	砂多			65.045						地山礫 柱穴
上野Ⅲ	61	ⅡB09o	10YR2/2	シルト	砂微			65.086		<pp30				地山礫 浅い
上野Ⅲ	62	ⅡB08o	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			65.111						地山礫 浅い
上野Ⅲ	63	ⅡB08o	10YR2/1-3/1	シルト	砂微			65.065						地山礫 浅い



第30図 4区出土遺物

5 5 区

(1) 概要

検出遺構 なし。

出土遺物 縄文時代中期土器 1袋。

5区は調査範囲全体の西端部、国道342号の南側に位置し、上野Ⅲ遺跡の一部に相当する。現況は造園業関連敷地の一部である。国道対岸の4②区から連続する微高地上面に相当し、段丘縁辺部に位置するため南側は磐井川に面する断崖となっている。

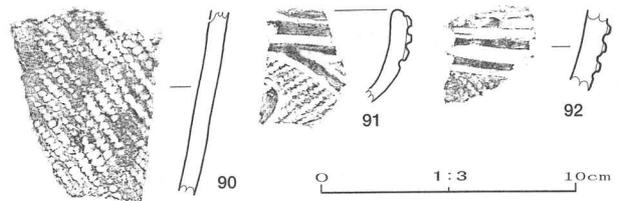
調査の結果、当区は全面的に削平を受けていることがわかり、検出された大小の土坑も精査によって風倒木痕あるいは造園業に伴う植栽痕であることが判明した。

南端部には4②区から連続する黒褐色土層が僅かに残存しており、主にここから縄文時代中期の遺物が出土している。

(2) 出土遺物

①土器

5区からは縄文土器が極少量出土した。91は深鉢の口縁部で、粘土紐隆帯による装飾がみられる。土器の特徴から、4区②で出土した土器と同じく、縄文時代中期後葉のものと思われる。石器は出土しなかった。



第31図 5区出土遺物

第11表 5区出土遺物一覧

掲載番号	仮No'	区	出土地点・遺構名	器種	部位	最大径	器高	底径	地文	特徴	図版番号	写真図版
90	49	5③	表土	不明	体部	—	—	—	LR		31-91	18-91
91	50	5③	表土	深鉢	口縁部	—	—	—	LR	隆帯による文様	31-92	18-92
92	51	5③	表土	深鉢	口縁部付近	—	—	—	RL	沈線3条	31-93	18-93

V ま と め

1 遺 構

東から順に隣接している上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡を東西方向に貫く調査区は総延長700mに及び、河岸段丘上に形成された複数の微高地とその間の湿地を細長く横断している。遺構の分布を概観すると微高地の頂部に集中が見られ、調査区東部（上野Ⅰ遺跡東側隣接地～上野Ⅱ遺跡東端部）と調査区西部（上野Ⅱ遺跡西部～上野Ⅲ遺跡東部）の2つの分布域に分けることができる。遺構分布が見られない区域は微高地間を分断する沢跡・低湿地となっており、風倒木痕や近代以降の耕作痕などが検出されるのみであった。

調査区東部の分布域は、「1②区～2②区東端部」と「2②区西端～3①区」の2地点が、建物跡と竪穴状遺構・土坑・溝跡などからなる屋敷跡となっている。これらの帰属年代を示す遺構内出土遺物は極めて少ないが、わずかな出土遺物は18世紀後半～19世紀初頭の所産と見られ、放射性炭素年代測定の結果を併せ考えれば、概ね近世末～明治時代に帰属するものと推測される。なお、同区域からは磨滅が著しく二次的な堆積によるものとみられる縄文時代晩期の土器片が少量出土している。近隣住民によれば1②区に隣接するポンプ場建設時に弥生時代初頭の土器が多量に出土したといい、調査区内の風倒木痕にも比較的多くの土器片が入ることから、本来は当区域に存在した該期の遺構や包含層が、後世の削平によって失われたものと見られる。

一方、調査区西部の分布域では縄文時代中期中葉の土器片を包含する黒褐色土の分布が広くみられ、特に上野Ⅲ遺跡東端部（4②区）ではこれを埋土主体土とする柱穴状ピット群の分布がみられた。住居跡等の構造物を構成する可能性があるが、柱穴配置や遺構の性格は不明である。

2 遺 物

出土した土器の総量は小コンテナ3箱ほどである。1区と4区で出土したものがほとんどで、2区と5区にも若干みられる。1・2区から出土した土器は縄文時代終末期に位置づけられるもので、遺構から出土したものもあるが、全て埋土からの出土であり、遺構の形成時期を示すものではない。いわゆる変形工字文が施された土器もみられたが、全体的に磨滅がひどく、特徴を把握できないものがほとんどである。

4・5区から出土した土器は縄文時代中期中葉に位置づけられるもので、4区では一部柱穴の埋土から出土しているが、ほとんどが遺構外からの出土である。

以下に、上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡の各調査区における出土遺物の総重量を示した。

調査区	1区	2区	3区	4区	5区
陶磁器類	0g	2568.0g	3332.5g	313.1g	0g
土器	3737.5g	675.1g	0g	5508.1g	107.7g
石器	1362.0g	556.0g	89.0g	59.4g	0g

3 お わ り に

今回の調査は広大な遺跡範囲のごくわずかな地点を調査したに過ぎないが、遺跡内の微地形や土層堆積状況、遺構・遺物の分布状況など基礎的な情報を得ることができた。事業地内の調査未了箇所については翌年度以降も継続実施される見込みであり、全体の様相がさらに明らかになるものと期待される。県内他地域に比して極めて遺跡調査事例の乏しい当地域において、将来の埋蔵文化財保護・活用に資するものとなれば幸いである。

附編 1 放射性炭素年代測定

放射性炭素年代測定結果報告書 (AMS測定)

上野 I 遺跡

(株)加速器分析研究所

(1) 遺跡の位置

上野 I 遺跡は、岩手県一関市巖美町字上野229-1ほかに所在する。

(2) 測定の意義

遺構の帰属年代を特定する。

(3) 測定対象試料

測定対象試料は、2①区竪穴状遺構1の床面直上から出土した木炭 (No.1: IAAA-71786)、2①区竪穴状遺構2の床面直上から出土した木炭 (NO.2: IAAA-71787)、合計2点である。

(4) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001~1Nの水酸化ナトリウム水溶液 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸 (80℃) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO₂) を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

(5) 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。134個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により¹³C/¹²Cの測定も同時に行う。

(6) 算 出 方 法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 2) BP年代値は、過去において大気中の¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定された、1950年を基準年として遡る¹⁴C年代である。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出した。
複数回の測定値について、 χ^2 検定を行い測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。
- 4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもある。
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰; パーミル) で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{AS} - {}^{14}\text{AR}) / {}^{14}\text{AR}] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{AS} - {}^{13}\text{APDB}) / {}^{13}\text{APDB}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、¹⁴AS：試料炭素の¹⁴C濃度： $({}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C})\text{S}$ または $({}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C})\text{S}$

¹⁴AR：標準現代炭素の¹⁴C濃度： $({}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C})\text{R}$ または $({}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C})\text{R}$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の¹³C濃度 (${}^{13}\text{AS} = {}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$) を測定し、PDB (白亜紀のベレムナイト (矢石) 類の化石) の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に¹³C/¹²Cを測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰) であるとしたときの¹⁴C濃度 (${}^{14}\text{AN}$) に換算した上で計算した値である。(1) 式の¹⁴C濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$${}^{14}\text{AN} = {}^{14}\text{AS} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad ({}^{14}\text{AS} \text{として} {}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}\text{AS} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad ({}^{14}\text{AS} \text{として} {}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{AN} - {}^{14}\text{AR}) / {}^{14}\text{AR}] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{14}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

¹⁴C濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon) がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \quad (\text{‰})$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \quad (\text{‰})$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代（Conventional Radiocarbon Age；yrBP）が次のように計算される。

$$\begin{aligned} T &= -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C}/1000) + 1] \\ &= -8033 \times \ln (\text{pMC}/100) \end{aligned}$$

- 5) ^{14}C 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。
- 6) 較正暦年代の計算では、IntCal04データベース（Reimer et al 2004）を用い、OxCalv3.10較正プログラム（Bronk Ransey1995 Bronk Ransey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger2001）を使用した。

(7) 測定結果

^{14}C 年代は、2①区竪穴状遺構1の床面直上から出土した木炭（No.1：IAAA-71786）が $100 \pm 30\text{yrBP}$ 、2①区竪穴状遺構2の床面直上から出土した木炭（No.2：IAAA-71787）が $160 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代（ $1\sigma = 68.2\%$ ）は、No.1が1690～1730AD（20.6%）・1810～1920AD（47.6%）、No.2が1660～1690AD（13.1%）・1720～1810AD（42.1%）・1920～1950AD（13.0%）である。暦年較正年代では時間幅があるが、江戸時代から明治時代に該当する。

参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37 (2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43 (2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43 (2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

附編 2 樹種同定

上野 I 遺跡より出土した柱材の樹種

吉川純子(古代の森研究舎)

一関市の上野 I 遺跡において、近世とみられる掘立柱建物に残存していた柱根が検出された。当時の建築材利用状況を把握するためこれら柱材の樹種を調査した。柱材からは剃刀で横断面、放射断面、接線断面の3方向の切片を採取し、封入剤ガムクロラルでプレパラートを作成し、生物顕微鏡で観察、同定を行った。

柱材は、2①区pp49、pp54、pp72の3試料で、いずれもクリと同定された。

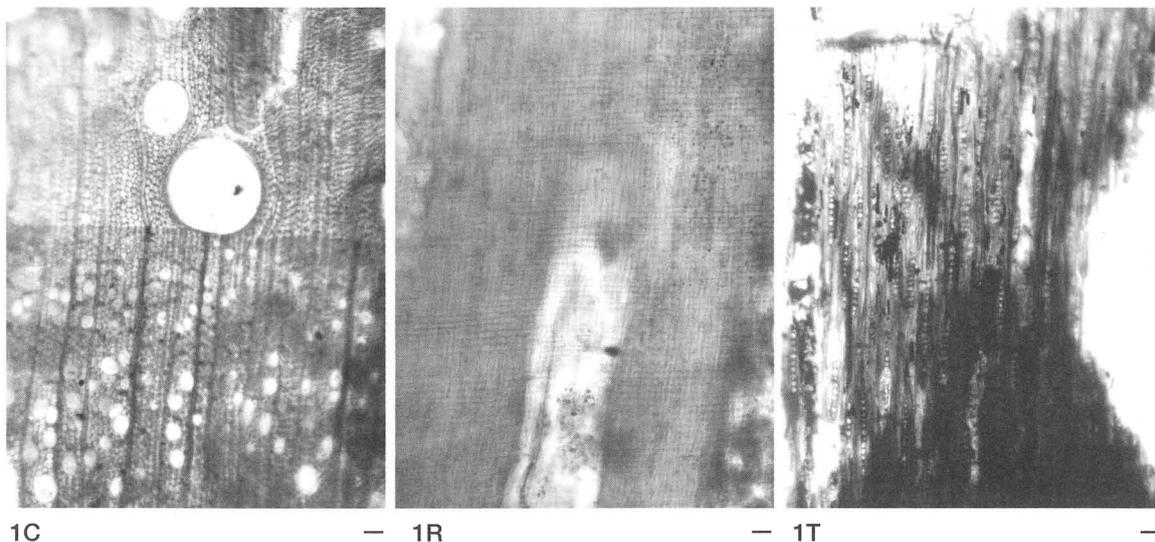
山田(1993)によると、縄文時代以降クリは建築材や杭に多用される傾向があり、関東以西では中世以降建築材の主流は針葉樹材となるが、東北地方ではこの傾向は江戸時代末まで続く。おそらく植生に応じて周辺材を利用していたと考えられる。

以下に同定された樹種の木材解剖学的記載を行う。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) : 年輪の最初に大きな道管が2、3列配列し、その後急に径を減じて小さな道管が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔板は単一で、道管内にはチロースが発達する。放射組織は単列で同性である。

引用文献

山田昌久 1993 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成－用材から見た人間・植物関係史。植生史研究特別第1号。植生史研究会。1-244.



図版1 上野 I 遺跡出土柱材の顕微鏡写真
1.クリ C:横断面, R:放射断面, T:接線断面、スケールは0.1mm

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-71786 #2000-1	試料採取場所：岩手県一関市巖美町字上野229-1 ほか 上野 I 遺跡 試料形態：木炭 試料名(番号)：No. 1	Libby Age (yrBP) : 100 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.30 ± 0.61 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -12.6 ± 3.4 pMC (%) = 98.74 ± 0.34
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -15.3 ± 3.2 pMC (%) = 98.47 ± 0.32 Age (yrBP) : 120 ± 30
IAAA-71787 #2000-2	試料採取場所：岩手県一関市巖美町字上野229-1 ほか 上野 I 遺跡 試料形態：木炭 試料名(番号)：No. 2	Libby Age (yrBP) : 160 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.50 ± 0.99 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -20.0 ± 3.6 pMC (%) = 98.00 ± 0.36
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -23.0 ± 3.0 pMC (%) = 97.70 ± 0.30 Age (yrBP) : 190 ± 20

参考資料：暦年較正用年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)
IAAA-71786	No. 1	102 ± 27
IAAA-71787	No. 2	162 ± 29

ここに記載するLibby Age (年代値) と誤差は下1桁を丸めない値です。

写 真 图 版



調査区全景（南→）



調査区全景（東→）



2②区 (西→)



4①②区 (西→)



3②区 (東→)



3①区重機による表土掘削

写真図版 2 調査開始時の状況ほか



1②区柱穴群（西→）



1②区溝跡1～3（西→）



2①区全景 (西→)



2①区全景 (東→)

写真図版 4 2①区全景



2①区建物跡1・2 (東→)



2①区建物跡1 (南→)



2①区建物跡 2 (南→)



2①区建物跡 3 (南東→)

写真図版 6 2①区建物跡 (2)



2①区竪穴状遺構1 (南→)



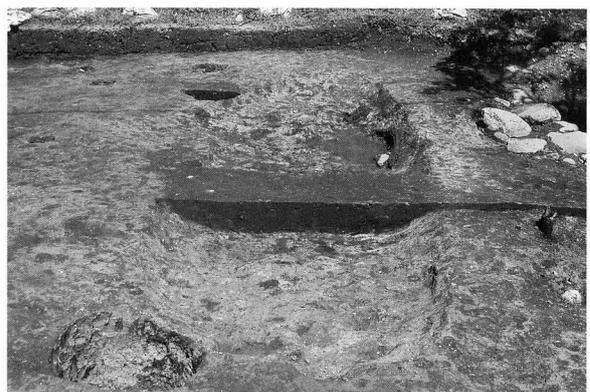
2①区竪穴状遺構1 断面 (東→)



2①区竪穴状遺構1 断面 (南→)



2①区竪穴状遺構3 (東→)



2①区竪穴状遺構3 断面 (西→)



2①区竖穴状遺構 2 (南→)



2①区竖穴状遺構 2 断面 (東→)



2①区竖穴状遺構 2 断面 (南→)



pp49柱材



pp72柱材



2①区溝跡1 南辺 断面 (東→)



2①区溝跡2 断面 (南→)



2①区溝跡1 西辺 断面 (東→)



2①区溝跡3 (東→)



流れ井戸 (廃絶は現代)



2①区溝跡3 断面 (東→)



2①区土坑1(奥)・2(南東→)



2①区土坑1 断面(南→)



2①区土坑2 断面(南東→)



2①区土坑1 完掘状況(南→)



調査風景



2②区東部全景（西→）



2②区 建物跡1（東→）



2②区建物跡 2、柱穴列 1 (東→)



2②区竪穴状遺構 1 (南→)



2②区竪穴状遺構 1 断面 (南→)



2②区竪穴状遺構 2 (南→)



2②区竪穴状遺構 3 (南→)

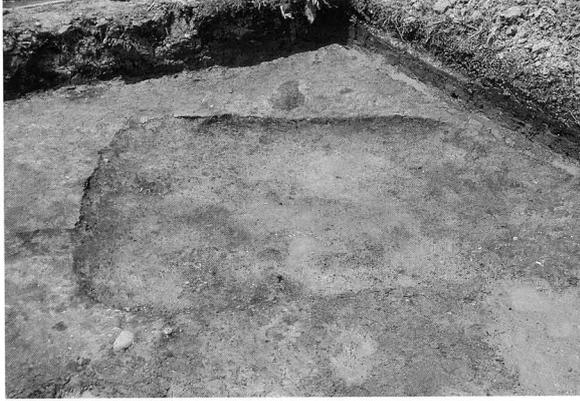
写真図版12 2②区東部 (2)



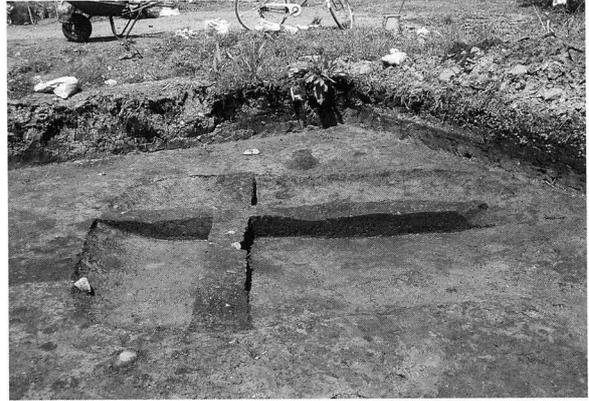
2②区西部全景（東→）



2②区西部西端 溝跡1と柱穴列2（南→）



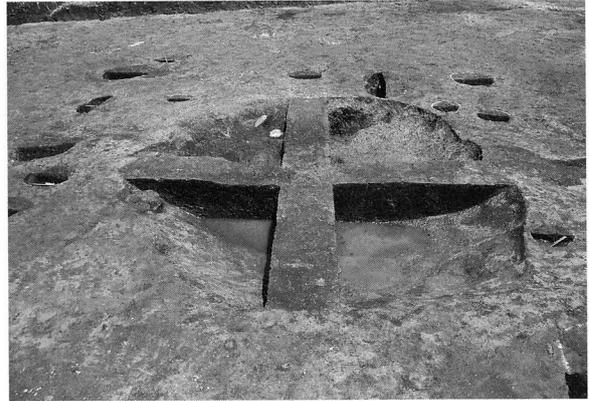
2②区竖穴状遺構 4 (東→)



2②区竖穴状遺構 4 断面 (東→)



2②区竖穴状遺構 5 (南→)



2②区竖穴状遺構 5 断面 (南→)



2②区竖穴状遺構 6 (東→)



2②区竖穴状遺構 6 断面 (南→)



3①区全景 (東→)



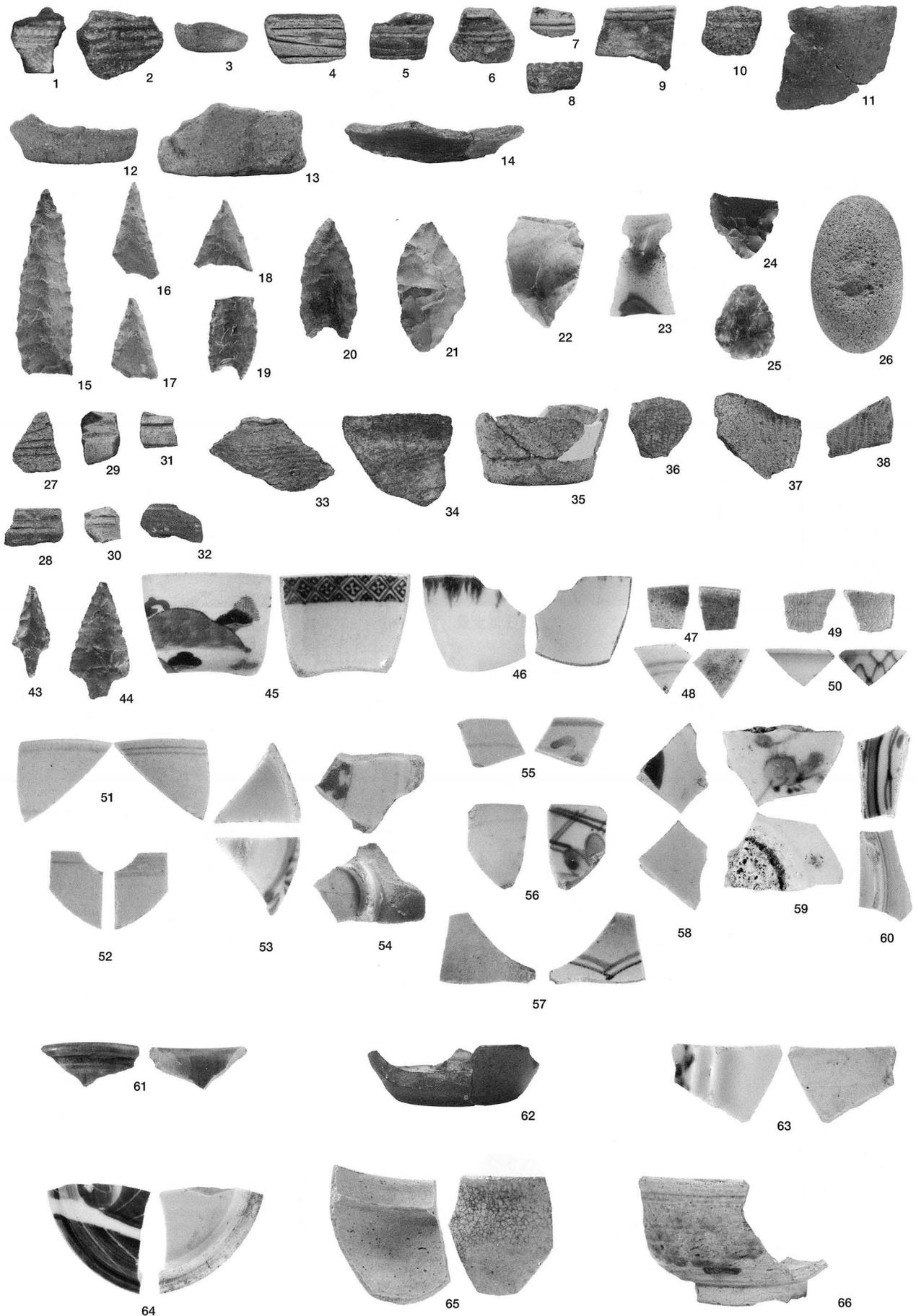
4②区全景 (東→)



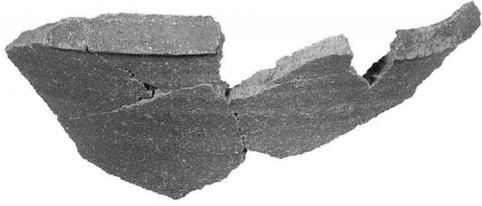
3③区検出状況 (東→)



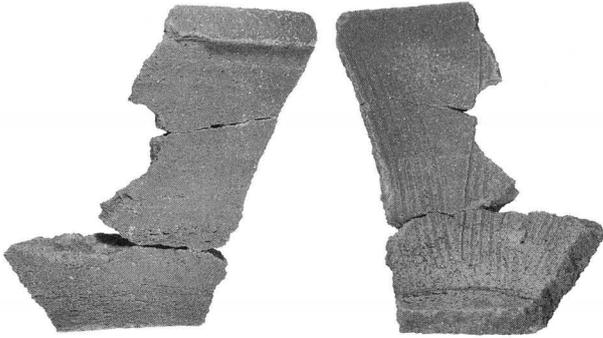
5③区作業風景 (西→)



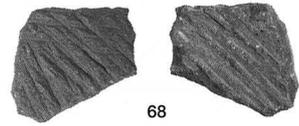
写真图版16 1·2区出土遗物



67



67



68

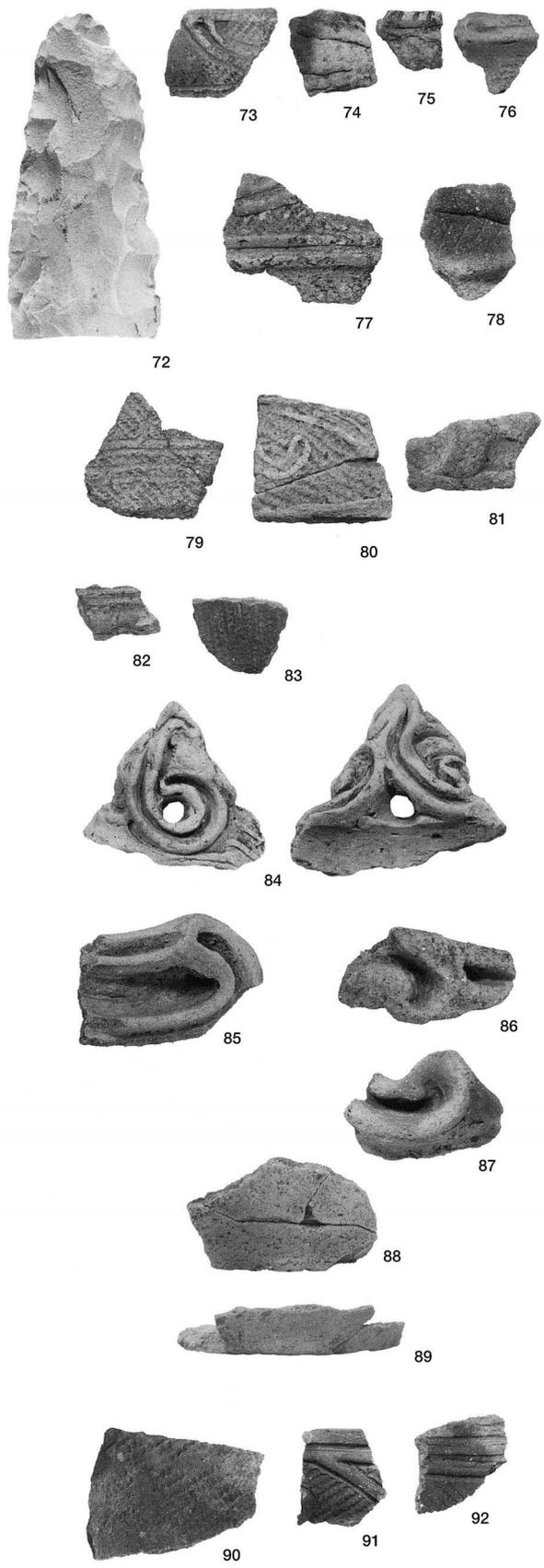
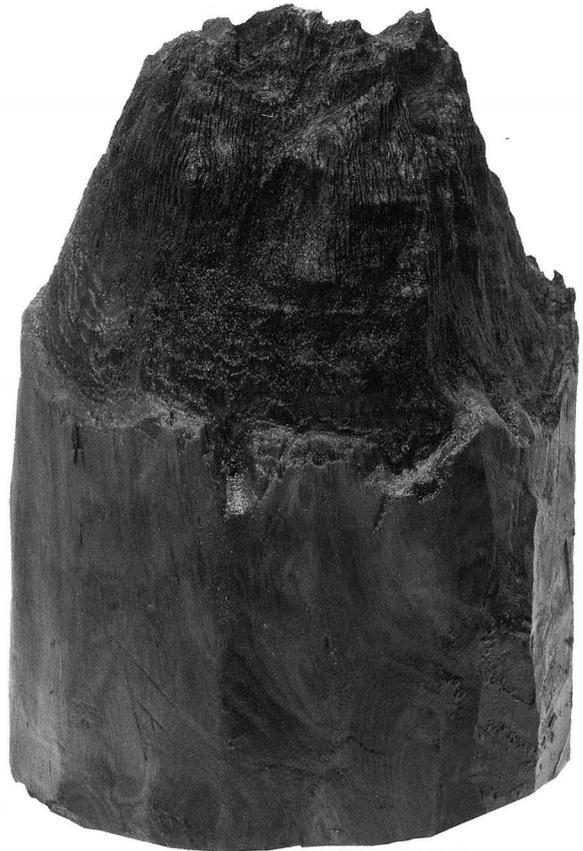


69



70

写真図版17 2区出土遺物



写真图版18 2~5区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	うわの1・2・3いせきはつつちょうさほうこくしょ							
書名	上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書							
副書名	一般国道342号巖美バイパス道路改築事業関連遺跡発掘調査							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第542集							
編著者名	村上 拓・横山寛剛							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2009年2月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うわの1いせき 上野Ⅰ遺跡 うわの2いせき 上野Ⅱ遺跡 うわの3いせき 上野Ⅲ遺跡	いわてけんいちのせきしげん 岩手県一関市巖 びちよ342うわの 美町字上野229-1 ほか	032093	NE95	上野Ⅰ	141度 04分 26秒	2007.04.11 ～ 2007.08.30	上野Ⅰ 3,049㎡ 上野Ⅱ 2,081㎡ 上野Ⅲ 1,381㎡	一般国道342号 巖美バイパス道 路改築事業
			-0181	38度 56分 26秒				
			NE95 -0198	上野Ⅱ				
			NE95 -0186	上野Ⅲ	141度 04分 14秒			
				38度 56分 24秒	141度 04分 09秒			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上野Ⅰ遺跡	散布地 屋敷跡	縄文時代 近世～明治	柱穴状ピット 33個 建物跡 5棟 竪穴状遺構 9棟 土坑 2基 溝跡 7条 柱穴列 3列 柱穴 258個	縄文土器(晩期)・石器 陶磁器(近世末～明治)				
上野Ⅱ遺跡	散布地 屋敷跡	縄文時代 近世～明治	なし 建物跡 2棟 溝跡 2条 柱穴 67個	石器 なし				
上野Ⅲ遺跡	散布地	縄文時代	柱穴状ピット 50個	縄文土器				
要約	調査区東部の微高地で、近世末から明治時代に帰属すると推測される建物跡・竪穴状遺構・土坑・溝跡などからなる屋敷跡が検出された。また調査区最東端と調査区西部で、それぞれ縄文時代晩期と中期の土器が少量出土した。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第542集

上野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書

一般国道342号巖美バイパス道路改築事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成21年2月24日

発行 平成21年2月27日

編集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019) 638-9001

発行 岩手県南広域振興局一関総合支局土木部

〒021-0803 岩手県一関市竹山町7-5

電話 (0191) 26-1411

(財)岩手県文化振興事業団

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号

電話 (019) 654-2235

印刷 有限会社 内海印刷 盛岡営業所

〒020-0875 岩手県盛岡市清水町8-8-108

電話 (019) 622-0288

